



目指せ！自治会の活性化

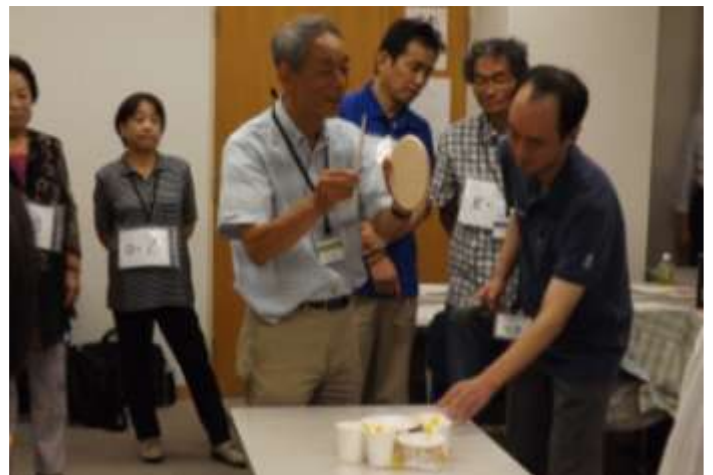
担い手通信

ダイジェスト

「この講座で学んだことを、一つでも二つでも自治会に持ち帰り、活動に活かしたい・・・！」

平成24年度

地域づくり担い手育成講座から





平成24年度「地域づくり担い手育成講座」の様子をご紹介します

長崎市では、地域の若い世代の方に、自治会活動への知識を深め、自治会を牽引する力を身に付けていただくため、平成20年度から「地域づくり担い手育成講座」を実施しております。今年度は、毎回、テーマごとに講義やグループ討議を行い、実際の活動時に感じる悩みや課題を出し合い、具体的な解決手法を探りました。自治会活動のヒントがぎっしり詰まった講座の様子を、是非ご覧ください。

講座の記録

第1回 総論 (オリエンテーション) P 2～20

Chapter 1	自己紹介 (講師)	P 2～5
Chapter 2	講演「自治会とつくる住みよいまち」	P 6～17
Chapter 3	ふり返り (講師)	P 18～20

第2回 イベント「気軽に楽しく」 P 22～54

Chapter 1	「ゲーム大会に学べ！」～人が集まるにはワがある～	P 22～33
Chapter 2	グループ発表『「参加する」ということ』	P 34～45
Chapter 3	まち歩き	P 46～50
Chapter 4	ふり返り (講師)	P 52～54

第3回 加入促進 (グループ討議) P 56～87

Chapter 1	白熱教室 Part I 「市民活動グループと自治会の違いって？」	P 56～63
Chapter 2	グループ発表 Part I 『自治会に「加入しない」理由』	P 64～71
Chapter 3	白熱教室 Part II 『「全員参加」への理想と現実』	P 72～75
Chapter 4	グループ発表 Part II 『「加入促進」そして「自治会活性化」』	P 76～84
Chapter 5	ふり返り (講師)	P 86～87

第4回 大牟田市のまちづくり P 88～113

Chapter 1	大牟田市の取り組み	P 88～100
Chapter 2	グループ討議・発表	P 102～111
Chapter 3	ふり返り (講師)	P 112～113

第5回 役員の話 (グループ討議) P 114～137

Chapter 1	白熱教室 Part I 「役員の話：役員体制・選出方法」	P 114～117
Chapter 2	グループ発表 Part I 「役員体制・役員選出の現状」	P 118～125
Chapter 3	白熱教室 Part II 「次世代を巻き込む」	P 126～127
Chapter 4	グループ発表 Part II 「次世代を巻き込む」	P 128～135
Chapter 5	ふり返り (講師)	P 136～137

第1回 総論 (オリエンテーション)

～自治会とつくる住みよいまち～

Chapter 1 自己紹介 (講師)

CHAPTER 1 自己紹介 (講師)

皆さんおはようございます。

当初、たぶん2分といっても、皆さん5分は喋るだろう (この前に受講生25名の自己紹介あり) と思っていて、実を言うと、ここに **チン♪** と鳴るやつ (ベル) を持ってきてたんですけれども、ちゃんと2分以内におさめてお話しいただいて、予定していた時間より早くなりました。その場つなぎじゃないですけど、すこし私のことを話してもいいかなと思ひまして・・・。



私は、生まれは神奈川県横須賀という所です。皆さん多分、横須賀っていうと、米軍基地の方で、どぶ板通りとか、そちらを多分イメージされるかと思うんですが、実は私、葉山の御用邸の近くで湘南ボーイをしてました。(会場笑)・・・あ、一応つかみましたね、大丈夫ですね。この**ギャップ**というところがですね、つかむ。女性の方、ちょっとまだおびえてますか・・・大丈夫ですか？さっきちょっと、結構プルプル足が震えておりましたけれども、大丈夫ですか。

あの、何というんですか・・・昨日も実はある会議で、16人位集まるような会があって、そこに行ってきたんですけど。じつはそのメンバーの半分くらいが女性で・・・結構女性の方が沢山いらっしゃいました。

私も色々な地域に入っていて、その中の1つ、ある地区で、いわゆるセカンドライフという形のことをやっておりまして。その時に、お兄さんたちがたくさん来られるんですけども。やはり中々、地域にコミット (関わる) というか、関わり方が、さっぱり分からない、ということをおっしゃる方がいました。

それはどういうことか？女性の方というのは・・・例えば、県外から来られた方が地元で馴染むためにどうするかと言うと、子供を介しながら、例えばPTA活動なんかをしながら、地域の中に馴染んでいく。ところが男性の場合というのは基本的に、私もそうですが、外へ出て行っちゃうので、なかなかコミットするようなそういう場が、中々無いんです。改めて、じゃあ、どう一歩を踏み出したらいいいんだろうかという話です。

で、しかも大抵の場合、変な話なんですけど・・・そういう方っていうのは、今までのキャリアを全部背負ってきて、そのまま地域に入れようとしてますよね、基本的に腕組みして。「うーん、その話は甘いな」って感じで、やられちゃうんですよね。そうすると、女性は「ひっ」とかいう感じで、エビのごとく下がってってしまう・・・。



実はそこで、市民のまちづくりみたいな・・・ランドスケープ (景観)、いわゆる風景なんかを考えるのを「まちづくり」と言うんですが・・・最初のころはそういう雰囲気がちよっと強かったので、女性グループと男性グループに分けていたんです。じゃあそこで女性の意見というものがどういうふうな意味を持つのかということになると・・・。

実際、地域活動をやっていくときに、色んなところを見て・・・やはりひとつは、その地域というものが誰によって構成されているかということを考えていくと、たとえば子供から、いわゆる高齢者まで、そして男性も女性も、さきほどありましたが、外国人というか、いわゆる海外の方もいるというような。そういう、実際には色々な多種多様なもので構成されているということですね。その中で、多種多様な中で1つの目標をどうもっていくか・・・非常に価値観が多様化している中ですから、非常に難しいんですよ。

逆に言うと、変な言い方なんですけど、ある一定の、高齢者だけで構成されるとか、となると、目的が絞りやすいということも、逆に言うと、あるんです。そういうところなんかを、できれば、この会の中で・・・色んな方々の中で色んな地域があるんだということを知っていて、実際は共通している課題というものはあるけれども、じつは、本当は、個々のそれぞれの地域の個性というか、そういうものによって出てくる課題というものも、本当は結構重要な部分が、多分あるんだということです。

それである・・・私の雰囲気というかですね、あんまり堅くしてやりたくないですよ、こんな人間なもんで。それでですね、学生にも言うんですけど・・・「勉強」っていうのはやめてくださいって言うんですよ、それはなぜかという、「勉強して強いる」ということになってしまうので。むしろ「学ぶ」というようなかたちのなかで、「学習」・・・要するに、興味関心をもって、それが「何でなんだろう」というようなことを追求していくような形で、この雰囲気をつくっていききたいなというふうに思っています。

あの・・・何というんですかね。ここで大事になってくるのは多分「どうしてなんだろう」「分からない」というものを率直に出すことだと思うんです。で、他の人が「いや、それは、僕はこういう風に考えるけど」「私のところはこう考えているんだよな」というように、情報交換をしていくような形になっていけばですね、多分、何かを持って帰ることができると思うんですよ。

特にこの講座では、何か1つでも皆さん方が、自分の地域に持って帰るものが得られる・・・そしてそれが1つ、2つ、3つというふうに多くなっていけばいいなと思っていますので、是非、気持ちを楽しんでください。正直、私も頑張るのは嫌いですが・・・頑張るとですね、最初のスタートダッシュはいいんですが、後はずんだれるんですよ。



実際、まちづくりとか言って、結構私も地域に長く入っていて、小値賀に17年ぐらい、それから対馬も20年ぐらいになりますけれども。そんな感じで、最近では式見の方にお邪魔してまして、3年目になります。先日ペーロン大会が式見のほうでありましたけど、実は私、指名手配みたいと呼ばれてましてですね、



今回の募集でたぶん顔写真がついていたこともあったと思うんですけど。実はペーロン大会に参加するのに、12~13人の学生を連れて行ったもので、ちょっと目立ちちゃったらしいんですね。「いったい何なんだ」という話になって、「あの若い衆をいったいどこから手に入れたんだ」となって、どうもウエスレヤンの佐藤らしい、と。佐藤といえば、なんかこの前、顔写真で指名手配みたいに出てたぞ、という話になって、歩いていると「佐藤 佐藤」とか言い出してですね、「何ですか？」て聞いたら、「あんた誰？」とか言われて。「何かやっちゃったかな」と思いましてですね。

実は長崎市の自治会に関してはですね、2008年に自治振興推進大会での講演を頼まれてまして。ところが、前のかたが結構押してて・・・確か、伊藤市長が次の市長選に出るか出ないかという問題と、市職員の事件の問題とかがあってですね。私、当初予定されていたのが45分だったはずなんですけど、実質的には20分で喋れとなりまして。前座としては本当に駆け足の20分でした (笑)。

あと、長崎市の方では、公民館の利用審議会っていうやつを昨年までさせてもらって、橘のふれあいセンターとかも視察をしました。そのときの関連の中で、自治公民館の運営というところで、話もさせていただきましたので、ひょっとすると、割と、自治会の会長さんと公民館を兼ねているというところでは、お見知り置きを頂いているのではないかなと思います。

まあ実際、地域に入っていくと、すごく大事だなと思っているのが、やっぱり「生活者の視点」というのがあると思うんです。さっき言ったように、多様な人たちで構成されて、そこで人々が生活というものをしている。で、実を言うと、さっき難しいお題を頂いたなと思っているのですが・・・「いい自治会とはなにか」というような話が出たわけです。

「いい」ってなんでしょうね。今、私が言おうとしているのは「住みよい」とかそういう話をしていくということが、一体どういうこと意味するのか。先程言ったように、色々な価値観がある中で、それをどう、「いい」ということばで表現していくのか。

たぶんその辺を、私が皆さん方に「教える」というのではなくて、皆さん方の意見の中で、「こういうことじゃないか」というのを出来るだけ出していただきたいと思います。

ちょうど、予定していた時刻ぐらいに来たんで、この辺で自己紹介を終わります。

ありがとうございました。

「自己紹介 (講師)」 終了

Chapter 2 講演

「自治会とつくる住みよいまち」

長崎ウエスレヤン大学 佐藤快信 氏

(テーマ) 省略された言葉を考えてみよう

(配布資料)

自治会とつくる住みよいまち

まず今日はですね、最初に皆さんにやらしてもらおうと思うのは、このタイトルを見て、どう捉えられたか。その辺のところから始めたいと思います。

実は、このタイトルというのはですね、ちゃんとした文章で作ると長くなりますので、結構省略してあるんです。で、この省略した言葉って何があるかな？ってところを皆さんに付け加えていただきたいと思います。

単純に言うと、文には「主語」「述語」「目的語」っていうのがあるんですね。で、それを踏まえて、正しい文章を作ってくださいということなんです。

例えば・・・

「私は ケーキを 食べます。」

性格出ますね、ケーキが出るって（フッ）お分かりいただけますか？

・・・あの、反応がないんですけど（汗）

学生にも言うんですけど、時々授業で私が暴走したりして・・・1人になってしまうと、**寂しい**と率直に申し上げます（会場爆笑）。

実は、一番大事なのは「主語」なんです。

「主語」というのが一体何なのか、ちょっと考えてみてください。

では・・・始め～！！

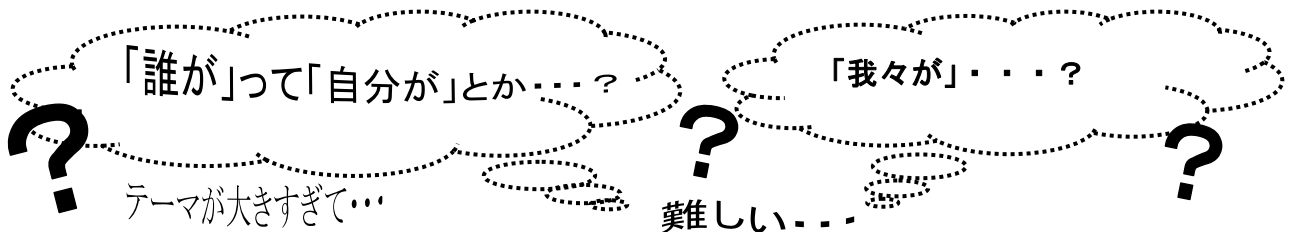


「・・・・・・・・」



「!? !? !?」

あれっ、割と・・・シンプルと思っていたけど、意外にハードルが高かったのかなあ。
思ったやつをとりあえず出してみてもいいかな。変な話・・・正解って特にないですよ。



(受講生) あの一例えば、「住み続けたいと思えるまちづくりを目指す」とか、そんな形でもいいですか？我々は、「子ども達にはふるさとを 大人達には郷愁を」というのに取り組んでいます・・・。先程の話にもあったように、今度は年取っていきますから、「心豊かな老後を送れる」そういう町にしたい、という風なことを書けばいいですか？

(受講生) 住みよいまちにするためには、自治会だけじゃなくて、地域の育成協とか民生委員さんとか、そういう人達と一緒にやらないと、住みよくなるかな、と思ってます。自治会だけじゃできないですもんね・・・。

(受講生) 住民同士で互いに声を掛け合える「住みよいまち」とかですかね。

あの～、段々、ここの受講者の・・・あれってというのがわかってきたかな～（笑）
僕も皆さんがどんなだか、手探りで、探りながらやっていくんで。
結構先走っちゃう方がいるみたいなんだけど、単純に「自治会とつくる住みよいまち」ということが何かということを書きで考えてみて。

で、そこに、どういう主語が入ってくるかをみんなで色々考えてみたい。

「住みよい」という具体的なものが進んでいくと、具体的に住みよいてどういうことかって話になるんですけど、まず最初は「主語」、例えば「地域住民」とか書いてもらって、あと、それぞれ出して欲しい。

（受講生）主語は・・・ものすごく多いんじゃないですかねー。
市役所も入るとやろうし（笑）。

とりあえず、それぞれの中で考えていただいて、後で（意見として）出していただく。
まず、書いていただくっていうのが大事です。

（受講生）先生の意見ば、ちょっと教えてくれんですか（会場爆笑）。

そ、それは、私は・・・私がありますよ！

でも、それを言っちゃったら「シャンシャン」で終わっちゃうじゃないですか（会場笑）。

あのう、変な話なんですけど、ここは皆さんから色々出てくる主語っていうのが大事だと思うんです。で、結局、自治会とか意識とか立場の違いで、出てくる主語が違って来るはずなんですよ。それを見たいし、確認したいんです。

だからとりあえず、それぞれ主語となるようなものを書いていただいて、思いつくものを書いてもらいたい。

そうすると、「そういうものもあるんだ」という話なんです。

たくさんあるなら、たくさん書いてもらって構わない。

「これだけが正解だ」っていう、1つのものは無いはずなんです。

それじゃあ、思いついた「主語」、誰か出してくれますか？

- | | | |
|-------------|------------|-------|
| ・みんな | ・他団体 | ・団塊世代 |
| ・私たち | ・自治会員 | ・町民 |
| ・住民 | ・子どもたち | |
| ・消防団 | ・ボランティア | |
| ・学校 | ・自分が、私が | |
| ・地域住民 | ・私の知らない誰かが | |
| ・共に暮らしている人達 | ・地域の皆さん | |
| ・世帯全員 | ・老人会 | |
| ・公（市、県等） | ・育友会 | |



「私の知らない誰かが」(笑)・・・それは今日のキーワードかな。
自分のことで精一杯なので「私が」・・・(フムフム)。

(受講生) 先生の狙いの切り口がよく見えないんだよねえ。

(受講生) 「住み良いまちと」いうものの理解によっては、「誰」っていうのが変わると思うけど。

だんだん面白くなってきた。雰囲気的に言うと、この会から離れられなくなってきた(笑)。

(受講生) 住み良いまちの概念っていうのが、どんなもんなのというのが、一般的には、先程出た「古里を～」っていうのでいうと、そういう主語が出てくるし、全く違う見方をすると全く違う主語が出てくる。

(受講生) 自治会とは、自治会の総体、つまり会員を含めた組織全体を言っているのか、自治会を運営する執行部を言っているのか、考え方を分けないといけないなあ〜と。

それによって、主語も変わってくる。じゃあ例えば、総体としての自治会だと・・・。

(受講生) 「自治会会員が」っていうのが主語になりますね。

で、執行部となると・・・。

(受講生) 会長を始め、ここにいらしてるような、役員の皆さんが何か努力しないとイケない・・・っていうようなイメージですね。

そうすると2つ問題が出てきましたですね。

(別の受講生) あの一、主語とは関係ないかもしれないが、見方を変えると「自治会抜きには、住み良いまちはない」という風に思ったんですけど・・・(うんうん)。



(受講生) 自治会会員という形で固めないで、そこの地域、自治会員であろうとなかろうと地域に住んでいる住民は全て「住民」と、私は称したい。そこで2つに分けられちゃうと、自治会の中身というものが少し変わるかもしれない。

(受講生) 「住み良いまち」というと概念が広いじゃないですか、すごく。その前に、誰とどういうまちを作っていけば、本当に「住み良いまち」になるのか、一言では表せない。

(受講生) 「住み良いまち」というのはどんなことを言っているのか、分析しないとイケないね。例えば、セキュリティのしっかりしたマンションに住んでいる人が「住み良い」と思っているのか？ 思っているかもしれないしね。「自治会とか、煩わしいものはいらぬよ」とか、その方が「住み良いまち」と考えている人もいるかもしれない。一般的には、「安全安心なまち」と言葉では言うけれども、安全安心とはセキュリティがしっかりした所に住んでいる方が安全安心かもしれない。僕はね・・・「住み良いまち」とは息苦しくないまちだと思うんだけど (会場笑)

今日は、何か答えを出そうとかいうつもりは一切ありません。

あと、この講座は5回あるけども、その中で皆さんがどの辺に関心を持っておられるか、っていうのを探りながら・・・だから今日は、皆さんと僕とがコミュニケーションを取る場っていう位置付けです。

あの・・・今言った「住みよい」＝「息苦しくない」って・・・(笑)。

ちょっと話がデカくなっちゃうけど、さっき言ったように、言葉というのは立場によって、結構捉え方が違って来る訳です。私達が実際地域に入って、「こんなことやりましょうよ」といった時に、それぞれパーソナルで捉え方が変わっているということが分かったんです。今日も色々な立場とか、自治会経験の豊かさ、その積み重ねによって、イメージしているもの自体が変わってくる。実際それが、私達の・・・例えば自治会役員の立場だったら、「何で自分達の想いが伝わらないのか」という時のミスマッチが起きている可能性が高い。

今日の話でも、自治会というものを「組織としての総体である」という見方と、「自治会役員のイメージである」という、2つの見方があるってこと。これを前から意識してた人、います？・・・あんまり、そんなこと意識してなかったんじゃないのかな。

(受講生) (小声でボソッと) してませんでした。

ありがとうございます。素直に言っていただいて (会場爆笑)。

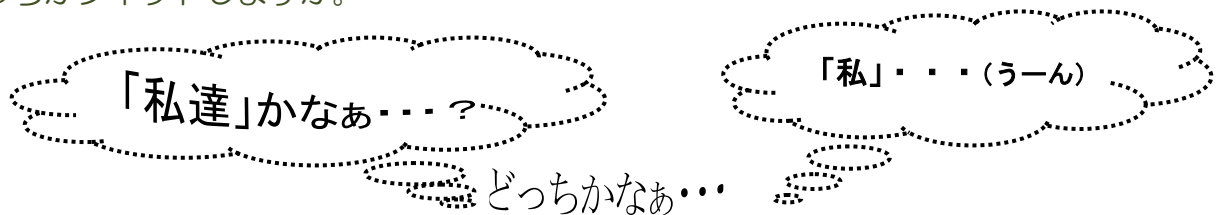
やはり、これは昔で言う「しゃべり場」みたいな所ですので・・・。

で、当然起きてくるんです。最近、「多様化」なんて曖昧な言い方してますけどね、自治会というものを意識している人としていない人とか。自分が住んでいる町が住み良いとかそうでないとか、考えているか、考えてないか・・・住民は多様なんですよ。で、実際私も、まちづくりで何かをやって、しっぺ返しを食うことがあるんだけど、自分が「こういう想いで作った、こういうことをやりましょうよ」といった時に、「何でそれやるの？」って言われることがある。

こういった一つずつの「擦りあわせ」ということについても違うし、さっきの「主語」の問題についてもそうなんだけど・・・。これ・・・「住民」と「地域住民」って何か違いがありますかね？

(受講生) 「住民」と「自治会員」が一緒になってしまってるんじゃないかってことで、「地域住民」という言い方をした。「地域住民」っていうのは自治会に入っていない人達も含めるってこと。

ちょっと今日は、あちこちに話が飛ぶかも知れないけど・・・皆さんどうですかね。「私が」っていう1人を指すのと、「私達」という複数の人を言うのと、その辺、皆さん、感覚的には。どちらでも取り方はあると思うけど・・・。どちらがフィットしますか。



結構、これはディープで面白い話になるかも(笑)。実は「私」なのか、「私達」なのか・・・どうでしょう？

(受講生) あの一、少なくとも「担い手」に出席されてる方達は役員をされている方が多いんでしょうから・・・「私」っていうことは、あんまり考えんとですよ。「私達」・・・つまり「地域」ってことで考えますから。「私が」って風に考えると、「住みよいまち」に関する悩みも、もっと細分化していくと思うんですよ。「私は福祉の行き届いた町がいい」「私は犯罪がない町がいい」ってことになれば、関連機関が何かも全然変わってくるし。少なくとも「公」と「私」ということを考えれば、皆さん「公」の立場で地域を見てらっしゃるということで、「私が」っていうことは・・・私の場合はあり得ない。

(受講生) 私は「自分に何ができるか、何がお手伝いできるか」という感覚です。それで「私が」になった。結局、世界の捉え方が・・・「自分」からしか捉えられない。じゃあ、地域のかた、社会のかたに対して、「自分が」何をできるか、という感覚です。

CHAPTER 2 講演「自治会とつくる住みよいまち」

あのー非常に難しい部分がある。こういう議論をする時、立場の問題がありますね。それによって「私」なのか、「私達」なのかも違ってくる。

この問題は6回の講座で解消されるかどうかという不安もあるんだけども（笑）。

と言うのはですね、どの目線で考えてるかっていうのが・・・。

実は今回のメンバー構成も結構、多様なんですよ。

確かに役員の方も多いんだけども・・・先程の役員の方の話に出てきてるのが、役員以外の人達も仲間になって欲しい。で、その人達ってというのは「会員」でもあるんだけど、実はまず、「個」として存在している。

そうすると、キャッチボールのように投げ合うような形の「擦り合わせ」が出来ないと、いつまでたっても自治会に会員を増やそうとしても出来ない。

なぜかという、会員でない人、または、会員であっても役員にならない人達がいる。

その側に立ったときに「自分」がどう写っているのか、という「他者評価」っていうのが重要になってきます。



その辺・・・自治会とか、まちづくりとかいう言葉は、実は非常に曖昧なんですよ。それが基本的にどうあって欲しいかは、そこに住む個々、それぞれの多様な価値観をどう集約していくか。

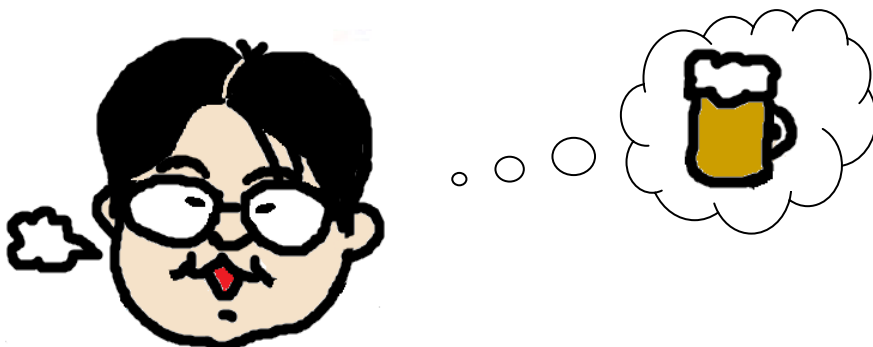
そこで最近、ダイヤモンドあたりが面白いことやられてる。地域の「強み・弱み」みたいな話を持ち込んで、そこで、皆が考える「総体」としての方向性を作っている。詳しくは、どこかでまた、喋るチャンスを作っていきます。

もう1つ言うと、「私が」ということと「共に暮らしている」というところですね。皆さん方の地域で考えてみると、地域というものはどんどん変化してきていて、昔は職場と寝るところが一緒だったけど、だんだん離れてきた。いわゆる「ベッドタウン」という言葉が生まれてきた。端的に統計的なデータでいうと、昼間人口と夜間人口の差を見ると、例えば東京千代田区で見ていくと、昼間の人口は多いけれども夜間の人口は少ない。夜だけ見るとデッドタウン。それがオフィス街の特徴。

実際、地域との関わりを考えると、私達の生活の中で、一日にどれだけ地域と関わる時間があるかどうか。単純に、普通に働いている人だったら、朝8時には出勤で出て行って、残業があれば夜9時位に帰ってくる。しかも残る11時間には寝る時間も入ってますから。で、しかも、帰ってきて・・・どこに行きますか？「ちょっと酒飲みてーな」って感じで、冷蔵庫開けてみたら「ビールがねえじゃん！」って言って、近くのコンビニに行く。まあそれぐらいでしょうね。と言うと、実際の地域の中で、平日で考えてみると、地域と関わる時間はかなり薄くなってきている。じゃあ、土日があるじゃないか、週休2日制だし、といった時に「どうなのか」と言う、「疲れた」とか「あ、今日は寝坊していいんだ」とか言って、休みが過ぎていく。

だから、そういう事でいくと、さっきの「私達」「共に暮らしている人達」というのは、実は、地域の年齢とか性別構成によって、そこに住む住民の本質的なパターンというのが違ってくる。多分、ダイヤモンドも「ベッドタウン」だもんね。

で、大体「ニュータウン」といわれる地域は、家を買う同じ位の世代が集まって街を構成していった。共に生活のリズムというか、パターンを構築していった、子どもが大体同じような年齢で上がっていった、卒業して都市部に就職していった、気付いたら高齢化。そういう形の中の、それぞれの地域が持つ、もっとベースな部分の年齢構成は重要な要素となる。実は、その辺あたりというのが、「自治会」とか「住み良い」とかを考える時に、データとしてきちんとしておくことが重要なんだと、最近特に思います。



で、自分達の地域が「住みよい」とは何かって・・・実は好きだから住んでるんだよね。なんだかんだ言っても。それぞれの価値観等があるけれども、その中で、「何とかもっと良くしたいな」「ほんの少しでいいから良くしていきたい」という気持ちがあるかどうか。その時の気持ちの大きいポイントって、実はそこが「好きだ」という、住んでいる所に対する愛着みたいなものが重要なはずなんです。

だから「子ども会」とかで、小さい時から「あの小父ちゃんと話して、こんな事やったな」という経験をして、また子ども達が大きくなって「俺達がまたやらねばね」と思うようになる。

実際、私が地域に行き、アラフォー世代（40代）とかと話してみると、大体出てくるのが、「自分の子どもの世代にとって、どういう町であって欲しいか」という話。

自分達の姿勢がよければ、自分達の体験とかをどうにか、子ども達に引き継いであげたい。そういう町を作ってあげたい。そういう意見があります。

「住みよいまち」も、それぞれの立場によって変わってくるってことです。

実は今日、皆さん方に「最初からちょっと難しい」と話になって・・・そうだったかな、と思ったんですけども。私はごく単純に考えていまして。皆さんから出てくる言葉が「私」とか「住民」とか「市民」とかいう言葉が最初出てくるかなと思ってました。

で、組織体であろうと何であろうと、組織を構成するそれぞれの「個」というものが出発点なんです。色んな「絆」とか「コミュニティ」とかについて、皆さん方が話しているのを聞くと、「世帯」という考え方が根底にある。で、実は「世帯」というものを構成しているのも、それぞれの住民の「個」なんです。それが血縁関係であれば「家族」という形になって、それを「世帯」と呼んでいる。

「地域」というものをドンドン皮をむいていくと、そこに何ががあるか。原点的には、そこに住んでいる一人一人の住民というのが存在する。そこから、組織というものが構成されて、色んな活動をやっているということが言える。そこをちょっと意識しておかなければならない。

したがって、組織体とか、そういう話も勿論大事です。そこでいくと、「私が」ということの話の中で、さっき言った「関心」とかそういうことを「誰に対して」「何に重きを置くか」、まさにその辺で「住み良い」ということが変わってくる。

それぞれの立場によって「息苦しくない」ということも・・・。

「住みよい町」というのは、実は非常に難しいんですよ。

私、もう一つテーマとして出そうと思ってたのが、「住みよい・暮らしやすい」というのを実は考えていた。皆さん実勢経験が豊富なんで、「住みよい」ってだけでもたくさんの意見が出ちゃったんだけど。単純に「住みよい」というのと「暮らしやすい」という大きく2つの分け方でいくと、さっきの「安全安心の話。セキュリティがしっかりしてる、

つまり「利便性」という考え方と、「住んで良かった」と思えるかっていうのは、実は違う価値観に基づいている。その、「利便性」というのは、確かに楽でいいんだけど、実は、人との接触をなくしていくことにもなる。

「まちづくり」という視点で見ると、元々は不便であるが故に、相互扶助が生まれてきた。例えば、公民館や自分の家で葬式をやってました。それが産業になって斎場ができた。お母さんが「大変だった！葬式があると皆で炊き出しして・・・(*o*)」なんて言いながらやってた。だけどその時に、「お前の母ちゃん元気か」「爺ちゃん元気か」という話が出て、それぞれが認識することになって、「じゃ、今度何かしよう」と話になった。

最近、私が諫早の森山町でやってる「防災・減災」というワークショップがあります。そこで出た1つの問題っていうのが、自治会長さん達が知ってる情報は、他に漏らしちゃいけない情報なんですね。「個人情報保護」という・・・。単純に言うと、寝たきりの方、認知症の方が地域に居るってことが分かっても伝えられない。

そのワークショップで何をやってるかって言うと、その個人情報を、自分達の小さな班の中で、「爺ちゃん婆ちゃん元気か」と話をしてあげますね・・・本人がしゃべってる話などで、問題ないですね。その中で、ごく普通の話として、情報を出し合うワークショップなんです。そうすると何かあった時に、「じゃあ誰が、その母ちゃんをしょって行くか」・・・そんな話だったら出来るから。

ですから、色んな意味で「個」というものが守られてる流れの中で、今言った自治会の姿、色んな形というのをやっていこうとする、もう一つの（逆方向の）動きがある。

その中で、これからの自治会という一つの活動を中心としながら、地域を、町を、どう盛り上げていくか、というのが大きい壁としてある。

「まち」という言葉だけでも難しい、掴みにくいよね。「まち」と言っても、色んな字（街、町、まち等）があるでしょ。商店街なんかがよく使うのは「町づくり」。都市計画の分野であれば「街づくり」。住民運動とかやってる時に使うのは「まちづくり」。それぞれの立場で「まち」の概念も違って来る。その時に面白いのは、それぞれの主体というか、「主語」。「誰がまちづくりをやるんですか？」ってことによって、「まち」の字は違ってきます。

さっきの話に戻るけど、それぞれの立場によって「主語」が変わってくるし、これ！という正解も、実はありません。それはなぜかって言うと、こういうことに深く関わるほどに、その概念は広がっていくし、それぞれの立場によって違って来る。

今回の講座では、自治会に入っていないとか、自治会の役員をやってくれない、とかいう人達を含めた中で、改めて、自治会を軸にしながら、どういうまちをイメージしていくか・・・そのための、色んな情報を皆さんと共有していきたい。

「講義」というものを、私はあまりしたくないんですね。一方通行になってしまうから。こうやってグルグル廻りながら、やる日もあったり・・・。
まあ、今日の雰囲気で行くと、できればグループ分けして行って、自分の思いの丈を話してもらった方がいいのかな（大きく頷く受講生）。そうすれば、Aさんはこんなことで悩んでいるのかとか、そんな風に捉えているのかとか、そういう意見交換が出来るから。そういうものを共有していくことが遠回りのようだけでも、実は近道。

出来るだけ・・・私が喋るというよりも、皆さん方が語る時間を多くしていきたい。今日は勘弁ね。ちょっと物足りないでしょ・・・今日、物足りなかったって人！

～（数名が大きく挙手、場内爆笑）～

ちなみに、私の講座の特徴は、必ず「欲求不満で帰す」!!（笑）
なぜかと言うと「また次に来て、喋ってやろう」という気持ちになる（場内苦笑）。

今日・・・「もう、よかばい」という人。「もう次回は、いいよ」って人。

～（若干名が挙手）～

えっ、もういいの（汗）・・・ちょっと待ってよ（大爆笑）。

ね、次回も来て・・・

（受講生に駆け寄り、口説きだす佐藤先生）

佐藤が1回でスベったってなったら・・・私アウトですから（笑）。
あの、こちら（自治振興課）の・・・次長も来てるのに。

でも皆さん、あとでプリントアウト（担い手通信）見て分かりますよ。
たかだか、この45分の間にこれだけの、すごい深い話してるんですよ。
それを今後、出来るだけディープにしていきたい。

じゃ、終わります。ありがとうございました（拍手）。



講演「自治会とつくる住みよいまち」終了

Chapter 3 ふりかえり (講師)

第1回は、お疲れ様でした。

最後に配布した資料で抜け落ちていた部分があります。自治会の3つの役割の3つ目が抜けていました。それは、以下の部分です。すみませんでした。

(3) 助け合いの精神と実践

一人暮らしや寝たきりの高齢者、身体不自由な人など、地域にはさまざまな不安を抱えて生活している方が、数多く存在する。そうした方々への隣近所同士の声かけや助け合いなどで、不安が和らぎ安心した生活を送ることが可能となる。これらは人と人のあたたかい心の通い合い・ふれあいから生れるものであり、自治会はこうした助け合いの精神を形成するうえで大切な役割を担っている。

こうした「お互い様」ってことが希薄になってきてしまいました。

「もったいない」のように、日本の外から評価されると違うのかもしれませんが。

ところで、私は、これまでコミュニティ開発の視点でまちづくりに関わってきました。その視点では、**まちづくり**の定義はそれぞれの立場などによって様々ですが、それらに共通していることは

地域住民が、主体的に地域課題を把握し、その解決策を企画・実践していく過程と行動のこと といえます。

この「地域住民」は、活動形態から見ると複数の住民で組織された団体・グループです。

第1回で「誰が」といった中で皆さんから出された

・ 他団体

(民生委員、育成協、消防団・学校・医療機関、老人会、育友会)

や

・ 市民活動グループ

などもそうです。

しかし、こうした組織化された団体・グループが必ずしも地域を代表するものではなく、活動する地理的範囲も様々です。しかし、前回の配布資料にあるように自治会は、歴史的にも古くから組織化された地域を代表できる住民組織といえ、まちづくりを担うなかで重要な存在です。

「地域を代表できる」とは、自治会の本来の性格から地域に居住する住民すべて…

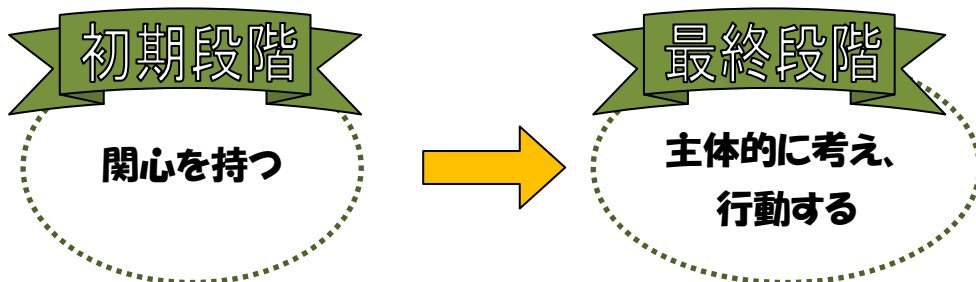
- ・ 幼児から高齢者
- ・ 男性や女性
- ・ 障がいのある人やない人

様々な人たちによって構成されるメンバーが、基本的に自治会に加入していることにあります。

しかし、現実的には自治会加入率は年々減少傾向にあります。

そのため、加入していない人たちのフリーライダー、多様な住民をまとめ上げていく難しさなどが課題としてあります。

まちづくりに関わっていると、「参加」が意識されます。自治会でしたら、「加入」、そして活動への参加ということになります。まちづくりの場合、「参加」の程度は、関わりの度合いによって、段階があるといわれています。



この初期段階の「関心を持つ」が、一番難しいところでなかなか関心を持ってもらえません。そのために、活動などの情報を伝える(情報の共有)ことや「参加」できる機会を多くすることがされたりします。既に、皆さんの中には実践されているところがあるかと思います。

そうした実践のお話もしていただきたいですね。

では、第2回でお会いしましょう。

「ふりかえり (講師)」 終了

第2回 イベント「気軽に楽しく」

～参加するにはワケがある～

Chapter 1 「ゲーム大会」に学べ！

～人が集まるにはワケがある～

進行：長崎ウエスレヤン大学教授 佐藤 快信氏

指導：城山南部自治会会長 古賀 信恕氏



皆さんおはようございます。

今日は「人が集まるにはワケがある」ということで。

“参加してもらおう”ということは、加入を含めて、すごく大事なことです。

今日はちょうど、オリンピックの開幕式ですが、

昔はオリンピックも「参加することに意義がある」なんて言われてました。

まずは、オリンピックと同じように、皆様方にゲームに参加していただいて、最終的には、こうした行事に参加してもらおうための「秘密のドア」・・・その辺を古賀会長から出してもらいたい。それからまた、皆さん方のグループ討議の中で、情報交換を含めて、お話しいただきたいと思ってます。

まずは古賀会長の方から、2つのゲームを用意していただいています。

一つは「お手玉ゲートボール」っていうのと、もう一つは「羽子板バスケット」。

今日は皆さん方に、チームに分かれていただいています。

各チーム対抗ということで、やってみたいと思います。

それでは古賀会長、よろしくお願いします。

チーム分け

Aチーム・・・1班

Dチーム・・・4班

Bチーム・・・2班

Eチーム・・・5班

Cチーム・・・3班

Fチーム・・・長崎市コミュニティ
推進室職員一同



城山南部自治会の古賀です。よろしくお願いします。

このゲームは、私達の校区では20歳代から、最高齢では94歳の方に楽しんでいただいています。見た目には簡単ですが、やってみると結構難しいこともあります。

確率としては・・・4分の3の方は点が取れます。私共のデータとしてはですね（笑）。

あと4分の1の方は、うーん・・・（笑）。まあ、そういう風なゲームでございます。

お手玉ゲートボール

用意するもの

お手玉



木製のパター (手製)



ゲート



【ルール】

パターでお手玉を打ち、2.5m先のゲートに入った回数を競う。



鈴に当たると→3点
ゲートをくぐるだけ→1点
ゲートをくぐらない→0点



1人、2回ずつ打ちます。

こんな風に・・・(試し打ちをする古賀会長。見事、ゴール)・・・(会場拍手)

まずはAチーム、Bチーム、Cチームから・・・番号順にいきます。

その間、Dチーム、Eチーム、Fチームの3番の方に審判をお願いします。

それから、同じく4番の方に玉拾いをお願いします。

それでは皆さんどうぞ、やってみてください。

おいしい～！ お～！

入った、入った...

あっはっはっは...

頑張れ～！

こりゃ、4分の1だ...

あ”～!!***

～(競技中、あちこちで拍手の嵐)～

CHAPTER 1 「ゲーム大会」に学べ!







どうですか、皆さん。

「4分の3」に入りました? 「4分の1」でした (笑)?

もう一つのゲームをご紹介します。「羽子板バスケット」といいます。

羽子板バスケット

大中小の容器を
組み合わせる

大→1点

中→3点

小→5点



【ルール】

机に1回バウンドさせたピンポン玉を、“しゃもじ” or “なべぶた” で打って、容器に入った点数を競う。

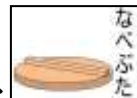


打つ所から、ゴールまでの距離は自分で決めてください。(会場から『?』の反応)



実は、

だと高齢の方が玉を当てきれないんで、



も準備したんです。

ところが“しゃもじ”は薄いから玉が飛ばない。“なべぶた”は厚いから、よく飛びます。

1回ずつ練習をしますので、ご自分がどちらが使いやすいか、どの距離がいいかを決めてください。

ちょっとやってみます・・・(見事、3点)・・・簡単そうに見えるでしょ。

ところが、**見る**と**する**では大違い(笑)!これも、確率は4分の3です。

「4分の3」に入るか、「4分の1」に入るか・・・どうぞ、やってみてください。

か・かん・・・(コト)

入れ～ッ!!

きや～!!***

よいしょっ……それっ!

～(あちこちで白熱!!!)～



あの～、今日はこんな風に、脚の高いテーブルでしたけど、実際は低いテーブルを使っています。立ちっぱなしはキツイし、前の観客も座るから、後ろからでも観戦できるから、何かといいんです。

こんな感じのゲーム8種類位を考えて、うちの自治会ではやっています。

以上です。(会場大拍手)



古賀会長、ありがとうございました。

お互いが知らない者同士でも、スッと一緒になってできる。上手くいった時は拍手をしたりして、溶け込むことができる。古賀会長が先程、幾つかのポイントを教えてくださいました。実はテーブルでやるゲームも、高いテーブルでやるんじゃないよって話。つまり、和室用の短い脚のテーブルでやると、周りの人が見やすくなる。実はですね、他にも色んな、隠れたノウハウがあるかと思いますが、その辺のところをお伺いしようかと思います。

何で、このようなゲーム大会をやると思ったのか、きっかけを教えてください。

小学校区で横のつながりが欲しいと思って、ゲーム大会を思いつきました。まずは、皆で寄ってワイワイやることで、顔や名前を知り合える。互いにあいさつができる。私は35年位前に仕事の関係で、山の中に籠って、1週間のレクリーダー研修を受けたことがありました。その時習ったゲームは若い人向けだったので、直接の参考にはなりませんでしたが・・・。

自治会だって、社会福祉協議会だって、民生委員だって、そんなの関係ないんですよ。皆が寄る機会を、誰が作ってやるかっていうことです。

そういうことで、このゲーム大会を始めました。



皆さんに付けていただいた、このゼッケンにも、何か意味があるのでしょうか。

これはですね、来られた方から

A-1

B-1

C-1

 という風にお渡ししてるんです。すると、仲間同士でやって来ても、班が分かります。

私達は個人戦は絶対やってません。班対抗の団体戦です。何で班対抗にするかといえば、その方が仲良くなるからです。仲良し同士じゃなく、1人で来ても、ちゃんと自分のポジションが決まる。

やってきた順に

A-1

B-1

・・・

A-2

B-2

 という風にゼッケンを渡せば、色んな自治会の人、知らない人同士が同じ円の中に入ることができるんです。

それで、こんなゼッケンを使っています。



審判や玉拾い等の役割分担も「〇番の方」っていう風に指定しておられました。誰もが輝ける、役割を持つ可能性があるということですね。

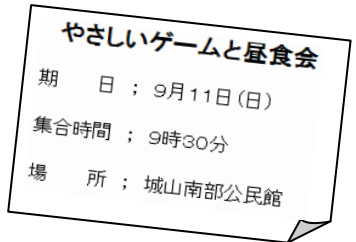
こういったイベントに人が集まる秘訣について教えてください。
どんな、情報の流し方をしているんでしょうか。

通常、何かイベントをやる時は、回覧やポスターで広報していると思います。
ところが、高齢者の方は意外と回覧をご覧になってないんです。
ただ、印鑑を押して回すだけで。若い人と同居の場合は、目にも触れない。
あと、「申し込んでください」って書いて、申し込むのは100人に2人位です。

うちの場合は、名刺サイズのメモを一人ひとりに渡しています。

「〇日にゲーム大会と昼食会がありますよ」って口で言っても、
1分後には忘れてます(笑)。いや、30秒かもしれません。
このメモを渡せば、財布に入れたり、冷蔵庫やカレンダーに
貼ってくれますから、忘れずにすむんです。

それから、1回参加された方はリストを作って、必ずこのメモを渡してます。
自治会の集まりの時も「今度来るねー？」って声をかけたり、老人会でも配ってもらっ
たりして、参加者が増えてきたような状況です。



参加の対象は校区内の自治会員のみですか？

自治会・校区に関係なく、「来たい人はどうぞ」って恰好でやってます。
結構、校区外の方が「参考にしたいから体験したい」って来られることもあります。
要は皆が楽しければ、それでいいんですよ。
「あんたは良かばい、あんたは駄目ばい」っていうんじゃ駄目だと思ってます。



自治会・校区の枠を超えて、参加者を募る。

こういうゲームなんかを通して『場』を共有するチャンスがあれば、
あとで会った時に、気軽に挨拶ができる。

私も時折、まち歩きを企画することがあるんですが、血縁関係のない子どもと
お爺ちゃんが、一緒に歩いてるうちに、手をつないでたりするんですね。

その後、偶然顔を合わせた時も、気軽にあいさつができる。

あいさつって人間関係を近づける、とっても身近な手法だな、と思って。

でも「あいさつをしましょう」なんて言われてやっても、堅苦しくなっちゃいますよね。む
しろ、こんな風な『場』をたくさん設定して、子どもから高齢の方までが一緒になってやれ
る中で、「あの時面白かったよね」って形で気軽にあいさつができる。

むしろ、そっちの方が効果が高いのかなあって感じてます。

まあ実際には、自治会には『加入』って問題があるんですけど、「卵が先か、鶏が先か」って
感じて、参加してもらおう中で、加入してもらおうというアプローチ方法も、現実的なのかも知
れません。

“ゲーム大会”の目的

- ・住民と住民、住民と自治会役員が、互いに近づきあう「きっかけ」を。
- ・「おはよー」「どこ行きよるとね」「なんばしよるとね」等の声掛けを心がけている。

オリジナル・ゲームのアイデア作り

- ・お金をかけないで（100円ショップ等）、公民館でできる（天気に左右されない）。
- ・足の弱いお年寄りも楽しめる。
 - 低めの机を使えば、立ちっぱなしにならない。
 - しかも、観客も座るから、後ろにいる人からも見えやすい。
- ・見た目にやさしく、誰にでもできる。しかし、意外と思うようにならない。
- ・前回の「ゲーム大会&昼食会」では、20～90歳代の方々110名（介護認定1～3の方を含む）が参加してくれた。

ゼッケンに隠された秘訣

- ・互いのコミュニケーションを取るために、個人戦でなく、必ず団体戦で。
- ・会場に来た人から **A-1** **B-1** **C-1**・・・**A-2** **B-2** **C-2**という順序でゼッケンを渡すと、ランダムにチームが振り分けられ、仲間同士で固まることがない。
- ・ゲームも1番から順に行えるので、進行がやりやすい（皆が順番に並びたがる）。
- ・ゲーム終了後に昼食を取るが、チームごとの配席になるため、知らない人同士が和気あいあい会話しながら、コミュニケーションをとることができる。

参加対象は城山校区の自治会員のみ？

- ・校区外や自治会員以外の方にも、門戸を広げている。
「出会い、ふれあい、語り合い」をモットーに、多くの方を受け入れて楽しんでいる。

行事のお知らせ方法は？

- ・回覧やポスターもいいが、口コミが1番。名刺サイズのメモを渡している。
- ・「楽しかった」という口コミが広がるような努力・工夫が大事。

日頃からの、役員と住民の関係づくりが大切！

- ・「役員に何ば言っても一緒ばい」と思われないように。
 - 相手の相談ごとは気持ちよく対応し、最後まで相手の立場で話を聞き、終わった後は世間話をして信頼関係を築く。話しやすい雰囲気づくりも大切。
 - 無理なことでもその場で断らず、「市に申し入れたけどダメだった」旨を後日伝える。
 - 可能性がある相談にはチャレンジ、可能なことは、即、実行する。
- ・「役員に相談してもナシのつぶて」と言われないように。
 - 公共機関等への相談事は、遅くとも1週間以内に関係機関に相談し、結果報告を。
- ・自治会の動きを「見える化」
 - 会長・役員動き、会員の要望は、可能な限りガラス貼りにして、月報で報告。



古賀会長に、何かお尋ねしたいことがありますか？

～（参加者の一人が挙手）～

参加対象は校区に限らないとのことだが、昼食会の費用は自治会が負担するのか？
また、その財源は？

私共は社協（長崎市社会福祉協議会）支部として、毎年、補助金をいただいています。それとは別に、地域福祉活性化事業としての補助（社協支部対象）もあります。また、日赤からのキャッシュバック（募金事務費）がありますね。他にも、保環連（長崎市保健環境自治連合会）に加入しているので、連合主催の行事として、最大3万円の活動補助金も利用できます。そうした中でやっていますが、限られた予算ですので、町内のご婦人にご協力いただいて、手作りのお食事を準備していただくことで、費用も最小限に収まっているところです。



第1部は「参加するにはワケがある」ということで、城山南部自治会の古賀会長に事例紹介をしていただきました。

きっと他の自治会でも色々な工夫事例があるかと思いますが、この後のグループ討議で披露していただきたいと思います。

基本的に大切なのは、皆が集う『場』を設定して、そこに参加しやすい雰囲気を作る。そのための周知も、手元に残る小さなメモを渡す等の工夫がある。

それから「楽しかった」という感想を抱かせて、それを口コミで広げていく。

「いや～、1回目（担い手講座）楽しかったね。また行ってみようか。」
そんな風に思ってもらえるか？だから私、前回緊張したんですね。

また来て
くれるかな・・・

要するに「楽しかったよ」とか「こんなことがあったよ」といった感想が、「行ってみて良かった」というイメージで伝われば、「じゃあ、私も行ってみようかしら」という話。

そういう繋げ方が口コミの力とも言えます。

ただ、古賀会長がおっしゃっておられたんですけど、「楽しかった」で終わっちゃ駄目なんだと。その後が大事。それが自治会の活動にどう、つながっていくか。そういう意味で、役員と会員とでコミュニケーションを取り続けていくことが大事だよ、ということでした。



すみません、もう一つだけ。

うちの自治会では、町内の地図を10種類作ってます。

これを公民館にも貼ってるし、役員さん達にも渡して、情報を共有してます。

参考までに、後方の壁に貼ってますので、良かったら参考になさってください。

- 1 各世帯の名字のみ表示
- 2 地番・号のみ表示
- 3 街路灯の場所を明示（番号管理）
- 4 ごみステーションの場所を明示
- 5 掲示板の場所を明示（番号管理）
- 6 民生委員の担当範囲を明示
- 7 防犯連絡所担当範囲を明示
- 8 避難所（準備品）・関係先の連絡先を明示
- 9 民生委員の担当範囲を明示
- 10 安心カードの配布先を明示

町内の情報が全部、これに詰まっています。

もし、お作りになりたい方がいらっしゃいましたら、お教えしますので、お声かけください。以上です。

それでは、第1部を終わります。古賀会長、どうもありがとうございました。

「ゲーム大会」に学べ! 終了

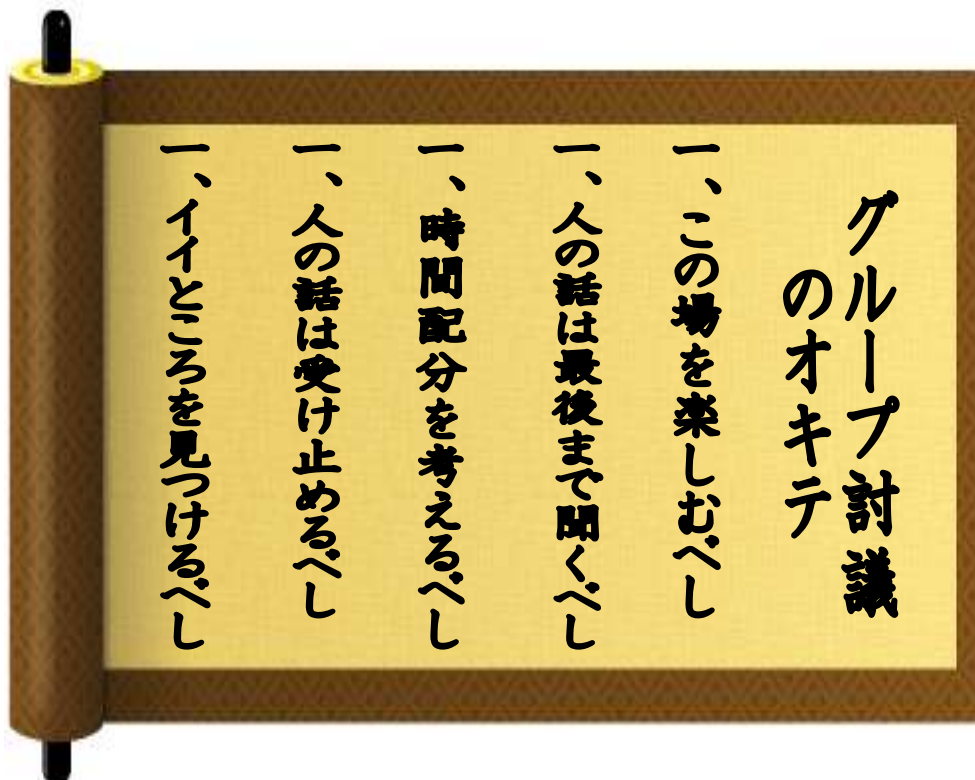
CHAPTER 1 「ゲーム大会」に学べ!



Chapter 2 グループ発表

テーマ：「参加する」ということ

5つの班に分かれて、グループ討議（30分程度）
の後、各代表者による発表がありました。



1 班代表 渡邊 大祐さん（銀屋町自治会）

「参加について」というテーマで色んなお話が沢山出ましたけど、かなり広がってですね、まとめきれずに・・・一応、出た意見ということで発表させていただきます。

それぞれの自治会で色んなイベントをやってらっしゃる・・・夏祭りであるとか、清掃であるとか、老人会の旅行とか、色々やってはいる、と。ただ、やっぱり皆さんの価値観が多様化してるんで、それぞれの企画は少しずつしか集まらなくても、色んなことをたくさん仕掛けて、やっていくということが大事なんじゃないかな、というご意見が出ました。で、例えばカラオケ大会とか映画とか、包丁を研ぐ会とか、梅が枝餅を作ったりとか、そういう珍しいアイデアもお聞きすることができました。

他にも、ボランティアの“支えあいネットワーク”をされてたりとか、買い物支援とか網戸の張り替えとか、そういったものも自治会の中でやってらっしゃる、と。

非常にこう・・・規模の大きいところではですね、そういった色んなことをやられるところもあってですね。多彩なメニューがあるんだな、というところが勉強になりました。今日はゲームについても色々教えていただいて、こういったことも、少しでも参加を増やすための、貴重なメニューになるなあと感じております。

あとは、あいさつの活動もされてるということで、「あいさつ日本一の歌」というのを作られて、あいさつ運動に取り組まれているというお話もありました。ちょっとまとまりのない話でしたけど・・・以上です。



- * 今回のゲームが大変参考になった。老人会で、是非試してみたい。
- * 旅行等で、随分活性化してきたが、もう一步、壁を破り、新しい活動に取り組みたい。
- * どうしても参加者が限定されてしまう→活動の枠を広げる努力を。
 - ・ ボランティアグループ「ささえあいネットワーク」
電球の取替や買い物支援等、“ちょっと困った”を地域でサポート
 - ・ あいさつ運動を推進するために歌を作って、小学校で音楽会を開催
 - ・ カラオケ大会や包丁研ぎ会

人間関係が柔らかくなった！

- * 住民の好みが多様化している
 - 色んなことをやってみて、人を集めようとする努力が大切。
- * 「来て良かった」と思ってもらうことで、次につながる。
- * 人と人とのつながりで、参加者も変わってくる。



2班代表 佐久間 英紀さん（三重ニュータウン自治会）

（部屋中央に躍り出て）自分にちょっとプレッシャーをかけたいと思ひまして（笑）、前に出て発表をさせていただきます（場内拍手）。ありがとうございます。まず2班では、「発表者を決めて」ということでもございましたので、立候補をして、発表者をさせていただくことになりました（拍手）。

あとですね、不思議なことに司会といひますか、富増さんという方が何事もなく、普通のように、話をリードしてくだされましてですね、しかも皆さんに平等に意見を聞かれて、『こういうのが大事なんだなあ』と感じました。話はこれからなんですけども（笑）

「参加」ということでもですね、参加を募ることでもですけど、レクレーションとかで多くの方に集まってもらうのは良いことなんですけども、役員さん自体の負担が結構大きいという意見が出ました。どこでも会長さん方は精一杯、頑張られてます。今回も皆さん、こうやって講座に来られて、土曜日の午前中を割いたり・・・そういうことも含めまして、本当にボランティア・・・「皆さんに楽しんでいただきたい」という気持ちの素と、それだけのしっかりとした努力、そういうものがなければ、活動は続いていかない、と感じました。先程、婦人会の方で食事を作ってください、という話がありましたけども、やはりそれも、婦人会の方に「皆と一緒にやっぴいこう」という気持ちがあつてこそ、そういうこともできるのかなあ、という意見が出されました。

あとは皆さんと同じく、少子高齢化に関して、昔から続いてきたペーロンの担い手が、最近では中々見つからず、外部からの応援がないと難しい、という話もございました。

あとは・・・すみません、私の意見ですが・・・私が皆さんにお願いしているのが、「自分の得意なところをお手伝ひしてください」ということです。私はこういう、話をしたりというのはできるんですけど、実は書いたりというのがダメなんですよね・・・市役所の方（2班担当）、さすがに上手に「誰がどんな発言をして」というのをまとめておられて（笑）・・・こういう文書に長けた方は、そういう得意なところをそれぞれ出してくださいといいのかな、と思ひています。以上です。





- * 隣の自治会と合同で行う、毎年の運動会。
→少子高齢化で集まりが悪くなり、廃止の話が出ていた。



- ・ラジオ体操をエアロピクスに変更
- ・アトラクションに“よさこい”を加えた
- ・全ての競技に商品を乱発

効果抜群！

人気急上昇！

- * 4月から会長を引き受けたが何も分からず、白紙の状態。
住民は何でも言うてるうえに、非協力的でイライラがつのる。
気持ちに余裕が持てるようになれば・・・。
- * 自治会単位での活動はなく、連合のイベントに参加しているが、
月300円の会費では、連合の負担金を払えば、あまり残らない。
- * つながりを作るために、レクレーションを企画したが、主催者の負担が
大きく、手間ひまがかかる。このままでは次回の協力が得られにくい。
負担をかけずに、みんなが参加できるようなイベントができれば。
- * 定年近くになって、自分に何ができるか？
自分のできることで、地元に貢献したい。

3 班代表 浦川 雅充さん（錦町中河内団地自治会）

同じくプレッシャーをかけないと、ということで私も前に立たせていただきます。

うちの班では「人集め」の前に、まず「ラジオ体操」という切り口で話を始めました。うちの団地の話をちょっと出してみると、うちのラジオ体操は全く・・・壊滅的です（苦笑）。まず子供たちが出てきても・・・全く何もやっていない。うちの子供がチョロッと、何か手をあげたりしているぐらいで、まあそんな状態になっていて、でもこりゃ、どうにもならないな、という気持ちでおりました。

そしたら、ダイヤモンドの松島会長や、西町北部自治会の金井会長からお話があったのは、「お隣の自治会と一緒にラジ体操をやる」。あと、ラジオ体操のカード。子供用じゃなくて、「大人用」です・・・驚いたんですけども。こういう大人用のラジオ体操の出席簿を作られているそうで、景品もある。これは、このアイデアは頂かんばいかな、と。

やはり、大人も子供も来んといかんですよね。うちは、実際のところ子供しか出てないんですけども、お隣の自治会さんは大人ばかりなんです。これは一緒にやらないとマズイなど。お隣の自治会長さんに今度お話をせんばいかなと思っております。

こういう切り口のあと「人集め」の話になりまして、これまたあの、松島会長のほうから、もうとにかく色々な切り口からやるんだと。前の班の人たちからも出てきましたけれども、これだけ人の関心が多様化しているんだから、色んな切り口でないと、人は集まらんだろうということです。やっぱりどこも似たような結論になってくるのかなという感じはするんですけども、皆さんに配られている資料の中にも、ダイヤモンドさんの取り組みというのが色々ありますが、こういうイベントを毎週、変えながらされているそうで・・・うちの団地も最近「アイスクリーム教室」とかをやってみたりとかはしたんですけども。30人位、集まりはしたんですが、やはり細々という感じなので、もうちょっと他の方たちにも声を掛けて・・・まあ正直私はまだ自治会長1年生なので・・・他にも西町小学校の方で、父親クラブの会長とかをやっているんですけども、そういう、色んなものを引き受けすぎて、訳が分からなくなっているんですけども。



横のつながり・・・長崎市全体のつながりを持ちたいですね。この担い手講座のように、長崎市の中でも色々な方がいらっしゃるじゃないですか。この中でもやっぱり色々な人脈を作って、色々やれるんじゃないかなと。これで皆さんとお友達になりましょう、懇親会とかもやりたいな、と思うわけですね。

そういうことで、もっと横のつながりを作ってはどうでしょうと感じまして・・・私情もかなりございましたけれども、これが3班の発表とさせていただきます。

ありがとうございます。



* どこでもやってる **ラジオ体操** にアイデアをプラス!

- ・大人の参加を促す「大人用ラジオ体操カード」
→これが結構、励みになる。記念品を大人にも（日用品等）。
- ・近隣の自治会と合同で開催

参加者倍増!

* 住民の好みも多様化・・・色々な切り口・入口を用意する。

（草刈隊、ガーデニング、脳トレ麻雀、手芸教室、介護・救護教室、公民館の61インチテレビでスポーツ映画・漫談・スポーツ観戦）

* 仕掛ける方自身が「楽しい、ワクワクする」ようなことをしないと、人は集まらないし、何も進まない。

* 時代の変化に合わせて、内容も変えていく。

* 業者に任せていた「もやい（精霊）船」の飾り付けを自分達でやったら、16万円も安く済んだ。会員が減って、会費も少なくなった今、昔どおりのやり方でよいか、必要な改善を考える必要がある。

* 制度を知ることが大事

- ・長崎市教育委員会主催のニュースポーツ
- ・サロンを開くにはサポーター資格者が必要・・・1か月の講習
- ・社会福祉協議会や保健環境自治連合会の補助制度



4 班代表 山口 明さん（鶴の尾町自治会）

うちでは「参加」ということで、まず夏祭りの話が出ました。聞いてみれば、これは新しいことをしないとマンネリ化してしまって、集まりが悪いぞと。それから人材の話。地域には能力を持った人、才能を持った人が隠れているんじゃないか。そういう人を加える意味で、自治会の役員でもパートタイム的な役員があってもいいんじゃないかなと。例えば祭りなんかで、企画とか運営とかが非常に上手な人については、班長さんみたいに一年限りの役員などとするんじゃなく、出来る限りずっと、ただし、祭りの時期だけ、企画運営の委員なんかをやっていただく、夏祭りには必ず出ていただくというような。そういった才能ごとに担当していただく人をある程度固定化して決めていくのもいいんじゃないかということですね。

私の所では明日、夏祭りをやるんですけれども、毎回、生活教養部長さんに仕切ってもらってます。普通、任期は1年なんですけど、今年は非常に才能を持った方がいらっしゃって、結構企画から運営からやってもらってますので、この人が1年でポストを去るのは惜しいな、来年・再来年と言わず、ずっとやっていこうか、と。

それとですね、私達は余りにも子供というものを、大人の目線から見すぎているんじゃないかと。「子供の趣味と言えは、パソコンとゲームだ」そんな感じで、固定観念をもって見てしまっているんじゃないかという感じがするんですよ。

結構子供に「企画、どんなことをやりたい？」とか「どんな風にやればいい？」と聞けば、結構、案を持ってきますもんね。「出店としてはこんなものもいい」そして「値段はこのくらいがいい」「数はこのくらい作って」とかですね。それからアトラクションや盆踊りにしても、企画書なんかを上げてくるんですよ。だから、子供にある程度夏祭りなんか任せても、結構しっかりやってくれるかなと思うんですよ。

結局のところ大人が支えますもんね。そして、子供が出てくれば、親が出てくるんですよ。今までは「何とか親を引き出さなければいかん」という風なことで、子供会の会長さんとか、育友会の会長さんとか、もうそういうところばかり狙っていたけれど、そんなところはいい、もうガキでいい（！）ということです。

「何が足らんとね。足らんもんはどれとどれね。予算はどれくらいね。」なんて言ったら、予算要求書みたいなのも作ってくるんですよ。「会長さん、百均に行けばあるよ」とかね。ですから、そういったことも「参加」として、考えていったところですよ。

さっき、ラジオ体操の話が出ましたけれども、ラジオ体操を子供会主体でやるか、自治会主体でやるかで全然違って来るんですよ。子供会が主体では中々うまくいかん。聞いたところでは、子供会でやる場合、音量を相当気にしてるんですよ。絞って絞って絞りまくって、もう何を言ってるか分からんくらいに。そういった時には、自治会を頼ってくれば、自治会

が **ガーン** と、「そのくらい、1ヶ月の辛抱だ」というような感じで、自治会であれば強めに言えると思うんですよ。やはりその辺りは子供会だけじゃなく、連携をとってやるのが大事じゃないかなという感じがします。

それと、私は団塊の世代というのに、もの凄く期待していたんですけども。今は退職も65歳、年金は67～68からという話までありますから、働くわけですね。自治会の役員どころじゃない。そうすると、もう当然のごとく自治会の高齢化は止まらないということですから、それを解決していくのはやはり非常に難しいものがあるということですね。

えっと、まだまだ話したかんですけど（笑）、そろそろイエローカードが出そうなので、この辺で終わります。



*** 子どもや高齢者の力を活かす！**

- ・高齢者から仕事を奪ってはいけない。
- ・出来る範囲の役割を与え、自治会を続けることに意義を感じてもらう。
- ・子どもに仕事を与えると、案外、高度なことを上手くやってくれる。
（祭りのポスターやプログラムの作成など）

*** 昔ながらのラジオ体操は、子どもを集めるのに効果的。**

- ・他の自治会と合同でやったりしてもいいのでは。
- ・子ども会だけで行っているところも、自治会につなげるによりさらに発展、拡大できる。

*** 行事などの名簿づくり・・・中々、情報を書いてくれない。**

- ・自治会長の信頼が一番。そのためには、ある程度の任期で（1年では短い）。
- ・名簿はよく用途を説明し、限られた人しか見られないようにする。

*** 役員のなり手・・・若い人はもちろん、60歳代でも今は仕事がある。**

- ・祭りなどの時期にだけ、実行委員のような形で加わってもらう。
- ・役割によっては「パートタイム役員」のようなものも出来るのでは。

5班代表 梶 聖悟さん（竹二自治会）

え～梶と申します。皆さんがいっぱいお話をされてですね、私も30分位お話をしたいんですけども（爆笑）、時間が無いようですので、手短かに発表させていただきます。

5班で出た話としては、「連合自治会の枠を越えてお金を出す」ということを城山南部自治会さんが言われてましたが、社協からお金を持ってくるか、まず、お金を見つけるということが大事ですね。いわゆる自治会としてやっていきますけれども、やっぱり世代間がバラバラで連携がとれていない。

そして、どうしても自治会の規模が小さくなってきています。守りに入った自治会とか、活動をやってない自治会とかもありますけれども、そういう自治会を城山南部自治会さんのように巻き込んでいって、ダイヤモンドさんのように色々取り込んでいって、来るところは拒まないようなことをやっていって、少しずつ輪を広げていけばよいのではないか、ということと言われる方がいらっしゃいました。

そういう風なことをやっていながら、色々、役員会をいっぱいやっていって、役員会が終わったあとは裏の役員会、俗に言う飲み会ですね。そういうことをやることも大切ではないかということ言われました。私もそう思います。私はそんなに飲まないですけど、飲まなくても、こういうみんなが・・・先輩方とか、後輩・・・ここにも、私より後輩がいっぱいいいて嬉しいんですけども、後輩とかと話が出来るということですね。

そういうことをするためには、今、私がいる所じゃ中々できないんですけども、気軽に飲んだり食べたりできる、サロンみたいな所があるといいなあという話ですね。そういう風な場所ができてですね、気軽に、誰でも、役員をされてる人じゃなくても。子供連れのお母さんとかから、「ちょっと疲れたね」というお爺ちゃんお婆ちゃんが行けるようなサロンがあればいいのではないかなあと思いますね。

本当はもっといっぱいお話をしたいんですけども、時間がかかってきたみたいなので。気軽にいつでも誰でも来れるような場所をつくるということと、気軽に立ち話ができる町をつくるという、そういうことが、この班では話題になりました。



- * 毎月の会報を、会員以外にも配布。
- * 気軽に立ち寄れる、身近な場が必要→「立ち話の出来るまち」。
 - ・集会所を「会議の場」でなく、「サロン」に。
 - ・管理される場所でなく、毎日寄れる、開かれた場所に。
 - ・「飲み食い」も出来た方がよい。
 → 館長に負担が掛かるという心配がある。
 → 婦人部がないので、難しい。
- * イベントの後は必ず反省会（飲み会）を！
 - ・「裏委員会」と称しての本音の語り合い
 - ・新たな発想（段ボールで精霊船）
 - ・掃除の後の懇談会
 →「参加」という意味では、世代間のまとまりがイマイチ。
- * 自治会の主催で、連合の枠を越えての地域行事をするのは、費用面からも難しい。社協等のからみが必要では。
- * 自治会の規模の違いもあり、活性化には差がある。守りに入っている自治会もある。
- * 自治会の区割が、学校区やPTAと一致していないことが地域活性化の支障になる。
- * 大きな自治会が開催する行事に、周りの小さな自治会も「参加したい」と寄ってくる。そんな風に、より広い区域で盛り上がっていった。





最後にきちっとまとめていただいて（笑）。
時間も実は5分過ぎてますので、助かります。
え～、実に色んなお話をお聞きました。

ポイントは、どう、『場』を作っていくかということ。
それも、色んな切り口・バリエーションがあるよ、と。
人の好みも多様化する中で、その人達に合う『場』を、どうセッティングしていくか。
一つの所に一人じゃなくて、一つの所に複数の人に参加することで、新たな輪（和）が生まれてくるという。そういう意味では、『参加』ということを一口に言ってもですね、中々難しいところもあるんですけど。「難しい、難しい」って言っても何も始まらないので、そこを一つずつ、解決していけばいいんだ、という前向きな姿勢が大事なのかな、と思いました。

それで次回はですね、9月8日の土曜日・・・ちょっと空くんですけど。
その間に私と市の職員の方で、大牟田市に10月の視察の打ち合わせに行ってきます。
皆さん方の方で、大牟田に「こんなことを聞きたいよ」っていうのがあれば、市の方に伝えておいてください。お盆過ぎに行きますので。

それでは今日の講座を終わります。
お疲れ様でした。

「グループ発表」 終了

Chapter 3 まち歩き

資料提供：長崎ウエスレヤン大学教授 佐藤 快信氏



1. まち歩き

「まち歩き」は、長崎市が提案する「さるく」が有名で、観光との関連で認識されることが多くなっています。しかし今回は、**環境点検地図** を作成するための「まち歩き」についてのお話です。

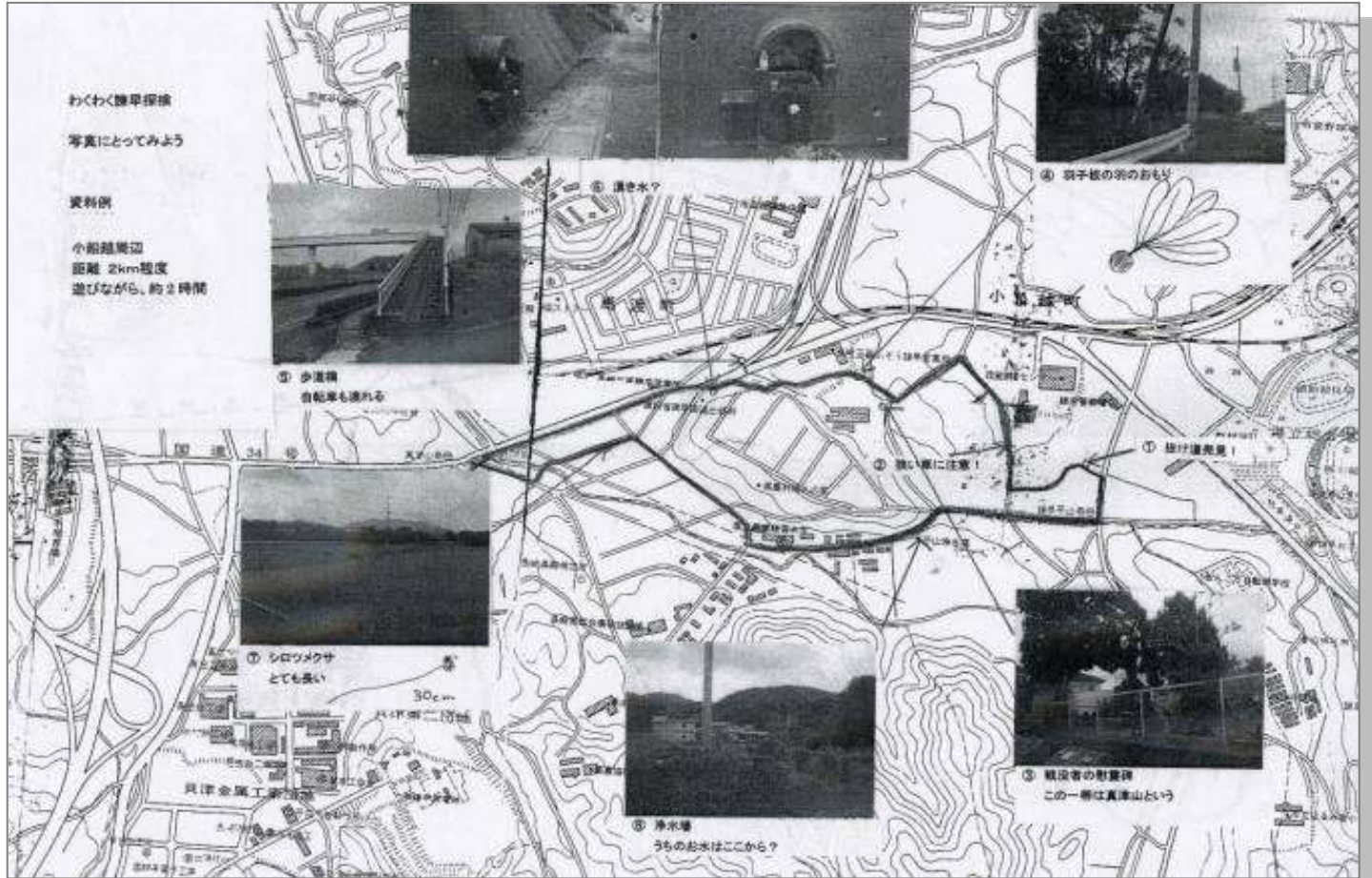
『むらと人とくらし～環境点検地図による身近な環境とりもどし作戦』（農村生活総合研究センター）には、

「身近な住居環境に対する市民、住民の共通認識を出発点とするまちづくり、むらづくりは、はじめ都市計画や地域計画の先進地である欧米で開発されました。・・・北米の建築家 L・ハンブリンは、**既存の居住環境の改善**こそ都市計画・地域計画の第一の目標であるべきだとして、その改善に取り組む自民活動に **ワークショップ（工房）** と名づけ、地図を媒介とした環境改善運動を提唱しました。」

とあり、このようなワークショップを通して、市民、住民同士が話しあいながら共通の利益を確認し、少しずつ居住環境の問題点を改善していきます。

そして、この手法は地域開発を進めていく手法の一つである「トランセクト(横断歩き): Transect」と併せた「地図づくり: Mapping」、さらに写真を活用した「フォトマッピング」と発展しています。

※ 文字だけでなく、写真が入ると情報を共有しやすくなる。



2. ワークショップ

① 編成

年齢も性別も、職業も異なる人々が事由に集まって身近な環境に共通の関心を持ちながら活動することが、ワークショップです。ですので、チームの編成は、原則自由です。

ただし、1グループの人数は、5～8名で構成するのが適当です。

② 準備(各グループごとに、準備するもの)

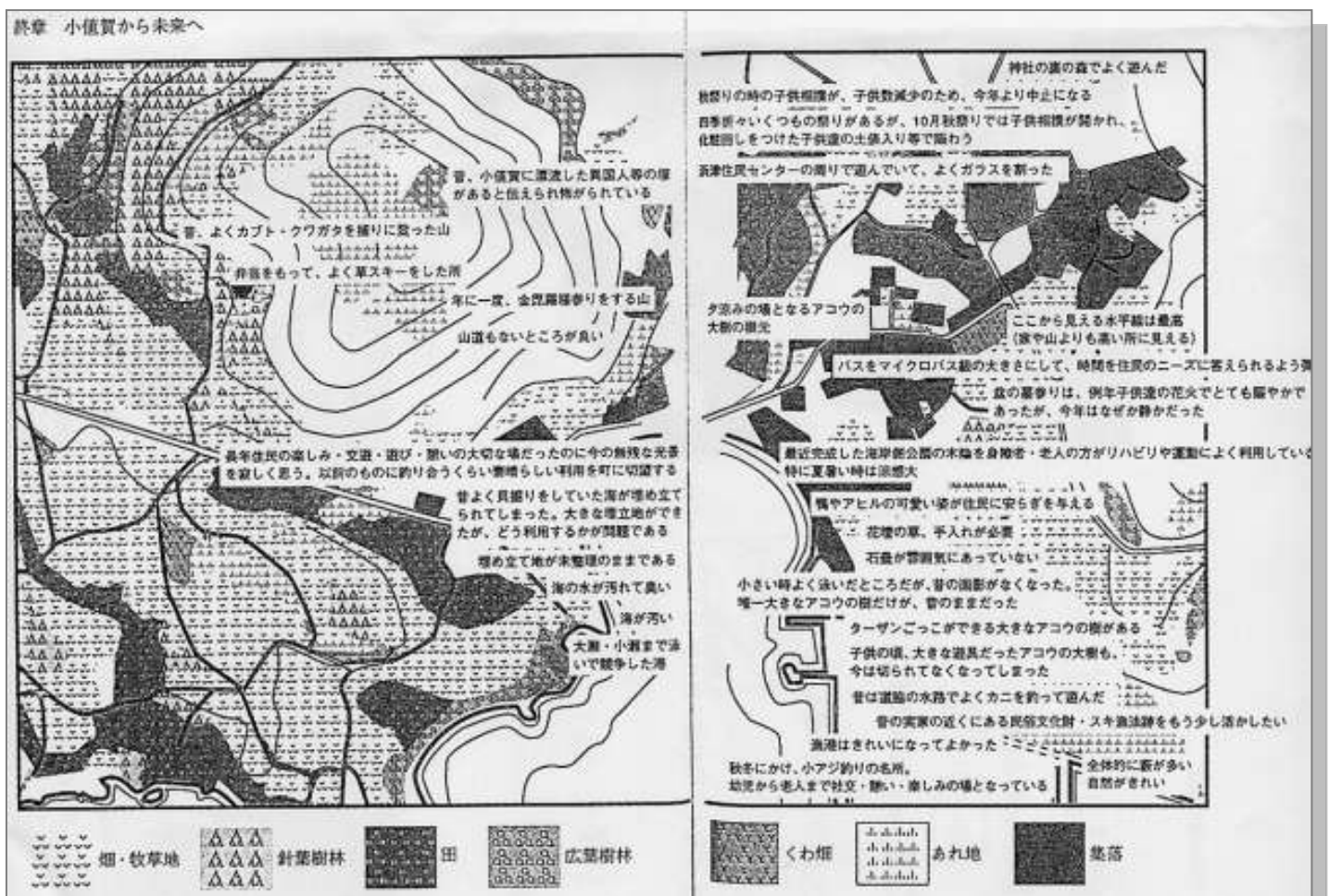
画板、地図(住宅地図、2,500分の1、5,000分の1)、デジタルカメラ、メモ用紙、模造紙
筆記用具(色鉛筆などもあれば)

③ 点検項目の設定

自由にテーマに合わせて設定してよい。

たとえば、

- ・ 安全性…火災、がけ崩れ、洪水、交通事故の危険、防犯対策
- ・ 保健性…ごみの散乱、排水不良、騒音源、日照障害、通風障害
- ・ 利便性…公共施設の利用、歩道のネットワーク、交通渋滞箇所
- ・ 快適性…景観、眺望、住みやすさ、歴史的遺構、天然記念物



④まち歩き(点検作業)

- ・ 画板、地図、カメラ、筆記用具、メモ用紙をもって、点検項目を意識しながら地域を歩く。
- ・ 気になったものがあった時に、地図にマークをいれ、写真を撮る。そして、なぜ気になったかをメモする。

⑤まとめ作業

- ・ 作業で切る場所に戻り、写真を印刷する。
- ・ 印刷している間に、模造紙の真ん中に地図を貼り付ける。
- ・ マークを移し、写真をはる。コメントを入れる。



⑥発表

- ・ グループごとに発表する。
- ・ 共通点は何か、新たな発見は何かを共有する。

⑦改善のために

- ・ 課題を整理し、優先順位を決める。
- ・ 解決のための方策を考える。
- ・ そして、実践へ。

3.留意点

- ・ やりっぱなしにならないようにするために、活動の記録を報告書のような形にして残すこと。
- ・ 活動の結果をPRすること。

4.効果

- ・ 集団で動いていると、何をしているだろうと声をかけてもらえる。⇒ 勧誘へ
- ・ 高齢者が入っていると、ゆっくりとしたペースでまわれる。
- ・ 子どもが入っていると、低い視点からの新たな発見がある。
- ・ 子どもが入っていると、その日の夕食の話題になる可能性がある。
- ・ 定期的に行っていると、参加者が増える可能性がある。



あなたのまちでも、「まち歩き」のワークショップを体験してみませんか？



「まち歩き」 終了

Chapter 4 ふり返り

講師：長崎ウエスレヤン大学教授 佐藤 快信氏



皆さん、第2回はお疲れ様でした。

城山南部自治会の古賀会長にご協力を頂きながら、ゲームを通して「参加するにはワケがある」という仕掛けづくりや参加について考えていただきました。また、皆さんからの要望もあって、参加者の皆さんたちが話し合う時間として、グループ討議「参加するってどんなこと」をしていただきました。

活動を知ってもらうための情報を共有する方法として、小さなカードにして手元に残るようにすることや、地域マップを作成することなども、古賀会長の工夫が参考になりましたね。また、地域マップも提示して頂きました。

確かに、地域マップを一人で作成するのは大変ですが、会員の方たちと一緒に「まち歩き」しながら作成していくこともあると思います。「参加」ということは、関わりを持つことの第一歩ともいえます。



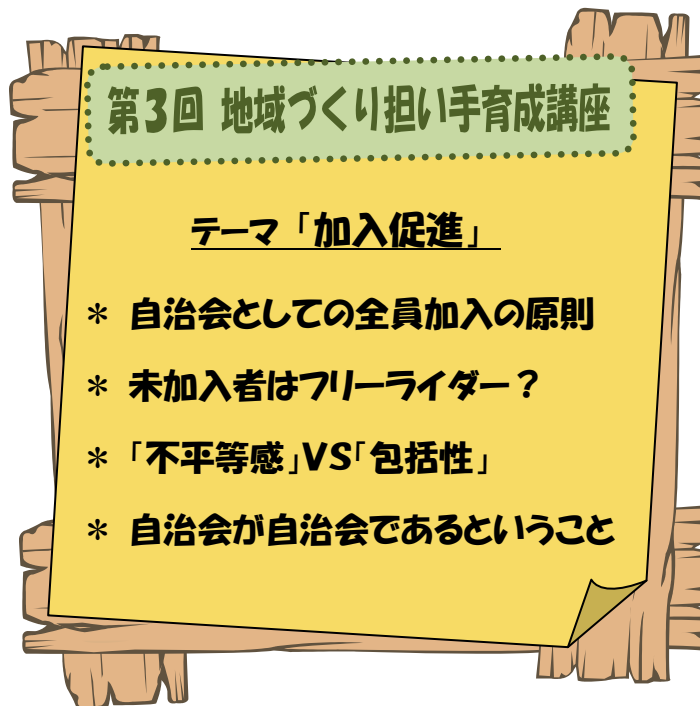
今回は、全体的流れを見ながら進行したため、予定していた「まち歩き」については資料の配布という形になりました。この「まち歩き」は、目的を達成する一つの道具（手段）です。例えば、住民が自分たちの居住地域を知るため、または、まちづくりという話題を家庭の中にまで広げる啓発のためであったり、その両方であったりと様々です。

ただ、はっきりしていることは、**手段を目的化しない**ということです。

よく「まちづくり」という活動でみるのは、手段であるイベントが目的化し、イベントをすることに一生懸命になってしまうことです。ですから、参加してもらった後に、どうつなげていくのかを考えておくことが重要です。自分でできることでもあえて協力を仰ぐことで、参加者を受け身の参加から実施する側へ誘導する機会を設定しておくのも一つのアイデアといえます。

あと大事なのは、イベントをやりっぱなしにするのではなく、**形にして還元すること**です。具体的には、イベントの簡単な報告書を作成し回覧することで関わった人たち、裏方で協力していただいて人たちを、忘れずに紹介することで、関わった意義を意識してもらうことも大事といえます。

さて、次回は・・・



また、皆さんと一緒に話し合ってみたいと思います。
では、第3回でお会いしましょう。

「ふり返り」 終了

第3回 加入促進（グループ討議）

～自治会が自治会であるということ～

Chapter 1 白熱教室 Part I

市民活動グループと自治会の違いって？



皆さん、おはようございます。



(会場内、失笑)

一応、『白熱教室』ということで、熱くなるとオーバーヒートしちゃうんで、お隣の会場（ホール催し）からウチワをいただいてきました。今日はこれで扇ぎながらやらさせていただきます。

今日、初めての方もおられるなあと思いますが、初めての方、お手を挙げていただけますか？ 3人だけです。じゃあ、少しだけ自己紹介をしとかなないと、みんな「誰だ〜？」ってことになるからね。では、こちらの方から。



光風台第1自治会長をさせていただいております、木原と申します。はじめて（の参加）なんで、よろしくお願いいたします。



おはようございます。小浦市営住宅から参りました松本一男です。最初の講座から来る予定でしたが、色々ありまして・・・。今回の目的は大牟田に行きたいと思ひまして。よろしくお願いいたします。



さくらの里1丁目の大峰と申します。よろしくお願いいたします。



3名の方、皆さん、不審者ではないですから・・・(笑)。それはそうとして、今回、このグループで2回目ですけども、どうですか皆さん、グループの方の顔・・・ご確認いただけましたか。大丈夫ですか？

私はですね、自治会ということ専門にしている訳ではなくて。いわゆる「市民参加のまちづくり」をテーマにしたような講座を担当することが多いんですが、そこで皆さんにお願いしているのが、

「せっかくここで出会った そういうチャンスを生かしてください」ということなんです。

最終回あたりになるでしょうけども、「お友達ができましたか？」とお聞きすることになるかと思えます。グループで話す機会をできるだけ多くしてるんですけども、ただ、それだけで終わるんじゃなくて、この講座が終わった後も、「そう言えば、あの人に相談してみたらいいかな～」という繋がりを持って行って欲しいなということがあります。それが基本的にまちづくりなんかをやっていく上でのスタンスになります。



今日の話は「加入」ということを一つのキーワードとして進めていくことになります。

第1回では「自治会とともに作るまちづくり」、そして「住み良いまち」ということで、皆さんに、「この主語は何か」とかいうことをお尋ねしました。

そして、そこからもう少し進めて、「まちづくり」と言っても、住み良いということは、一体誰が対象で、一体どうなっていくのか・・・それも、色んな『主語』によって違って来るだろうという話をしました。

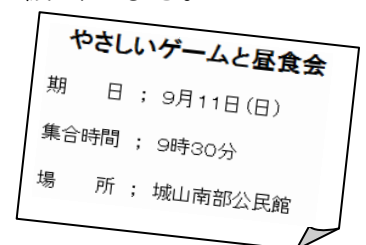
私達が今、自治会ということを考える時も、自治会それぞれが対象とする地域というものがあって、その中には色々な人たちがいて、そこに住んでいる。いわゆる「赤ん坊」から「高齢の方」まで。その人たちを、どう自治会の活動の中に取り込んでいったらいいんだろうかというのをヒントとして、**第2回では「参加するには訳がある」というテーマで、実際に皆様方にゲームを楽しんでいただきました。**そして、ただ楽しむだけじゃなくて、「楽しむ」ということは、気軽に会の活動に関わりを持つことができる、そういう機会になる。

その中で色々なアイデアが出てきて。

例えば、情報を皆に配りやすくする方法。

単に消えてしまわないように、小さいカードにして手元に残すやり方があったり。

それから、自分たちの自治会だけではなく他の所からも、ウェルカムで呼び込んでいく、つまりそこには、自治会員であろうとなかろうと一緒に参加する場を設けるということ、古賀会長が言われていました。



今まで私が『まちづくり』という視点で関わってきた中で、実際に地域で、色々な活動に参加するグループというのは、実は沢山ありますね。ゴミの問題等の環境分野に注目したグループとか、福祉に目を向けた市民活動グループとか・・・沢山あります。

まちづくりの視点から言うと、実は自治会と、そういう市民活動をやっているグループというのは、基本的に同じものでして。ただ、その中で、いくつか違いはありますよ。

普通の市民グループと自治会がやっていることの違うところは一体どこなのか・・・？

◆◆◆◆◆ (静まり返る会場) ◆◆◆◆◆

ちょっと私、緊張感与えてます？大丈夫ですか？(笑)

普段、学生はもっとザワザワしているんでね。(笑) こっちが緊張してきちゃった。(笑) ドキッとしてきちゃった。(笑)

まちづくりの視点からすると、どれも同じなんだけど、ただ違うんですよね。

その辺のところの違いを、皆様方はどんなふうに考えられるかな？と。

あと一つ、市民活動グループがやっている市民活動と、皆さん方が入っている自治会活動が違うものだと考えられている方、挙手を。



(大半が「違う」に挙手)

それでは、違うというところの部分はどの辺にあると思いますか？何か意見ありますか？

◆◆◆◆◆ (3人挙手) ◆◆◆◆◆

地域となると、それなりの付き合いが深くなるし、同じ地域で過ごしていると『何とかしてあげたい』という気持ちが強いのではないかと。

そういうところで違いがあるのではないかと思うんですけども、

どうしても自治会とかを良くしていきたいという気持ちがあれば

やはり接触度が違うと思うんですよ。一人ひとりに対する気持ちとか

強い繋がりがでてくるんじゃないかなと。



1班・中村さん

(佐藤先生) ある方に対しての関わり方が、自治会とまちづくりとでは違うと？

(中村さん) こじんまりにはなるんですけども、『何とかしてあげたい』という気持ちが強いと。



(佐藤先生) 他には？



5班・梶さん

学生は在学する間だけ、そこで活動することがメインだと思うが、住んでる人は子どもの頃から、住んでる間はずっとそこに関わる。学生は特定の地域だけじゃなくて、自分でやりたいと思う、協力したいと思う地域で活動する。

自治会というのは、自分が住んでる所、周りの人たちのためにやる。そこが根本的に違うんじゃないかな～と思います。

(佐藤先生) 今のところでいくと、そこに住んでいるという生活の基盤に関わる期間という意味合い、そこに関わっていくという帰属性・想いも両方兼ねあう。

(梶さん) 学生の中には、やりだしてみても、地域に対する思い入れができてくる人もいるとは思いますが。

活動自体がメインでなくて、やっていること自体で満足していることが多いのではないのかな、と。

(佐藤先生) 実際、私が学生たちと地域に入って関わる時に、最初にお断りしておくことがまさにそこなんです。学生は4年間なら4年間というその期間だけで関わりをもつ。

実は、私がお願いしてるのは「卒業した後も、その地域が故郷になるような関わり方をして欲しい」ということ。諫早の商店街なんかに行くと、商店街の皆さんが「おかえり」「ただいま」みたいな関係性を作っていく。

それって、限られた期間でいわゆる「期間滞在者」みたいなところで。

学生に限らず、NPOとか活動をやっている人は、意外と自分の地域でもやっているけども、住んでいる地域以外でもやっている人が多い。



1班・小田さん

基本的にボランティアとかそういう人たちは、自分たちがしたいことをしたい所に行ってるのが基本だと思う。
自治会というのは、住む地域の人全てが対象になるので、自治会に入っていない人でも基本的に目を向けてやる。
どうやって幸せなまちを作っていくか、全体的に考えていくところが、全然違うんじゃないかと思う。

(佐藤先生) NPOにしてもまちづくりグループにしても、私が関わっていて、根本的に違うなあと思う決定的な部分は、**NPOとかは自分たちの興味・関心という割りと狭い範囲に特化しながら関わっていく。**変な話、自治会には、**自分の興味・関心がないところまで関わらないといけないところがある。**そういうところが、自治会に関わると嫌なことまでしないといけないというところが一步踏み出せないところがあるのかもしれない。

もう一つ、最近、諫早のアーケードでいわゆる「まちなか居住」という形でマンションが建ってきた。そこで話を聞いてると、マンションの管理組合、皆さん、関与されていますよね、だけど、自治会とかには関わってこない、そういう経験があります？

◆◆◆◆◆ (挙手少数) ◆◆◆◆◆

意外とそういう経験ないんですね。
それでは、マンションでつくっている自治会関係者の方っておられますか？
今回はいない？

(浦川さん) 市営アパートであればうちですけども。

(佐藤先生) そこはどうですか。

(浦川さん) 強制加入なんですけども。各棟で管理が分かれていて、それぞれで理事が毎年代わる。会長も毎年代わっていたが、あまりにもまずいだろうということで、今年あたりから私が継続して会長をしています。



3班・浦川さん

社会福祉協議会との関わりとか、西町小学校の父親クラブの代表もやって、校区内との繋がりとかもあって・・・。

両方やってるんで、かなり手一杯になっているんですけども。

自治会という部分では現在、105世帯が強制加入しているが、加入をしてでも地域の活動には出て来られないという方がやっぱり多いんですね。

高齢化も進んでいますし、関心が薄い、できればそういうのは避けたいという、入っても活動には来ない方が増えているのが悩みの種にはなってます。

(浦川さん) そういうのもあって、うちも数年前から青年部的なものを作ってやろうという感じになってまして。そこで自分が担ぎ出されて、そのまま会長になっているんですけども。結局、加入促進というよりも、加入していても出て来ないという感じになってますからね、うちは。
だから、今後、どうなるんだろうと、不安視はしております。



強制であるかどうかという問題もあるんだけども。

私が一番思うのは、例えば賃貸マンションだったら全く違って来るだろうし、分譲マンションは自分で購入した「私的財産」です。そういったものが一つの共同体として建物を構成していて、共有スペースを持っている。

そういうところでは、自治会とかの加入率は高いはず。ところが一戸建てとなると、その意識が分散化されていって、そこには何があるかということ、多分……。

あっ、しまった！

ここで僕が突っ込んで話すと、皆が話すことがなくなっちゃうか！（笑）

「どうして入らないのか？」については、後で皆に話してもらうことにして。

もう少し突っ込んで話しておく、自治会と住民との関係性っていうんですか、どういう関係性が近いのか遠いのか、市民グループや NPO とかとは違って、個々の人達のことをよく知っているし、関わりを持てるのではないかと。

「繋がる」と言われる濃さがそこにあるんじゃないかなということが、実はヒントになってくる。

それでは、皆さんに考えてもらいたいんだけども、

「加入しない」ってどういう理由で言ってくるのか？

考えてみようか。

「加入が必要」、「NPO とかとは違う」って言われているけども、逆に、加入しない理由を考えると、それを解決するヒントが生まれてくるかもしれない。

皆さん、普段「入った方がいいよ」としか言っていないから、逆に加入しない理由なんて考えたこともないでしょ。違う？

15分くらい意見を出し合ってみて。

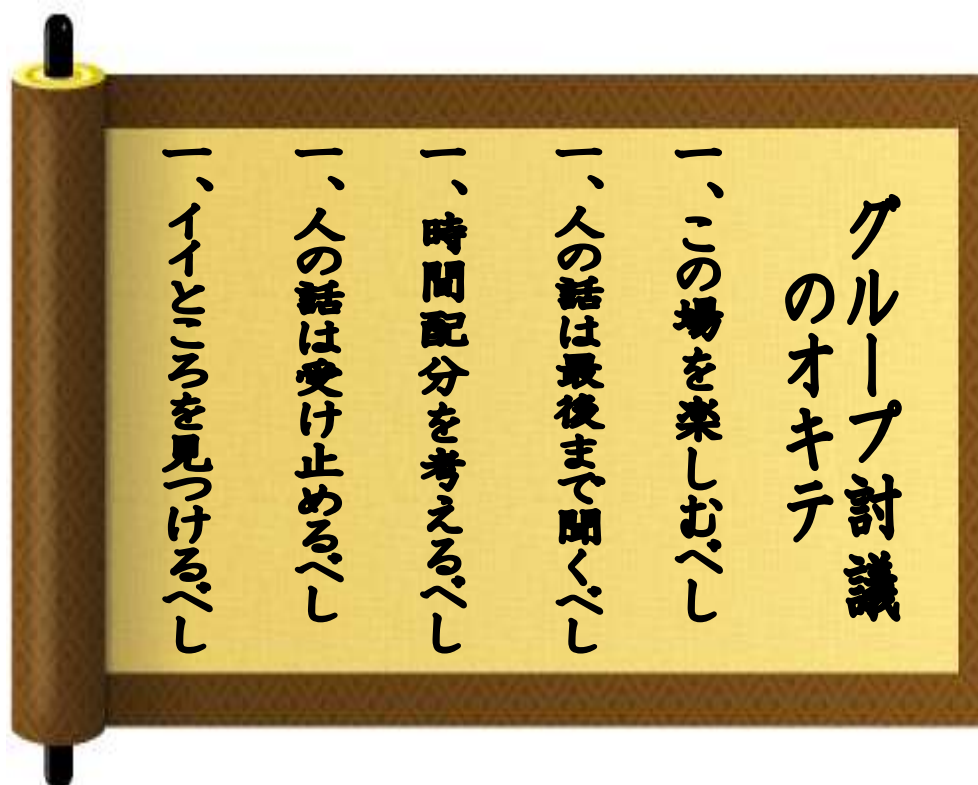
「白熱教室 Part I」 終了



Chapter 2 グループ発表 Part I

テーマ：自治会に「加入しない」理由

5つの班に分かれて、グループ討議（20分程度）
の後、各代表者による発表がありました。





さあ、一応、予定時間を5分オーバーしました。

いくつかのグループの話を聞いていると、次のグループ討議でやって欲しい「加入をどう進めていくか？」に話が及んでいて、

とうとう皆さん「暴走列車」になってしまいました（爆笑）。

盛りあがったところで話を切って、佐藤が悪者になる。（笑）

本当は、その熱くなる手前で抑えようと思ったんだけども……。遅かったー（笑）

いくつかのグループ討議に聞き耳をたてていると、ひとつはやはり、実際加入率が99%のところですか……。99%のとこだと加入しない理由を考える方が難しい（笑）

そりゃ失礼しましたって話に……。それから一つは、関わりを持つっていうか、自治会に入ると、例えば役員とかが廻って来ることが一つの抵抗感になっているのではないかと、とか。各班で、何か印象に残っていることありました？

1班代表 小田 喬さん（女の都西部自治会）

加入しないというのは、人との関わりというか……。入っていない人と考えたら、どちらかというとなんとアパートに住んでる人が多い。マンションなんかは、先ほども話が出たけど、ほとんど関わりがない。自治会とかに関わりたくないんだらうと。それと、脱退者をどう止めていくかということが大事じゃないかと。高齢化して自治会の役員ができないとか、公園の清掃ができないとか、要するに、参加できないから脱退する人がいるので、そういう人たちをどう止めていくのかの方がどちらかという大切なのではないかと。

- 高齢化 → めんどくさい、人とかかわりたくない
役員ができない、公園清掃に参加できない
- 人間関係ができていない（特にアパート）。
長年住んでいるが、役員が回ってきた時に人間関係が崩れる。
- 個人的メリットがない、損得で考える。
- 会員が退会することについて役員も仕方ないという諦めもある。
- 入る必要がない。サービスも必要ない。マンションは管理人が何でもやる、住人は何もしなくてよい。
- 選挙と一緒に → 関心があるかないか？温度差・認識の違い
町の方向性を間違わないようにしたい。
任意団体であるため、二の次の自治会活動となっている。
- 元気な高齢者 → 退職後地域に入っていない
→ ボランティア意識を高める必要がある

1班のメモ

2班代表 冨増 清志さん (光風台第二自治会)

今日はオブザーバーの皆さん（コミュニティ推進室の職員）も入ってもらって、大変盛り上がっています。

ちょっと「なるほど」と思ったこととして、共稼ぎの家庭が増えて、夫婦とも帰って来るのが遅い、土日は今までの家事の穴埋めで、とても自治会活動なんて参加できないというよという意見がありました。

- さくらの里【新しい団地】→ 30～40歳代が多い
未加入は10世帯未満、購入時に加入が条件だったが、脱会者あり。
《理由）自治会費を払いたくない、公園清掃に出るのがイヤ！近隣とのトラブル、
家族構成が変わった、家庭の事情
- 光風台【古い団地（20年位）】→ 高齢化、新しく入る人がいない
700世帯、45班、10数年に1度役員が回ってくる
団塊の世代 → 自治会に入らないといけないと思っていた。
結成時は加入率100%『終の住みか』・・・自分たちで良くしよう！！
高齢化してきつくなる→わがままになる？→ 班長がイヤ！
→回ってくる時にやめる、回覧板がわずらわしい、加入しなくても不自由ない、
未加入者にも自治会だよりを配布
- サンシャイン矢上【公務員アパート】→ 強制（全員）加入
活動にはあまり参加しない、清掃毎月（ノルマ）欠席は500円
共働きが多く、地域に出る時間的・精神的余裕なし

2班のメモ



3班代表 児島正数さん（新大工町自治会）

自治会の活動で大人が楽しくないから、なかなか参加しないんじゃないかと。自治会に入ってた良かったと思わせるような、まずは、やっている方が楽しくやるのが大切なのではないか、という意見が出ました。

（佐藤先生）解決策が出ちゃいました（会場笑）

- 転勤で色んなまちを体験
【某マンション】→強制加入、役員は毎年くじ引き、会長を引くと最悪だが1年きり
【加入を自由とした地区】→加入・未加入は半々位、ゴミのトラブルはなかった
加入の有無に関わらずゴミ当番は回ってくる
- 昔は100%加入が当たり前。ゴミ袋配布あり→今は働きかけが難しい。
- 新しいマンション（特にワンルーム）は居住者の把握ができない
→ くんち・精霊船だけ出る→タダ得・払い損 → 不公平感から脱退！
- 価値観・スタート位置が違う
- 募金がいっぱいくる
- 権利と義務のアンバランス
- 意見の食い違い（ケンカ等）→誘わない方がいい場合もある
- 規模が大きい自治会では、一人ひとりに目が届かない、各々の事情が分からない
→班の規模を小さくして、皆が集まる機会をもつことが必要

3班のメモ



4 班代表 山口 明さん (鶴の尾町自治会)

未加入の理由としては、班長になりたくないとか、煩わしい、自治会に入ってメリットがない、高齢になって地域活動に役立たない、会長が嫌いだとか（会場笑）、結論としては地域に関心のない面々に、いかに関心を向けさせるか、と。そういう話でした。

- 自治会に入っていないなくても同じサービスが受けられる、不利益がない
- 役員がまわってくるのが嫌
- 「絆」をつくるのが自治会…という意義は主張するが、一人でも大丈夫、一人の方がいい、他は知らんという人が増えた
- 高齢になって役に立たないから辞める（役員、班長、回覧板も負担）
- 会長が嫌いだから
- なぜ、一人でも大丈夫なのかということを知らない
誰かに支えられているから、誰かがやっているからこそ、一人で暮らすのが楽だということに気付いていない
- 鶴の尾の加入率は90%くらいだが、本当に活動を支えているのは、ほんの一割ほど。しかし、それでも構わない。支え合いにせよ、清掃にせよ、そのくらいでも何とかなる。
- 若い人が無関心なのは、ある程度仕方ないが、やる人が固定化したまま高齢化していくのは何とかしたい。
今は仕事があるだろうからいいけど、いつかはやってもらいたい。
→ 子どもを引き込むと親も出てくる。
- 役員は交代制でやる気のない人が無理にやっている。たまには、積極的な方が出てきても、前任者もおらず周りも無関心なので、結局、難しい。
- 個人情報関係が厳しく、詐欺も多いので、そもそも未加入者を把握できないし、地域の中ですら、あまり個人情報や身元を明かしたくないという人も多く、会議や役員を嫌がる。
- どんなどころでも「ある程度の人数（支える人数）」が必要では。
加入率 → 単純な人数とはまた違う概念
それすらないと、行事等、自治会らしいことをやることも困難に
- うち（ダヤランド第3自治会）は加入率が高いので、未加入というのがよくわからない（皆に迷惑をかけるからと、辞めていく人がいたが・・・）。

4班のメモ

5班代表 梶 聖悟さん（竹二自治会）

皆さんと大体一緒に、投資効果がないとか（笑）

あと、いろいろ心配してくれて逆に「重い」ということですね。何かある時に、出て来なかったら「何で出て来なかった？」とか愚痴をずっと言われる先輩方から、それが重いと。

- 自治会から声掛けられることが、精神的に重い
- 投資効果がない・・・対価が金に換算できない
共働きでメリットがない ← 加入促進策として、対応する説明ができてない
- 互助の精神がない
- 役員をしたくない（若い人）→しなければいけないと分かっているけど、今はできない
- 年をとって班長ができない（毎月の役員会、回覧文書を持って坂道を行き来）
→ 迷惑を掛けたくない → 班長免除の考え方も必要？ 準会員
- イベントに出ないと、愚痴を言われる

5班のメモ





ありがとうございました。

1 班の話でもありました・・・後半のところでは取り上げようと思っていましたが、
も、「やめさせない」という話もあります。

あと、第 1 回目で私が「多様化している」という言い方をしました。

第 2 回目で時間があつたら「まち歩き」について話したいと思ってはいたんですけども、実は
「まち歩き」というのは、自分達の地域を知るためにやるということなんですね。

さっきの「自分たちの地域に関心がない」といったところにどう振り向いてもらうか、実は、
まちづくりだけではないんですけども、色々な私の関わりの中で「どうして参加してくれな
いんだろう」という話が出るんですけども。

もっと言うとね～、正直言うと、大学の話。「どうしてうちの大学に入学生来ないんだろう？」
「志願者が来ないんだろう？」

考えてみたら、我々もよく知らないんだよね。対象となる 18 歳の高校生のことを。

実は、皆さん方にも同じ構図というのがあって、自分たちの対象としている地域の人が、ど
ういう年齢構成で出来ているとか、共稼ぎの世帯が多いとか、独身者が多いとか、独居老人
が多いとか、そういう実態を実はあまり把握しないで、加入というところだけを議論してい
るっていうのが、結構ある。

それを次のステージに持っていきたいと思います。

それで、これも毎回でている「参加」というところと関係することですけども、やっぱり楽
しくなきゃね～、変な話、先ほど「投資」という話が出たんですけども、金換算できないと言
っている、だからこそ逆に言うと市民活動というものに意味があるし、密着性があるとい
うところが NPO と違うというところ。実は、変な言い方なんだけど、無駄みたいなものをど
う担っていくかということが、実は自治会には求められているということが実感して皆さ
ん方にあるのではないかと思うんですね。そうだから、地域がうまく廻っているんだぞとい
う意識があるはずですね。

僕は、実は自治会に入っているメリット・デメリットをあんまりその視点で捉えたくない
というのがホンネとしてあります。というのは、自治会に入るメリットだけが強調されてしま
って、歪んだものになっちゃうのではないのかと。

メリット・デメリットというところではなくて、もっと実感として

これに入って良かった・・・ という思い。

もっと言うと、この前の東日本大震災での安否確認を含めて。

実は警察・消防関係よりも、自治会レベルでの確認がよりスムーズにいったという。

これは、阪神淡路のところから始まって、新潟とかいろんなところで発揮されている。

実際私は、自治会と直接関わっている活動があって、諫早のある地区の社協と防災・減災のワークショップを毎年開催しています。ここで何をやっているのかと言うと・・・。

自分の財産、自分の身の安全・安心といったような、直接自分に関係のあるワークショップには、ほとんどの世帯が参加してくれるんですよ。そこで山崩れを想定した防災ということで、山が崩れていく筋でグループを編成していく。そうすると、上の住民から下へ伝達しながら下の方へ避難していくという仕組みを作ろうとやっている。

その時に面白いのが、民生委員には認知症の問題とか、守秘義務があるから情報を公開できない。ところが、こういう場だと「おまえのところの母ちゃん、元気か？」って話になって、「実は最近、足腰が悪くてさ」みたいな話になると、そこの中で情報を共有できる。

だから、個人情報保護制度がダメだということではなくて、オープンに話せる場というものをセッティングする、そういう視点というものを考えていくというのも「楽しく入って何か出来る」ということを考える意味では非常に大きい。

それではこの辺で5分間程、休憩をとります。



「グループ発表 Part I」 終了

Chapter 3 白熱教室 Part II

「全員参加」への理想と現実



休憩、短かった？

◆◆◆◆◆ (受講生とのやり取りあれこれ) ◆◆◆◆◆

休憩時間中、皆さん、ほとんどずっと話されてました（休憩にならなかったのでは・・・）。

雑談の時間は貴重ですよ！（受講生）

本当ですね。私自身、もっと話したいことがあるし、皆さんも「もっと喋らせてくれよ！」と思ってるでしょう。限られた時間設定の中で、なるべく身のある内容にしていきたいと思います。

先ほど、加入というところもあって、実際、世帯というところとかね、対象がどういうものか、時間的余裕がない人たちに「入ってよ」といっても「いやいや」という話になる。

ただ、どこかで出てた話なんだけど、加入ということにあまり固執しないというところでは、いわゆる「準会員」みたいな制度を設けているところもあるよという話も耳に入ってきました。逆に言うと、「加入しなくてもいいから参加だけはしてくれよ」とか。

理想と現実があって、そのギャップをどう埋めるかで実はみんな悩んでいる。けど、できるだけそこにどう近づいていくかが必要。

今回のアンケートかな、興味深いものがあった。

「個人的には未加入者数ではなくて、加入率で捉える」という視点が示された。参加と加入という話でいくと、どちらかと言うと、実は大事なのは本当は加入者数である。ただ、それを表現しやすくしようとして、全体の対象となる世帯数に対しての率で表すんだけど、実際は数なんだよね。けど、加入率で捉えているということに私は非常に興味を持っている。

これ、誰が書いたんだか。本当はこれ、個人がわかんないように出しているんだけど、非常に興味があったんで、（書いた人）ちょっと話してくれる？

◆◆◆◆◆

鶴の尾町なんですけども、417 世帯・1400 人くらい居るんですけども、この中で加入率が 91%。数にすればどうしても、未加入者が現在 30 数所帯、無理が来るんですね。苦い経験もあります。未加入者を掲示板に貼り出すとか、どうしても個人に焦点を当てると無理が来る。

だから加入率でいいのではないかと。90%は割らないようにしようやと。というのが、自治会員が 350 所帯くらいあって、地域のサポートをしてくれるのは 1 割くらいなんです。うちの場合は、「助っ人隊」というの

がありますので、そのまた 5%くらいが助っ人隊と。助っ人隊を卒業したら、次は自治会の役員だと。役員終わったら、老人会だということになるんでしょうけども。（会場笑）



4 班・山口さん

地域というのは、1割の力持ちがいれば、何とか出来ると。かなり負担はあるんでしょうけども…。この40人のサポーターが頑張れば頑張るほど、未加入者は何の不都合も感じないと。街もきれいになっているし、草も刈ってあるし。この中で1割確保出来れば、地域は何とかやっていけるのかと。その中の5%くらいで高齢者の世話などもある程度やっていけるのかと。数にこだわらずに、大まかな線で90%は維持しようかと。



加入世帯数という考え方は、本来、人口が一定で変化しなければ成立するんですよ。でも実際は、人口減少が起きている部分がある。数で考えてたら、成り立たないんですよ。非常に逆説的なことなんですけども。

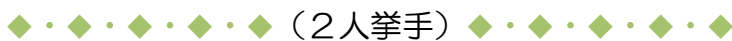
今後、今ある世帯数も人口も変化していく、その中で、一定の率を維持していこうとするのは現実的なこと。

実は私、昨年度まで長崎市の公民館運営審議会の委員長をやってまして。

その時に、公民館の利用者数と、そこが所管している人口数で、どのくらいの利用率かを単純な計算で出したんですけども。そうすると、その利用率が何%ならいい、悪いということではないんですけども、傾向としてわかるのが、人口が多い区域では当然利用率は下がる。数で見れば多いんですよ。人口が少ないところでは、利用率は上がる。

だけど、人口が少ないところで利用率が上がっていないところもある。そこがどういうところかを見ていくと、完璧に人口が大量に移動してしまって、コミュニティが崩壊してしまっているようなところ。そういう意味では、一つの加入率というものを自分たちのところがどのくらいなのかという事を意識しておくのが大事なのではないのかな、と。

それでは、自分のところの加入率が低いと思っておられる方いらっしゃいますか？



大体、どのくらいの率？

(受講生1) はっきり言えないけど60%位か。

(受講生2) 8割くらいかと思うんですけど、同じ町内で別の自治会があるので、そこも未加入として扱えばもっと下がるかと。



どういうエリアで捉えるかにもよるけど、60で多いか少ないか。その判断は難しいところですね。ただ、全般的に自治会の加入率が少なくなってきた、と言われていること、それから、自治会には実際、色んな形で地域を代表する特性があるということ。それらが前面に出てきている中で、それを支えて

いる部分というのは、実は原則、皆さんが加入している事が前提です。そういう視点からすると、やっぱり過半数くらいは入っていないとねというのがあろうし、そのくらいがラインになるのではないかと。

ただ、その中で、加入している率が60だからいい、70だからいいという話には多分ならない。実際のところは、そこでの活動なりがうまくいっているかいけないか、その時に先ほど言ったような「準会員」を含めているかいけないか、いろんな数の出し方がある。

もう一つは、実際入ろうと思っても入れない、身体的な負担とか、そのようなケースもあると思います。

それでは、皆さん方に早めに話をさせてあげないといけないかな〜と。(笑)
今度は自分達の・・・色んな違いはあろうかと思えますけど、

自治会の活動をどう活性化、元気にしていくか？

を少し考えて見てください。

できれば、20分間位で終わって欲しいなと。
大体見てると、一通り、みんな思っていることを言っているよね。
みんなが出来ただけ話せるように。そして、否定をしないで。

Chapter 4 グループ発表 *Part II*

テーマ：「加入促進」そして「自治会活性化」

5つの班に分かれて、グループ討議（25分程度）
の後、各代表者による発表がありました。



すみません。20分と言いながら、またオーバーしてしまいました（汗）。活性化という話で、少し難しかったという意見があったんですけども、基本的には加入促進、先ほどの前半の話から続けてもらうという形で……。取りあえず、各グループからどういう話が出たよということを簡単に発表していただきましょうか。

5班代表 森 洋二 室長 (コミュニティ推進室)

いっぱい良い話が出まして、収集がつかなくなってるんですけども。

新たな加入者を増やす、若しくは、現在の会員の方を減らさないについては、それらの方が楽しめるような活動が見える形で出していく。

それと、細かい情報でも皆さんに知ってもらう、日頃からの情報を出していくことが大切だと。当然、イベントも完全に周知されるような形でやっていくと。

総論として出てきたのが、単一の自治会だけで活動をしていても、なかなか、もっと広い地域との格差が出てきて、色々問題が出てくるんじゃないかと。ですから、隣りの自治会とかと連動させたりして活動をしていく。それぞれの役員の方々も逆に負担を少なくして進めていく。そして、広く皆が手を挙げて参加できるような、フリーなレクレーション的な形に変えていって、参加賞だけを負担することで皆さんを自由にさせる、そういう新たな発想のもとでやってみるとい事が大事だと。とにかく今やっているイベントの中身を変えて、参加する人たちの世代とかを変えていくという話がありました。

いいお話があって。子ども神輿をやっていたんだけど、作ることだけが目的となりかけていたところを、みんなでまちなかを巡っていく、そして、メイン会場に入らせて目立たせるとか、一つのお祭りの中でもお化け屋敷を加えて子どもに運営をさせるとか、新たな発想の部分を入れていくのが大事なのではないか。

最後にもう一点だけ、それにかかる自治会としての経費の問題が出まして、その分について、高齢化が進む自治会であれば、これからそれに合うような削減案も併せていかないと維持という面では大事ではないか、というお話でした。

5班のメモ

- 運動会・・・班長への動員をなくした。
「スポレク」にして、参加賞を沢山出した。
- 会員外でもイベント参加OKとした。
- 公民館でカラオケ大会 → 曲を選ぶ楽しみ
対象者が多い（360人）ため、奇数月生まれと偶数月生まれに分けて開催。
- 企画側も楽しめる内容で→企画内容も、中身を変えていく
- 当事者の意見をきちんと吸い上げる。
- 小規模の自治会は、近隣の自治会と合同でイベント開催。

4 班代表 山口 明さん (鶴の尾町自治会)

活性化ということで、キーワードは何だということで話し合いました。
それは、高齢者と子ども会じゃないかと。

高齢者の問題ではふれあい活動や支えあい活動とかで、一部意見として「70代はこれまで、高齢者として支えられる側だったけど、今からは支える側にもまわらないといけないのかな。」と。

ダイヤランドでは、高齢者が主体となって「草刈り隊」などの活動や「ガーデンさるく」、「マージャンの会」「餅つき大会」「囲碁大会」をやっているとのこと。マージャンの会は他の自治会からの参加者もあるそうです。こういったことで、生き生きしながら活性化に努めていますと。

それから、これからは高齢者同士の支え合いが必要になってくるのではないかと。
あと、子どもを自治会の一員として地域にデビューさせるような仕組みを作らないといけないのではないかと。ある自治会としては、「カレーの会」とか「花火会」とか、夏祭りではお化け屋敷を企画したりだとか。こういったことで、活性化する。
これまで我々は、自治会のことしか考えていなかったが、子ども会と老人会を含めて3つの車輪だという考え方が必要。こうやって、うまく地域を活性化できればと思います。

あと、若い人からなんですけど、地域に役に立ちたいという気持ちは持っているのではないかと。1回出なかったから以後声を掛けないということでは、なかなか出にくくなる、と。サインは出しますので、声はずっと掛けてくださいということでした。
出来れば、私なんかも草刈り隊とか階段のペンキ塗りとか色んな奉仕活動をやるんですけども、参加者の名簿だけは取っておかないといけないなど。新しい人がいれば継続的に声を掛けていくと。何らかの形で地域に貢献したいというサインは出ているはずだから、それを役員としては把握して継続的に声を掛けていくことが必要ではないのかなと。



(佐藤先生) どこかの班で出ていたんだけども、出て来ないと「なぜ出て来ない」と言われる。むしろ逆に、出てきた時は「ようきたね！」という言い方をしてあげるのが大事じゃないかと、意見が出てましたね～。要するに、出て来ないことを責めるんじゃなくて、出て来たことを褒めてあげる。それによって、来やすさのハードルを下げてる、と。



99%の中で活動の質を高めるために・・・

- 草刈り隊（制約を強く設けない。できる人がやる。）
→ やはり、老人会など高齢者が中心となる。
トイレ掃除隊（女性が中心でやる）市の委託料も獲得
→ 高齢者の活躍、やはり時間もあるし
- 趣味の囲碁の会、ゲーム大会
マーじゃん → 中年からある程度若い人も来る
このような趣味の集まり、ふれあい機会の創造。ここから人が増えていくのでは。
- 高齢者も子どもも元気で、よく仕事（自治会の仕事）にも関心を持つ人は多い。
色々な人がいるだろうから、いろいろなアプローチを。
まちの商店やオフィスの人たちも、行事などの「参加者」になりうる。
自治会員にはならなくても、単に客としてくるだけでも行事を盛り上げてくれる
→ 自治会員にとってもプラスに
- 「もちつき大会」→ もちは冷えてしまうが、それでも子ども一人ひとりにつかせる。
役割を与える → 自覚が生まれる
高齢者の脱退 → 遠慮はいらぬ、支えられることについての「申し訳なさ」をどうするか
- 安否確認、安心カード（薬・持病などの情報を冷蔵庫に）など、高齢者の見守りを進める
- 子どもを自治会メンバーとしてデビューさせる機会。
カレー（料理）の会など、子どもの入口となるイベントを（楽しいということが一番）
- なかなか参加者が固定化されると入りづらい。
一度休むと、次からは申し訳ない雰囲気になる。 → 行事などは「飛び入りOK」
「自治会（員）じゃなくてもOK」休んでいた人にも「声だけはかけてみる」一回断られてもあきらめない。
- 若い人も「地域で何かしたい」「ためになりたい」と思っている人は多い。むしろ、若者ほど関心は高い。いろんなやり方で強制せず、根気よく声をかけてみる。
- 「自由参加」「出席とりません」と気楽なイメージでいろいろ呼びかける。
- 参加者をしっかり把握し、逃さない。
新しい顔を見たら、しっかり覚えておき、次の案内につなげる。
新しい人も緊張しているはず。歓迎されたらうれしいし、案内がくるのを待っている。
- ただし、きっちり出席を取る。名前を書かせるなどは少し抵抗が生じるかもしれない。
自分から飛び込んでいくのは難しい。（高齢化した行事の中に若者が入って行きづらいのが本当のところ）誘われれば行く、という人はいるはず。

3 班代表 児島正数さん (新大工町自治会)

意見が多岐にわたったんですけど。

まず、自治会単位の話でいくと、中で老人会、子ども会、育成協とか社協とか、また別の組織で独立してやって、別会計を持って行事をやってる、だから、自治会が老若男女混在する立場ですけども、「自治会員イコール老人会員」というところもあれば、そうでないところもあって、いかに自治会の活動を楽しく参加してもらうかという課題があるのではないかというところが出てます。

ただ、「人」の話で言うと、会長の仕事の区切りがない、と。会長は、やはり判断も必要なので、引っ張っていくリーダーシップが必要であると共に、育成の問題もあって、例えば、副会長とか次世代のリーダーをいかに育てるか、どこまで会議に来てもらうか。何もかもやれない中で、どこまで線引きしてやっていくか、色んな人に振り分けすることでたくさんの事がやれるのではないかという意見が出てます。

あと、権利と義務の話で、自治会費とか募金とかで、(自治会に)入ってない人も同じようなサービスを共有できるような位置付けになっていますので、そこで「タダ得」とか「払い損」とか大きな課題があって加入率にも影響があっているのではないかという意見が出ておりました。

(佐藤先生) 権利と義務の部分でいくと、一般的にいう会員であるかないか、フリーライダーの話。そこにこだわり過ぎて、包括的な地域全体の動きを考えた時に、線引きはなかなか難しい。多分、結論出ないかな (会場失笑)

- 無関心と思われる人が、急に参加しだすこともある。
→ チャンスを逃さず拾い上げる。出て来やすいような仕掛け。
入口をたくさん作ってあげる。興味の対象も多様化。
- 近所との付き合いなんて面倒臭いと思っていたが、自治会のアンケートに履歴を書いたことをきっかけに「助っ人隊」へ → 入ってみると楽しい!
- 現在加入している人がやめないように、活動を充実させる。
- 地域には老若男女、色んな状況の方がいる。老人会・子供会・婦人会が自治会から独立して盛り上がっている (別会計) が、一緒にやれる仕組み作りが必要。
- 要はマンパワー。人が集まらないことには、うまく回らない。
- 昔は地域が冠婚葬祭をまかなっていた。→ 今はそうしたくても内容が分からない。
- 会長の仕事に区切りがない。次が育たない。
→ 連合の協議に副会長も参加。経過はできるだけ文章に残す。
→ 共有するキモチをつなげる「俺が分からない時は、あなたが教えてね」
- 新しい家が建つ時に「入らば損よ」と説明する。
- 役員・班長ができなければ、班で支える。脱退者を出さない。
- 方向性の選択はリーダーの気持次第「行くか、行かないか」

3班のメモ

2班代表 冨増 清志さん (光風台第二自治会)

私のグループではボヤキばかりで（笑）。

いい意見が出なかったんですけども、2点だけお話しさせていただければと思います。

自治会のメインイベントは、環境整備、草刈りですね、これが大きなイベントだということでありまして、これを頑張っているから、街がきれいに保たれて安全な街が維持されている。それは汗を流してくれる人がいるから、こうなっているんだよって事で、会員であっても参加しない人、会員になってくれない人たちにも、この状況を大きくアピールしたらいいじゃないかと。

鶴の尾の山口さんは名簿を作るべきだとおっしゃいましたよね。先生もちょっと茶々入れてですね、「写真取ればよかたい」と。「この人は出てる」とか「この人はめったに見らんね～」とか。要するに大きくPRした方がいいのではないかと意見がまとまりました。

もう一点は、自治会が活性化してうまくいくためには、役員が相当の力を持たないといけない。役員の任期が毎年毎年1年で代わるようであれば、うまくリレーできない、踏襲されないということ。少なくとも2年くらいの任期にして半分ずつ代えていく、スライドしていけば、うまく踏襲できるのではないかと、そしたら各行事がうまくいくのではないかと。

それから、リーダーシップのある会長さんや三役であれば、長くいてくれた方が全体的にはスムーズに事が運ぶよって事でありまして。それが、余りに長いと、マンネリ化するとか自治会を会長が私物化するとか言われたりするんで、あんまり長いのもよくないんですけども。そここのところを考えながら、自治会の役員のやり方というのも活性化に大きなウエートを持っているなというのが、取りとめもない話の中で出た結論であります。

（佐藤先生）まちづくりは人づくりだという事はご存知だと思います。実は、組織というものをどう磨いていくかという事で、僕なんかもそうですが、学内の色んな組織というのがまさにそうで、担当を少しずつ入れ替えていく。実は色んな活動もそうなんだけど、流れというのが非常に大事で、その辺のところを考えると周りのことをわかっているうちに、「これどうしてそうなったの」ということを説明してくれる人材を必ず残していくことが必要。

- 環境整備・草刈り、入っていない人も恩恵を受ける
広報紙で活動をPRしていくしかない
- 自治会加入についてメリット・デメリットという考え方はしない方がいい。
入らないことのメリットの方が多い → 何も困らない
楽しくないといけないのも難しい
清掃 → 班で割り振りしているが参加者30%くらい
回覧板・HP・チラシ・・・見ない！！
新しい担い手がいない、同じようなメンバーでやっているのもスムーズに進む
参加できない時の罰金・・・わかりやすい

2班のメモ

1 班代表 小田 喬さん (女の都西部自治会)

非常におもしろい意見が出ましたので、いくつか出します。

一つは「共稼ぎ」の問題。共稼ぎの人たちをどうするか、一つは広報誌を作って届ける、自治会はどういうことをしてるか、情報を届けること。もう一つは、子どもさんを通じて繋がりを作って行く。夏休みのラジオ体操なんかには、子どもさんが参加してくる。その人たちを（今は）参加して帰って行っているだけだけでも、それで終わってしまうから、そこで何か子どもたちを中心に、何かをしたらどうかと。例えば、ゲームをしてやったりとか、紙芝居とか手品とか、子どもたちが関心を持つような行事をせっかく子どもたちが集まってくるんだから、ラジオ体操を通じて何かをやる、親御さんとの連携を（はかる）。そういうことが大事ではないかと。

それと、活性化のためにはサロンがこれからは非常に大事じゃないかと。いくつかあるんですけど、自治会とか小さな単位でもっと必要ではないかと。現在は、サロンを運営するためには、資格みたいな、5・6回サポーターになるための（講習を）受けなければならないと。その人たちの支援を含めて是非お願いしたいと。

もう一つ、「うちはものすごく活性化してますよ！」というところがあるんですよ。

何かというと、女性が会長で、役員がみんな女性だと言うんですね。

女性が動きはじめたら、70人くらいすぐ集まるそうなんですけども、ものすごく活性化すると。このごろは、女性が中心となって男性を引き入れていると。夏祭りなんか、「大変だ！」という位、人が集まるようになったということで、やっぱり女性の力をどう活用すべきかと。

最後に言いたいのは、目立ったこととかではない自治会の活動とは、ということ。例えば、お亡くなりになったら香典を持っていったり、葬式には参加します。しかし、初盆の時まで配慮して、自治会としてお悔やみに行ってお会いするところは少ないのではないかと。そういう地道な、本当に地域の皆さんの心に響くような活動に目を向けた活動が必要なのではないかと。



- 共働き世帯。夜も遅い。休みは子ども。会社の理解。
夜の仕事をやっている人もいる → 顔を合わせることもない
広報紙を届ける。子どもを活用する。
- イベントもやっている。なじんでいる。
自治会としての老人対策はどうやっているのかと言われる
サロンの設置、自治会の元気をアピール
子ども会がなくなる（鶴見台） → 自治会でやっている
- 加入率90%。女性が元気 → 男性を自治会へ
「助っ人隊」自分のところでも。
子ども会、ラジオ体操 ← 老人会も一緒にやっている。
夏祭り → 人が多くなってきた
自治会は楽しいということを伝えたい
活性化 → 女性会長に
自治会の中の老人会 → 80歳まで元気
- 活動は停滞している。老人会、2割の参加
ゲーム 60人中20人を参加させたい
高齢者を元気にしたい。過疎化も。
旅行もやっているが20人程度で少ない。
婦人部があまり活発でない。子どもも少ない。
イベントを増やしていくこともいいかと思う。
- 元気な高齢者
これから10年後 → 地域はどうなるかを考える
→ このことを理解してもらい地域に参加してもらう
地域へ1割の力の協力、自分で何をしてよいかわかっていない
- 葬式・初盆 → どこもやっていない
自治会も気にしていることを地道な活動を行う。安全安心なふるさと。イベント
に頼ることはしない
広報 → 批判が多い。ネットは閉鎖した。

1班のメモ



今までのお話を聞いて、本当に「そばに居る」ことを実感できる関係性みたいなものが、ベースとして必要なんだと改めて感じました。

結局、フリーライダーの問題も色々あるんですけども、自分たちが相手にしている対象である人たちが、どういう生活スタイルなのか、年齢なのか、世帯構成なのか、そういうことを知ることも大事ですし。

加入数ということに固執すると、逆に言うと、減少ということになる。加入率を出来るだけ維持するというのも、一つの考え方としてあると思います。

また、減少させないでどう維持するか、そういうことも大事だという話がありましたよね。脱会者をどう食い止めるか、そういう視点も大事だと思います。

自治会というのは離れられない宿命というものがあって、地域と共に存在するんだと。しかも、できるだけ開かれていて、今は加入していないけど加入に向けてくれるような、そういうのに繋がっていくような地道な活動と、普段のアピール・・・情報をどう発信していくか、そういう兼ね合いの中でどう自治会を考えていくか。

次回の大牟田のことですが、この前、ちょっと事前打合せに行ってきました。大牟田市では、自治会は公民館を中心にこれまで動いてきた経緯があります。

次回、私が皆さんに提供したいのは、なぜそういうところに自治会というものを編成しようと動いてきているのか、改めて自治会というのがどういう存在なのか、どういう意味を持つのか、改めて考えるチャンスになると思います。

午後は、実際にまちづくり協議会の役員の方と、5グループありますので「1人では可哀そうなので、グループあたり、最低2人は連れてきて」と言ってます。皆さん方の中に入ってもらってお互いの情報交換をしてもらおうかなと思っています。

これから育っていこうとするところと連携と、お互いのところの情報交換をすることで改めて気付くことがあると思います。

それでは今日の講座を終わります。
お疲れ様でした。

「グループ発表 Part II」 終了

Chapter 5 ふり返り

講師：長崎ウエスレヤン大学教授 佐藤 快信氏



皆さん お疲れ様でした。第3回は、「自治会への加入」がテーマの軸でした。皆さんのグループ討議の様子からは、時間が少なく物足りなさを感じるくらいの白熱さが伝わる回でしたね。

「加入」に関しては、加入率に注目していることや、加入しない要因に高齢化などの問題もあることなど、皆さんの討議の中から見えてきたことがありますね。

講座のなかでも触れましたが、私は自治会の加入をメリットとデメリットで論じることには違和感を持っています。メリットとデメリットでみる視点は、最近よく言われる費用対効果で自治会をみることになるのではないかと思うからです。それは、現代の社会・経済のサービス業と同じように損・得で捉えられてしまうように思えます。

実際、皆さん方がされている普段の自治会活動の多くは、いわば採算を度外視したことを地道にされています。その、採算を度外視した活動をするところに、「自治会が自治会であること」の良さがあるように思っています。その意味では、グループ討議のなかでお聞きした「初盆まで関わる」という、会員のそばに寄りそう一見地味な、でもすぐそばにいてくれることを実感できる活動のお話は、改めてそのことを考えさせられるものでした。



また、活性化する（元気になる）ための色々な取り組みも紹介されましたね。加入や参加しないことを責めるのではなく、参加した時に温かく迎えるという態度・姿勢が必要なことや、主役でなくても準主役になれるように、多様な人たちが参加できる機会や場（サロンの話も出てましたね）の必要性もあるようです。

そのこととも関連しますが、自治会は地域住民自治組織（住民が居住する地域内の土地や、それに関連する各種の生活条件の共同利用と管理を行い、さらに土地を媒介にして成立する人間関係やそのまとまりの集団）であることから、「個」ではなく協働する人たちの「集団」として活動できるように開かれていることも重要です。互いに支えられながら、運営・活動するということでしょう。

加入の問題は、メリット・デメリットまたは損・得でない価値観、かつて当たり前であった「お互い様」という視点で自治会というものを評価してもらえたら、また違った見方ができるのではないかと思います。

第4回は、他都市視察ということで「大牟田市」へ行きます。大牟田市民の方との交流もありますので、実りの多い視察になればと願っています。では、またお会いしましょう。

「ふり返り」 終了

第4回 大牟田市のまちづくり

～かける想いは、皆同じ～

Chapter 1 大牟田市の取り組み

大牟田市の地域コミュニティの現状

～ 校区まちづくり協議会の形成に向けて ～



大牟田市 市民協働推進室 地域コミュニティ推進課

CHAPTER 1 大牟田市の取り組み

(大牟田市市民協働推進室地域コミュニティ推進課 山田課長)

ようこそ、大牟田へ。遠路、お疲れ様でございました。
皆さん、今日は2時間以上かかられましたでしょうか？
随分遠いところだなあと感じられたことかと思えます。

皆さんは大牟田に来られるのは初めてという方がほとんどだろうと思
いますけども、実は私どもからしますと、長崎というのは非常に親しみ
を持って感じている都市でございます。



歴史的な経緯でいきましても、長崎市には日本で一番古い眼鏡橋
がありますけど、実は日本で2番目に古い眼鏡橋はこの大牟田にあ
るんです。「**早鐘(はやがね)眼鏡橋**」という、延宝期(1674年)に造ら
れた眼鏡橋でございます。また、江戸時代に三池藩という藩がここ
にあって、これが東北にお国替えになって幕府の直轄地になるん
ですけども、その時にこの地をお世話をされたのが長崎代官だった
といった歴史的経緯もございます。

また、皆様のお手元に「めざせ！世界遺産」というクリアファイルを置かせていただいております。こ
の世界遺産の取り組み、今、長崎市の方では軍艦島を候補として取り組まれていらっしゃるんですが、
私どもの三池炭鉱と一緒に世界遺産を目指しているというお仲間でもございます。

また、世界遺産の構成資産の候補の一つとして、実は大牟田に
は「**旧長崎税関三池支所**」というのがあります。これは現在も三
池港に税関支所がございすけども、長崎税関の管轄、長崎税
関三池支所ということで・・・非常に大牟田の人間にとってみると
長崎というのは大変親しみを持って感じております。



それと、洋菓子、和菓子を作っている「長崎屋」というお菓子屋さんもございまして・・・

ちょうど今年創業100年だそうで、今日から半額セールがあつているということでした(笑)。

長崎屋の前には大牟田市民が列をなして開店を待っていた、ということもございましてですね。せつ
かくでするので大牟田の街並みも・・・時間がないかとは思いますが、多少なりともご覧になって心
に留めて帰っていただければと思っております。



大牟田市の地域コミュニティというのは、まだ
取り組み始めたばかりといった状況でござい
ます。

むしろ、私どもの方が皆様方から学ばせてい
ただくことも多いかと思つて、今日を心待ちに
しておりました。

この後、詳しい説明を差し上げますので、最後
までよろしくお願いいたします。

(大牟田市市民協働推進室地域コミュニティ推進課 吉田主査)

皆さん、こんにちは。今日は一日よろしくお願ひします。
お配りした資料の中に・・・おまけといひは何ですが、ティッシュが2つ入っております。このティッシュは、大牟田の自治会加入率が低いもんで、加入促進のために作っております。
ご参考に持って帰っていただきたいと思ひます。



まず、大牟田の現状を簡単に説明させていただきます。

東と北を山に囲まれておりまして、西には有明海と、その先に皆様の長崎県がございます。観光イベントとしましては、先ほど課長の方から話がありましたように、近代化遺産、三池炭鉱、石炭を掘ってましたので、それに関連する近代化遺産がたくさんございます。観光につきましては、石炭の歴史を展示しております「石炭産業科学館」、それと動物園。動物園は東西から見てみますと福岡と熊本にございますけども、その間には大牟田にしかないということです。だいたい年間20万人くらいのお客さんが見えております。



「三池カルタ・歴史資料館」というのがあるんですけども、実は大牟田が**カルタの発祥の地**ということで、最初にカルタや百人一首、トランプなどが作られたのは、大牟田だということです。それを記念して「三池カルタ・歴史資料館」を作っております。

このカルタにつきまして、長崎県の皆さんとは結構縁がありまして。例えば、口之津港のあたりで南蛮文化が結構入り込んでいます。その時に生まれた印刷の技術を三池に持って来たとか、そんなことを考えた大牟田の学者の方もおられます。

このあたりも長崎県の皆さんとは縁が深いような感じがしております。

お祭りにつきましては、**大蛇山**と申しまして。

7月の第4土日に、公式発表で約30～40万人くらいの人が集まるようなお祭りです。大蛇の山車が13か14ありますけども、町中を練り歩くと、そういうようなお祭りです。

それと「三池光竹」と申しまして、三池山の麓に竹に明かりを灯しまして、何十万本という竹を灯しまして、光のファンタジーを見ることができるともございます。



特産品ですけども、先ほど課長が話しました「**カステラ饅頭**」がここにあります。カステラ饅頭が出来たのもここ大牟田が発祥の地ということで・・・どういふものかといひますと、「ひよこ」とかご存知ですね？

中に白餡が入っていて、外側をカステラ生地で焼いたようなお饅頭です。大牟田のお菓子屋さんに行けばカステラ饅頭はどこでも作っているというような状況です。「たけのこ」と「芝尾みかん」は東京とか関西にも出荷している農産物です。

CHAPTER 1 大牟田市の取り組み

それと石炭にちなんだお菓子ですね、石炭は黒いもんですから、例えば石炭飴とかですね、咳にもたんにもというような風邪予防の飴玉を作ったり、真っ黒なカレーを作ったりですね、石炭にちなんだお菓子とかですね、大蛇山にちなんだお菓子などがたくさん売られています。

交通では100年前に出来た三池港。「港があれば石炭がなくなっても産業が残る」というような先輩達の知恵がございまして・・・そのお蔭で石炭産業が大牟田からなくなっただんですけども・・・その後もいろんな産業が続いているという状況です。

三池港から島原港までの航路がございます。

これもやはり長崎の皆さんとは何か縁があるんじゃないかと思えます。

鉄道は九州新幹線新大牟田駅が出来ました。長崎新幹線が出来れば、大牟田との距離がさらに近くなります。それと、有明海沿岸道路。今日、この道を通って来られたと思うんですけども、これも鹿島の方まで延びています。長崎の方に向かっていきますので(笑)、これも何か縁があるんじゃないかと思っています。



大牟田市の人口なんですけども、今のところ12万4千人、9月1日現在で。やはり高齢化率が高くなっています。

65歳以上が30.5%です。

つまり3人に1人が65歳以上だということになります。

高齢者世帯で考えてみますと、65歳以上の人がいる世帯は48.8%。ですから2軒に1軒はお年寄りがいるというような状況です。さらに高齢者だけの世帯は21.6%。5件に1軒は65歳以上だけ、おじいちゃん、もしくはおばあちゃんだけの世帯ということになっているわけですね。

次に大牟田の事情をお話したいと思えます。

大概、日本全国に自治組織(町内会or自治会)がありますね。

しかし大牟田はそういう制度がなくて、庁内公民館が地縁組織の役割を果たす組織ということになっております。これが皆様方と全く違う構成ということですよ。

大牟田市の人口 124,079人

60歳～	49,703人	40.1%
65歳～	37,785人	30.5%
75歳～	21,117人	17.0%

平成24年9月1日現在 住民基本台帳による。

高齢者世帯状況
大牟田市の世帯数 57,605世帯

65歳以上 がいる	28,160世帯	48.8%
65歳以上 の単身世帯	12,483世帯	21.6%

大牟田市の地縁組織の特徴

- 町内公民館
地縁組織の役割を果たす組織で、他都市で言う、町内会・自治会と同様の組織。
小学校校区、全市単位の連絡協議会あり。
- 自治会
校区単位の町内公民館連絡協議会に属しない地縁組織。(行政として存在の確認が難しい。)

自治会というのはですね、校区単位の町内公民館……

小学校区単位と、全市単位の協議会がありますが、それに属しない地縁組織を自治会と言っているわけです。

そのあたりが皆さんがたと違いがございまして、昼から大牟田の地域住民の皆さんも来て、皆さん方とお話しいただきますけれども、その辺の違いがあるということをご理解いただきたいと思います。

その公民館の加入率ですが・・・。

昭和58年は74%。それが昨年、平成23年度を見てみますと、もう35.3%しかございません。

ですから行政が公民館にお願いして情報を流しても、35%にしか届かないということです。

これはもう非常事態だと思います。

それで、その原因を地域の皆さんと考えてみたのですが、やはり1番の原因は、先ほど申しました高齢化ですね。

高齢化が進んで、なかなか動けないような人が増えたとか。

2番目の原因は、高齢化の関係もありますけど、役員ができないとか、共働きですとか、ただ単にやりたくないというような人たちも出てきています。

3番目の原因は、面倒だから色々な事業に出たくない、と。

4番目はお金のことです。払ってない、払いたくないとか、そこまでお金出してなんだとか、なんでお金を払わなきゃいけないんだ、とかそういうことを言う人は増えていて、難しい時代になってきていると思います。

そして「その他」とありますが、ここに書けないような問題がありまして、例えば仲が悪くて「あの人がいるから俺は入らん」とか、そういう本当に小さい、個人的な事情で入らない、やめるという方もいる。そういったような理由で、今、30%台にまで落ち込んでいるというような状況です。

これは、大牟田市としては大問題なんですね・・・。

「やはり住みよい地域で暮らしたいでしょう」と、地域の方々に話しています。

今どうですか、というと・・・

「一人暮らしのお年寄りが増えている」

「近所づきあいが薄くなってきた」

「隣の人がだれかわからん」

「いつの間にか誰もいなくなり、持ち主も変わって、誰が住んでいるかも分からない」

そういうところが草ぼうぼうになって大変だとか。

それにマンションや団地ですね。どんどん増えています。こういうところは隣同士の付き合いがなかなか無いんですね。そして、子供が外で遊ぶ姿を見かけない。昔は学校とか公園で遊んでいたんですが、今は学校は5時で閉めてしまい、あとはスポーツクラブが練習に使うとか。公園も、あんまり子供だけで遊ぶな、なんて親が言っていることが多いようです。



公民館加入率の減少

年度	総世帯数	加入世帯数	加入率%
S58	53,514	40,025	74.8
H3	54,361	36,390	66.9
H13	56,512	28,053	49.6
H23	57,131	20,194	35.3

公民館加入率減少の要因

- ① 高齢化
- ② 役員ができない、やりたくない。
- ③ 事業に関わりたくない。
- ④ 会費、募金等の金銭的負担
- ⑤ その他

ただ、やはり一番の原因は子供の数自体が減ったということでしょう。

そして「どこでどんなことがあっているのか全然分からない」。

組織率が減っていますので、こういう問題が出ます。

これが五年後、十年後になったら地域はどうなるんだろうと考えてみたのですけれども、大牟田の高齢化率は十年後の推測では38%まで上がるのではないかと。五分の二が高齢者です。



最近では、孤独死がどんどん増えています。他にも虐待とか、医療や介護の問題があります。たとえば災害時に避難所に行っても「周りは誰も知らん」とか、そういう問題も出てきます。

これは、やはり地域づくりのための新しい地域コミュニティの再生が必要だと。この35%を、50%、60%に上げないといけないということで、色んなことを考えているところでございます。

そういうことを地域の皆さんとか色んな人たちの意見を参考にして

「地域コミュニティ基本指針」というのを、平成22年の12月に作成しました。そして先ほどお渡ししたこのピンクの本ですね、概要版ですけども、これを市民の皆さんと一緒に作成しました。「どういう風にしてコミュニティの再生をしていこうか」ということなんですけれども、やはり地域コミュニティというのは、皆さんご存知かと思えますけれども自助・共助・公助とありますね。



- ◆ 自助・・・個人や家族の助けで行うこと
- ◆ 共助・・・地域の助け合いで行うこと
- ◆ 公助・・・行政でしかできないこと

その中でやはりいちばん大事なのは共助じゃないかな、ということですね。

自助は自分でなんとか、備蓄とかことをやるということですけども、それらよりもやはり共助、それを担うものとして「校区まちづくり協議会」を立ち上げましょうと謳(うた)っています。

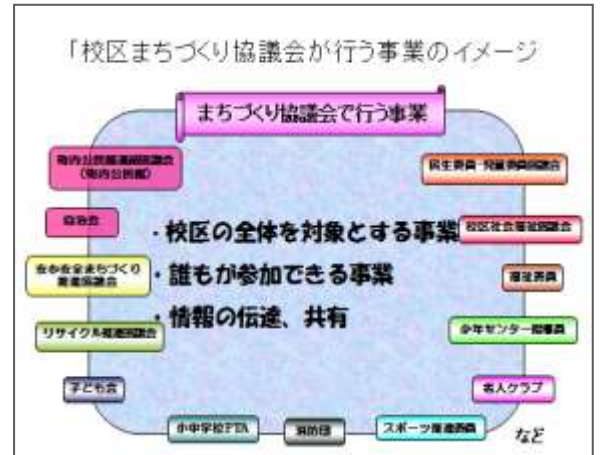
この協議会では、校区内の全世帯を対象にした組織です。今までの組織は、35%……庁内公民館の加入者だけの組織だったんです。残りの65%は全く縁がない。校区まちづくり協議会は、「校区内の全員で組織してくださいよ」ということになっております。庁内公民館、自治会、民生委員、福祉委員、少年センター指導員、老人クラブとか、

まちづくりの組織を全部含めて、小学校区単位の組織を作っていこうということです。



今まで、公民館で色々な事業をやってありますが、自分たちでこれだけは・・・例えば「ゲートボール大会だけは自分たちでしょう。ただ、今まで公民館でやっていた運動会なんかは、校区みんなでしましょうか」と。そういうことができてるわけですね。

他にも、色々な組織が色々な事業をやっているけど、校区全体でできるような、全体でしたほうがいいような事業があれば全体でやりましょうと。



例えば安心安全まちづくり推進協議会。これは自主防災組織ですから、やはり校区全体にかかってきます。それからリサイクル、資源ごみの分別回収なんですけれども、これも同様です。

そして組織の今までは A 公民館、B 公民館、C 公民館とありますと、それら公民館だけの組織で〇〇地区連絡協議会というのでできていたんですね。しかし、先ほど申しましたように、組織率が35%になってしまいました。ですから結局、新しい組織として、連絡協議会に入っていない自治会や公民館、さらには、自治会が立ち上がってないとかで、どの自治会や公民館にも属していない人たちもひっくるめて、校区まちづくり協議会をつくっていこうというふうなことです。他にも民生委員さんとかスポーツ推進員さんとか、色んな役割の人がいます。

今、まちづくり協議会の課題は、やはり加入数を増やすことです。そして、自治会が立ち上がっていないところに、新しく作るということ。これもまちづくり協議会の役割です。

今日参加する吉野校区では組織率が16%しかなかったんです。昨年3月25日に立ち上げたんですけれども、その時は校区内のたくさんの自治会長と色々話し合っ、組織を作りました。そして40%を超えるくらいの組織をつくったところで、まちづくり協議会を立ち上げたました。

この組織化といいますか、加入促進ですね。これが大事じゃないかなと思っております。

「取り組むのは誰？」ということで書いているんですけども、市政というのは行政だけが作るものではないんだということです。行政が作るということにしますと、押しつけになってしまいますので、コミュニティの支援につきましては、地域の皆さんと一緒に作っています。

そこで市は何をするかというところですが、これはまちづくり協議会を作るには、地域の皆さんにお願いするしかない。いくら行政が作れ、作れといっても出来ないようになってしまふし、また、行政の思っているやり方をあまり当てはめてしまうようになってしまふと地域の人たちもやりにくくなってしまいます。そういうことで、地域の人たちにまちづくり協議会の仕組みをつくることからお願いしています。

校区まちづくり協議会形成に取り組むのは誰？

取り組むのは地域住民のみならず自身

市は・・・
取り組みを始めるきっかけ作り、説明会、講演会
校区への働きかけや支援

校区まちづくり協議会の役割

- ①住民自治機能
- ②安心安全な地域社会の形成
- ③生活環境の維持、改善
- ④地域資源の保護、伝承
- ⑤交流・親睦・支え合い
- ⑥青少年の育成、啓発
- ⑦情報発信、情報共有

その中に7つの役割を位置づけているところがございます。

- まず①住民自治機能ですが、会議の光景です。やはり住民同士の話し合いが一番大事です。これは人数が少ないので多分役員会だと思いますが、このような自治機能。
- ②安心安全な地域社会の形成ということですが、これは子ども見守り隊の方々の、毎朝道に立って、小中学生に声掛けをしております。そういう活動です。
- ③生活環境の維持改善ということで、清掃です。市内でも年に2回、一斉清掃というかたちで大きくやっています。
- ④はまちの歴史や史跡を掘り起こして、地域資源の伝承ということをしております。あとは自然保護です。たとえば里山が荒れないように整備するとかですね。
- ⑤交流・親睦・支え合いというところでは運動会とかグラウンドゴルフとかをやっているようなことです。
- ⑥は子ども。青少年育成啓発とか。工作とか昔遊びとかを教えたりするわけですね。
- ⑦情報発信・情報啓発ということで、機関紙ですね。これを発行したりしますし、市としましても、まちづくり協議会の皆さんと協力して、ホームページを立ち上げるということは今考えています。

①住民自治機能(会議の光景)



⑦情報発信・情報啓発
(校区・町内の広報誌作成)



②安心安全な地域社会の形成
(子ども見守り隊)



校区まちづくり協議会の役割

- ① 住民自治機能
- ② 安心安全な地域社会の形成
- ③ 生活環境の維持、改善
- ④ 地域資源の保護、伝承
- ⑤ 交流・親睦・支え合い
- ⑥ 青少年の育成、啓発
- ⑦ 情報発信・情報啓発

⑥青少年の育成、啓発
(子ども活動の支援)



③生活環境の維持、改善
(清掃しながらの公園ゆき)



⑤交流・親睦・支え合い
(地域運動会)
(グラウンドゴルフ大会)



④地域資源の保護、伝承
(わが町の歴史・史跡めぐり)



④地域資源の保護、伝承
(里山整備の様子)



以上の7つについてですね、まちづくり協議会の業務ということで書いております。

この図が市と住民、まちづくり協議会の関係図なんですけれども、あくまで協働のパートナーとして、対等に一緒にやっていますというようにしております。

そして市の窓口、コミュニティ推進課。今までは「市役所にいってもどこに行けばいいかわからん」というお叱りも多かったのですが、まずは「私どものところにいらしてください」と。そういう窓口です。ここに地域担当職員が5人配置されておりまして、それぞれの地域で頑張っていくということです。



市の支援策

地域コミュニティの再生に必要な地域課題の克服のために、人的・物的・資金的な地域支援策を行い、協働による地域づくりを進めている。

まちづくり協議会を作っていただいても、やはり地域の方だけでは厳しいところもございます。

地域が頑張っているんだから、行政がやはり支援しないといかん！

ということです。

人的・物的・資金的支援があります。人的支援は窓口の整備と地域担当職員の配置です。物的支援としては活動拠点の確保。資金的支援としては、校区まちづくり交付金制度というのがございます。

まず運営交付金。資料は大正校区の例をあげていますが、基本的には校区人口×100円を交付します。大正校区は6300人以上いますので、年間63万円ということになります。ただし加入率によって多少増減します。


校区まちづくり交付金とはどんなもの？

【認定要件】

- ① 校区の世帯の50%以上が加入している
- ② 規約を有する
- ③ 自主財源を有する

【7種類の交付金】

- ① 運営交付金
- ② 校区活性化事業交付金
- ③ 町内振興事業等交付金
- ④ 校区活動拠点確保交付金
- ⑤ 校区活動拠点整備初期投資交付金
- ⑥ 加入対策交付金
- ⑦ 校区まちづくり計画策定交付金



①運営交付金 大正校区の場合

- ・ 校区まちづくり協議会の運営に対する交付金
- ・ 年: 校区人口×100円 最低30万円
- ・ 加入世帯率に応じて減額・増額

【大正校区人口】 6,344人	【加入世帯数】 1,122世帯
【校区世帯数】 2,590世帯	【加入世帯率】 43.3%
(運減率) 40%⇒0.8 45%⇒0.9 50%⇒1.0 60%⇒1.1 70%⇒1.2	【加入世帯率の計算方法】 【加入世帯数】 1,122 【校区世帯数】 2,590 1,122 ÷ 2,590 = 43.3% よって43.3%

(現時点) 6,344人 × 100円 × 0.8 = 507,520円
小浜第2県道120世帯の加入⇒47.9% 570,960円(1割増)

CHAPTER 1 大牟田市の取り組み

2番目が校区活性化事業交付金ということで、校区全体で行う事業に対する交付金です。運動会とか、一斉清掃とか、そういうものを想定しています。

3番目は町内振興事業等交付金で、公民館ごとに交付している制度です。

その他、校区活動拠点確保交付金、校区活動拠点整備初期投資交付金、加入対策交付金、校区まちづくり計画策定交付金があります。

<h3>②校区活性化事業交付金</h3> <ul style="list-style-type: none"> 校区を挙げて取り組む事業が対象 例) 環境美化活動、夏祭り、敬老会、運動会、スポーツ大会など  <p>【大正校区人口】6,344人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>校区人口</th> <th>交付額</th> <th>校区人口</th> <th>交付額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,000人未満</td> <td>180,000円</td> <td>6,000人以上</td> <td>240,000円</td> </tr> <tr> <td>2,000人以上</td> <td>200,000円</td> <td>8,000人以上</td> <td>260,000円</td> </tr> <tr> <td>4,000人以上</td> <td>220,000円</td> <td colspan="2">校区人口により段階に区別</td> </tr> </tbody> </table>	校区人口	交付額	校区人口	交付額	2,000人未満	180,000円	6,000人以上	240,000円	2,000人以上	200,000円	8,000人以上	260,000円	4,000人以上	220,000円	校区人口により段階に区別		<h3>③町内振興事業等交付金</h3> <ul style="list-style-type: none"> 校区まちづくり協議会に加入している5世帯以上の自治会または町内公民館が取り組む重要や運営費が対象 例) 環境美化活動、敬老会、子ども会支援 申請と交付先は、校区まちづくり協議会 <table border="1"> <thead> <tr> <th>世帯数</th> <th>世帯割</th> <th>加算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5世帯以上</td> <td>250円</td> <td>24,000円</td> </tr> <tr> <td>20世帯以上</td> <td>250円</td> <td>30,000円</td> </tr> <tr> <td>50世帯以上</td> <td>200円</td> <td>34,000円</td> </tr> <tr> <td>100世帯以上</td> <td>150円</td> <td>40,000円</td> </tr> <tr> <td>200世帯以上</td> <td>100円</td> <td>54,000円</td> </tr> <tr> <td>500世帯以上</td> <td>0円</td> <td>120,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【20世帯の公民館等】20世帯×250円+30,000円=35,000円</p>	世帯数	世帯割	加算額	5世帯以上	250円	24,000円	20世帯以上	250円	30,000円	50世帯以上	200円	34,000円	100世帯以上	150円	40,000円	200世帯以上	100円	54,000円	500世帯以上	0円	120,000円
校区人口	交付額	校区人口	交付額																																			
2,000人未満	180,000円	6,000人以上	240,000円																																			
2,000人以上	200,000円	8,000人以上	260,000円																																			
4,000人以上	220,000円	校区人口により段階に区別																																				
世帯数	世帯割	加算額																																				
5世帯以上	250円	24,000円																																				
20世帯以上	250円	30,000円																																				
50世帯以上	200円	34,000円																																				
100世帯以上	150円	40,000円																																				
200世帯以上	100円	54,000円																																				
500世帯以上	0円	120,000円																																				
<h3>④校区活動拠点確保交付金</h3> <ul style="list-style-type: none"> 公共施設が活用できない場合の民間施設借り上げ費家賃として(上限3万円/月) <h3>⑤校区活動拠点整備初期投資交付金</h3> <ul style="list-style-type: none"> 校区活動拠点に必要な機器などの購入費・改装費 1校区一回限り、上限50万円 <h3>⑥加入対策交付金</h3> <ul style="list-style-type: none"> 加入対策を行う校区まちづくり協議会に交付 印刷費、事務連絡費など年間5万円(5年間の時限的交付) <h3>⑦校区まちづくり計画策定交付金</h3> <ul style="list-style-type: none"> 校区まちづくり計画策定への支援 コンサル委託料や印刷製本費など1校区一回限り、上限40万円 	<h3>大正校区まちづくり協議会拠点 (旧西駅公民館にしき屋隣)</h3> 																																					

お時間が無くなっているようですので、この説明はおしまいといたします。

午後からは大牟田の地域の役員が皆様と一緒にお話しをするということになっておりますので、ぜひ色々情報交換をしていただきたいと思います。どうもありがとうございました。(会場拍手)

Q & A

1 加入者からは会費などは徴収しているのでしょうか。

だいたい100円くらい取っていますが、1、2校区では取っていません。
そういうところはそれ以外の自主財源を活用しています。

2 「校区内全住民加入」と謳っているのに「加入促進」しなければならないのはなぜでしょう。

そこが大牟田市の特例なところで、普通は住んでいる地域の自治会に入りますね。
大牟田は組織ができた経緯(いきさつ)から違うんです。
町内公民館があって、そこに活動をお願いしています。
ここに住んでいるからこの自治会、ということにはなりません。

3 町内公民館は誰が作ったものなんですか。

地域の方です。

4 今日見えている皆さんは、公民館の役員なんですか。

はい。そうです。

5 連合組織もありますが、それは各公民館の連合組織という形であるということでしょうか。

大牟田には一番大きな組織としては、市の町内公民館連絡協議会という組織が小学校区単位であります。その下に町内公民館があります。

- 自発的にお金を集めて町内公民館というのをつくったのならば、自治活動はもっと盛り上がっていてもよさそうなものですが。—

大牟田も昔は組織率が高かったんです。58年度は74%ありました。
ただ、やはり先に申したような問題で、全部やめていったんです。
結局23年度は35.2%になってしまったと。

6 校区内で運動会をする時は、会員を対象とするのか、全世帯を対象するのか？

今までは町内公民館の加入者だけでした。
まちづくり協議会になると「校区全体でしてください」ということにしています。
それが目的なんです。

7

色んな組織を一緒にして新たな組織を作るということは、既に入っている人であればともかく、未加入の方に入っていただく場合、その人たちに知らせるためにどんな方法を使っているのでしょうか。

市としては、例えばマスコミを使うこともあるでしょうけど、色々なところに行って、「新しい組織を作れば、今までと違うから入ってくださいね」というお願いを、どういう風になさったかというのが一番問題で、それを教えていただけたら、私たちの参考になると思うのですが。

まちづくり協議会は「地域の皆さんに作ってくださいよ」というのをお願いしています。

立ち上げるためにはまずは準備委員会ができて、そこで色々活動して・・・何をしているのかと言うと、規約を作ったり予算を考えたりなんかをします。

その中の一つに加入促進があります。

まちづくり協議会は「50%以上を目指してください」ということにしています。

50%以上にならないと交付金制度は該当しませんよという条件を付けている。

吉野校区とかは16%しかないの、一生懸命になって加入促進をしていました。

はじめの5年間は経過措置として40%でよいとしていましたが、そちらの校区は41, 2%までもっていきました。具体的、まず準備委員会の過程で、チラシを全世帯に配布しました。市としても、市内全世帯に配布している広報大牟田で呼びかけたり、全世帯を訪問して説明をしたり……まあ中には留守の人もいて、全員には行き届いてはいませんが、そういうところでやっていきました。

また、その後でも、協議会ができる過程について、チラシを何度も全世帯に配布しました。

そういった感じですが……。

8

数字的なものなんですけれども、大牟田市には町がいくつくらいあるのでしょうか。あと、まちづくり協議会・・・小学校区単位ということなんですけれども、これはだいたいいくつくらいの町で構成されているのでしょうか。

町内公民館は230くらいあります。

自治会が、数はつかめていませんが、だいたい200くらいあるようです。

合わせると地域の組織というのは400くらいはあるんじゃないかなということです。

まちづくり協議会は小学校区ごとですが、小学校区は22あります。

一番大きな協議会では、町内公民館が16くらいあります。

自治会を含めたところでは20くらいで構成されるところがあります。

8

少し混乱しているんですけども。

長崎の場合ですと、公民館活動というのは教育委員会あたりが色々指導していて、地域の方は、いわゆる地縁関係、自治会が主になるんですね。

その中に「校区まちづくり協議会」という、もうちょっと小っちゃくしたのがあって、各校区に対象が限られてますけど青少年健全育成協議会というのがあるんです。それは今、このまちづくり協議会の中に入っておられるそれぞれの団体メンバーというふうな形になってるんですけど。

私たちの校区、自治会では7つの自治会が校区にあるんですね。

青少年健全育成協議会というのが自治会も老人会も子供会も含めた活動をしているんですけども、それはいわゆる自治会がやってる活動とは別な、対象が青少年ですから、限られているというようなことです。

その辺でちょっと、まちづくり協議会というものに類するものを私どもの校区あたりで持ってくるとすると、どうしたものかなあという戸惑いがあるんですけども。

そのあたりは大牟田市で特有点なんですけども、町内公民館が、まちづくり協議会ができる前は、自治機能と、教育委員会が管轄しているような、講座とか、そういった機能も持っていました。2面性があったんです。

そういった組織に、大牟田市としては、自治組織が無かったものですから、地縁的なものもお願いしているということだったんですね、結局会員数が下がりました、大変な問題になっているんですけども、この市役所の担当もですね、公民館は、この地域コミュニティ推進課ができる前は教育委員会だと思っていたんですよ。

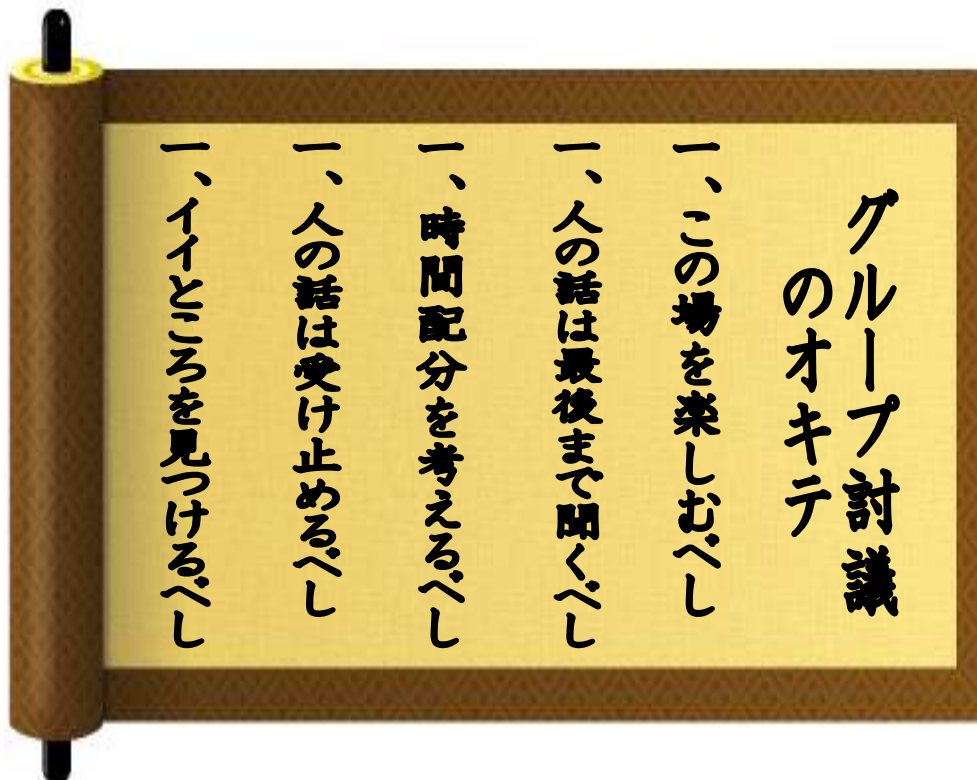
私たちの課ができてから、私たちがやるようになっていくんですけども……うちの方が強みがあるというか……。

他にも質問が尽きないようなんですけども、そろそろお昼になりましたので、午前の部の質問は終了とさせていただきます。＼(^▼^)/

「大牟田市の取り組み」 終了

Chapter 2 グループ討議・発表

大牟田市の校区まちづくり協議会の皆さんと一緒に、
4つの班に分かれてのグループ討議と、
各代表者による発表がありました。





香田

皆さん、こんにちは。このたびは、このような場を設けていただきまして誠にありがとうございます。

今日は、大牟田市の校区まちづくり協議会の皆様との意見交換ということで、今、長崎市の方で実施しております「地域づくり担い手育成講座」の受講生、全部で18名とともに大牟田の方にやって参りました。



まず、簡単に私の方から講座の目的などを、説明させていただきます。

この講座の目的としましては、地域の若い世代の方々に自治会活動への知識を深め、自治会を牽引する力を身に付けていただくことを目的として実施しております。

毎回、テーマに沿ってグループ討議を中心に意見を出し合い、自治会の活動状況や地域の情報交換を行い、地域活動に関わる人材の育成に取り組んでいます。

今年度は、「住民主体の地域づくり」の調査研究を実践しておられる、(会場の後ろにいらっしゃいますけども)長崎ウエスレヤン大学現代社会学部長の佐藤 快信教授を講師としてお招きし、6月から来年2月にかけて全6回シリーズで、本日が第4回目の講座となっております、全受講生34名のうち18名がこちらに参っております。

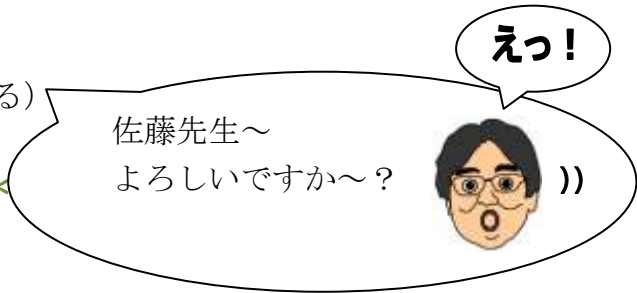
毎回講座終了後、受講後の感想や率直な意見などをアンケートとして提出していただきまして、講義の主旨や講座の中での受講生とのやり取り、グループ討議を踏まえての主な発表内容などをお手元にございます、大牟田市の方には資料としてお配りしましたが「担い手通信」としてまとめておりまして、すべての受講生に送付しております。受講生にとっては、前回の講座内容を振り返った上で次の講座に臨めるほか、都合により講座を欠席された方には講座の雰囲気や少しでも感じてもらえるよう、制作には工夫を凝らしております。



本日は、地域づくり担い手育成講座の受講生と大牟田市の「校区まちづくり協議会」の方々の意見交換ということで、普段の地域での活動内容や活動する上で感じることや悩み、課題などを出し合ってください、他の方の意見などから少しでもヒントが得られる場になればと思っております。

また、長崎の方は大牟田に、大牟田の方は長崎に、人的ネットワークを広げる滅多にない機会だと思っております。これからの2時間弱の時間にはなりますけども、どうか有意義なものにしていただければと願っております。

それでは、(会場の後ろで写真を撮ってらっしゃる)




えっ!

佐藤先生～
よろしいですか～?



))



・・・(!)今さっきまで、カメラマンやってました佐藤です。(笑)
 (マイクを渡されそうとして)一応、商売柄、声は通ると思いますので。



実は私は、まちづくりとか地域政策をやるってことで去年、講師という形で大牟田市に関わってました。午前中のお話で、まちづくり協議会を立ち上げられたという説明があったんですが、これまでは、自治会というよりも公民館というようなものが自治機能というものをかなり担っていた、ということでした。

長崎市の場合、地域によってケースは違うんですが、高齢化や加入率低下の問題がある。また、「自治会がやるべきことは一体何なのか」という課題もある訳なんですけども、逆に言えば、なぜ大牟田が改めて自治会というものを作らないといけなかったのか、なぜ今、この時代に自治会というものが必要とされているのか、ある意味、逆に浮き上がらせることになるという風になりまして、改めてこちらの方をお願いして今回来たということです。



長崎のメンバーの方というのはですね、非常に、さっきの食事中も「あーなんだ！何なんだ一体！」「これでいい？これ、どうやっているのかな～？」という感じで・・・講座の時も、途中休憩入れるんですけど、休憩なしで暴走するんですよ！（笑）



だから、そういう意味では、ちょっと大牟田の皆さんにご迷惑を掛けかもなあと…。(会場笑)

いつも私が「皆さん、休憩入りましょう。」と言うとですね、

「ちょうど、サトちゃん、また盛り上がってきた時にまた水掛けるのかよ！！」って、私、悪者になっちゃうですね。そういうこともあるんですけども、たぶん色々なことを皆さんに聞きたいと思うんですよ。

ですから、分かる範囲で結構ですので、それに答えてあげてください。



で、この講座の一つのモットーはですね

「分からないことを持ち帰らない」ということです。

そういう意味では、是非皆さん方と本当に2時間・・・たぶん終わった後、疲れますよ！（笑）

そういった会になってくれたらいいと思っています。

それでまず最初は、2時間なんですけども、

1時間という一つの区切りの中でね・・・ちゃんと、みんな休ませてあげてね！

CHAPTER 2 グループ討議・発表

それで、まず話してほしいのは、自己紹介がてら皆さん方で「今、こういう課題があるよ」とか「こういう問題があるんだよ」とか、「午前中の話を聞いてて疑問があったよ」とかを出すような感じで話し合ってみてください。

こちらの方である程度テーマを決めても、結構暴走してどんどん広がっていくんで。

では、自己紹介というところから始めてもらいながら、自己紹介を長くやったら、2時間あつという間なので軽めに済ませて。それは、それぞれ任せますんで。多くても2分ぐらいで終わってね。じゃー、私はこの後、カメラマンで。

あと、写真取ってホームページとかにアップさせようと思ってはいますが、マズいという人いないですね？（笑）最近、肖像権の問題とか最近あるんで。大牟田の方々、OK？あとで、佐藤が撮って「ふざけるんでない！！」って賠償責任になったら…（笑）

じゃー、熱い討議、始めてください。



それぞれ約1時間15分のグループ討議。

途中休憩(?)を挟みつつ、その間も話し続け、お互いに連絡先を交換したり、自治会のホームページや会報誌を紹介したりする姿が見られました。



さあ、それでは3時になりましたんで。

「こんなこと話したよ〜。」ってことで構わないんで、発表をお願いします。まず、今日はどちらから行きます？5班から行きます？

では、こっち（5班）から行こうか！

5班代表 事務局・島内（自治振興課 地域ふれあい係長）

それでは、5班のほうから意見交換会の内容について発表します。

お互いの自己紹介の後に話が始まりまして・・・。

大牟田市が協議会を作られたことによって、行事への参加等、下部組織の役員さん方が大変になっていないかというご質問がありました。これについて、行事が重なることはあるけども、単位自体の行事を増やすことはなくて、皆さん協力的に会を運営しているという回答がありました。

それと、組織率が下がったということで、若い人をどうやって取り込んでいこうかということなんですけども。地域でいろいろな問題もあるけれど、地元での繋がりを密にしていけば、どうにか若い人を取り込んでいけるんじゃないか、という話があっております。

また、大牟田市さんの方になるんですけども、加入率が30%ということは情報が行き届かなくなったということで、「情報の伝達」のために、この校区まちづくり協議会が出来たという経緯の説明がありました。

長崎の方でも、似たような「まちづくり協議会」が作られている地区があるんですけども、そこでは情報を共有することによって各団体の行事の調整ができ、うまい具合に運んでいるということがあっております。

それと、育成協議会もそういう行事の調整をやるんですけども、子どもが少なくなったこともあって、育成協議会が「まちづくり協議会」の行事に乗っかってしまい、汗をかかなくなってきているという報告があっております。

加入率の低下については、大牟田市さんの午前中の説明にもありましたように、「高齢化」や「役員になりたくない」という状況は共有のものであるということです。

未加入者の方に対しては、話をすれば分かってもらえるので、どんどん未加入者の方に対して話をしていきたいということと、若い人を引き込むためには足を運んで、対話に努めていく必要があるということが「まとめ」という形で終わっております。



4 班代表 事務局・香田（自治振興課 地域ふれあい係）

4 班の発言内容なんですけども。

午前中に大牟田市の取り組みについて説明を受けまして。

大牟田市の方では「公民館＝自治会（長崎市でいう）」という説明を受けたんですけど、やっぱり言葉では分かって、頭の中ではなかなか整理できてなくてですね。

最初の話の中で、なかなかその点が噛み合っていかなかったということがありました。

ただ、加入率が下がっている中で、それを上げていこうとする努力をしないといけないというのは共通の考えで、例えば問題点として、新興住宅地とかは、なかなか加入率が上がらないとか、入ってきても加入しないとか。大牟田市の方でも公民館の加入率が80%くらいのところもあるらしいんですけども、そういったところは得てして人口が少ない。

人口が多い所は加入率が下がる、というようなところはどこも共通なのかなと感じました。

今の5班の発表の中でも出たんですけども、若い人をいかに活用していくかということで、長崎の自治会の話では、「子どもが来ると親も付いて来る」ということで、子どもをうまく地域の活動・行事の中に引っ張ってくる、子どもを含めて若い人を育てるということは大切なのではないかと。

あと、街を活性化していくためには、活動自体が面白い、人が集まってくるような、楽しい魅力づくりを仕掛けていく必要があるのではないかという意見が出ました。

話をしている中で、長崎市と大牟田市、背景の違いとか人口数の違いとかはあるんですけど、基本的に抱えている問題というのは同じなんだな～と。

そこは、今後も色々なところで情報交換をして、解決の方法・ヒントを探っていけばいいのかなと思いました。



3班代表 児島 正数さん（新大工町自治会）

大牟田市の皆様、本当に今日はありがとうございました。

来るまでのバスの中で「公民館組織って何だろう？」とか、大牟田の方では炭鉱が閉山になって、その辺の関係があるんじゃないかというような意見を言っていたんですけど、非常にそれは失礼な話でして、3班においでになっている玉川校区の皆さん、上内校区の皆さん、それぞれ校区の特色が全く違うということが良くわかりました。

その中で玉川校区の皆さんは地域的特性として旧来の公民館組織と新興住宅地の自治会組織との連携という話がありましたし、上内校区の皆さんは昔から地域の繋がりが強いと。

ただし、なかなか色んな問題があって、過疎化が進んでいると。

そういった話で地域の課題は別としても、今の協議会というのがその点、組織が大きくなることで例えば県からの補助を得たりとか、今まで別の小さい組織だったのを広げることで、色々と輪が広がったりとかいう話で、非常にいい試みであると感じた次第です。

どこも高齢化と子どもが少なくなっているというのは大きな課題の中で、公民館組織の繋がりもあるんでしょうけども、結構皆さん、地域の皆さんの顔と顔の繋がりとかですね、今でも受け継がれている、大牟田はいい街だな～と思った次第であります。

長崎市においても連合自治会というものがありまして、多分、大牟田でいう「まちづくり協議会」と同じような感じかもしれませんが、連合自治会で行政との関係というのも私の所属する自治会で出るところでございますので、今日の話は長崎市役所の方にも勿論、色々得るところがあったと思うんですけども、長崎においても行政と自治会組織との関係で非常に役に立つかと思いませんので、帰って次の講座、まだ2回残っていますけど、十分活かしていただきたいと思います。ありがとうございました。



では、2班、お願いします。

1班？・・・そうか、2班がないのか！！（会場笑）

今日は（通常2班からの）助っ人（冨増さん）に。

1 班代表 冨増 清志さん (光風台第2自治会)

今日は「おまえは喋るな！」と言われてたんですけども…。(会場爆笑)

女の都の小田さんから「いいから、やれやれ！」と言われてまして。

厚かましく発表させていただきます。

まず、自己紹介だったんですけども、大牟田の各校区の協議会の方の熱い話が延々と続きまして、これだけで終わってしまうんじゃないかというほど役員さんたちの燃える想いをまず聞かせてもらいました。すごい心意気ですね～。

そして私たちの班は「まちづくり協議会って一体何なんだ？」という、その組織は何なんだという質問攻めをしまして、ようやく「ああ～こういうものか！」というところで納得がいったところでございます。

それでお話を伺う中で、やはりこの協議会というのは校区で広く活動するので、町内公民館ではやれないことでも、協議会だとやれることがたくさんあったということでした。

例えば、運動会だとか老人福祉の文化祭だとか、あるいは夏祭りだとか。

勿論、町内公民館独自で続けていく事業もあるけども、皆で手を繋いでやっていくことで行動の範囲が凄く広がったということでもあります。しかし、まだこれは立ち上がったばかりで、その実績・効果、あるいは問題点というのは、まだ完全には抽出できていないという状況だということを経直におっしゃっておられました。これがうまく反映してですね、こういう良い組織になったよというのを、また聞かせていただきたいと思います。

その中で一番胸を打たれたのは、この協議会の中では一番大事なことは情報の発信だと、それで「協議会だより」という新聞を作っている、(大牟田市の)中野さん、ちょっと上げてみて。こうやって、2ヶ月に1回発行しているそうです。それで我が協議会は何をしているのかということを知らせることが一番大事だと。これでもって「ああ～こういうことをやっているんなら、自分もかたらんばいかん」と。あっ、これは長崎弁です。(会場笑)

会員を増やしていくためには、この作業は絶対手を抜けない一番大事なことだと言うことを教えていただきました。

取りとめがなくなくて済みません。以上でよろしかったでしょうか。





お疲れ様でした。

それぞれの色んなところで、まずシステムが違う部分があって、だぶんそのギャップを埋めるというところがあったかと思います。

その中で、情報をどう共有していくか、最後に1班が言われましたように、情報を実は発信することは情報を集めることになる。そういう意味では、情報をどんどん出していくことは必要なんだと。ただ、大変ですけども、実際やられるとわかりますけど、たかが10秒、されど10秒で、その10秒をどう埋めるのってなる。だんだん慣れてくるとタイトルにも凝り始めて、どうキャッチで掴めたらいいかとか、そんな風にだんだん学習していかだと思えます。

それから、課題的にはたぶん、日本全国の都市部でないところでは基本的に同じようなことになっているんだろうと思います。少子化、そういう意味では、今いる現状の会員の中でどう皆で助け合いながらやっていくかということがたぶん必要になってくるかと思えます。

そう言えば、長崎の（関係者で）こうして外に出ていくのは何年か振りかなんでしょう？・・・平成20年度？・・・20年度と言えば4年前！

そうですか。そういう意味ではオリンピックみたいなもんですね。（会場笑）

それではオリンピック年度にまた、行っちゃってください。

その時は、出来れば大牟田さんの方が長崎の方へ。

私の趣味・・・じゃなくて「モットー」なんですけども。

こうやって色んな所に出て行って、市民同士の交流をするの。

いいんですよ～、行政置いてっちゃって。市民の方のところで繋がって結構なんです。

その輪がだんだん広がって、気が付いてみれば、次、来年は長崎と大牟田でやるんだから、

「じゃー次、熊本のどっかにちょっかい出してみようぜ」っていうふうにしていただけると本当は嬉しいんです。で、気が付いてみれば九州全部制覇ですね、発祥は長崎というふうに繋がっていいだけだと思っています。





長時間、熱心な討議ありがとうございました。

今日はこうやって我々、講師の佐藤先生を含めて23名でこちらの方にお伺いをした訳なんですけども、前回の講座が9月8日、その時に大牟田市地域コミュニティ基本指針の概要版を予習用としてお配りして、今日のバスの中、今日の午前中の大牟田市さんからの説明、色々担い手講座の受講生の方もモヤモヤしたものがあったんじゃないのかなと思います。

「わかるようで、ようわからん！」という思いがあったんじゃないかなと思いますけども、この約2時間弱くらいの時間でこちらのまち協の方々とご討議・意見交換をさせていただく中で、そのところもだいぶ解消されて、やっぱり基本的には同じ、(組織自体の)名前は違えども、まちに対する想いとか、そういったものは同じなんだという気持ちを共有できたんじゃないかと思っております。

先ほど佐藤先生もおっしゃってましたけども、長崎市と大牟田市の市民レベルで今後も交流が続くことを願っておりますし、先ほど少ない時間でしかたけど休憩時間を設けさせていただいた時に、名刺交換されたりとか、自治会・まち協の広報誌を交換し合ったりとか、ホームページのご紹介をされたりとか、そういった姿を拝見させていただきまして私も凄く嬉しくなりました。やはり皆さんそれぞれの地域のリーダーの方だなあ～ということをつくづく感じた次第です。

大牟田市の校区まちづくり協議会の皆様方、どうもありがとうございました。(大感謝！)
今後とも、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。
本日はありがとうございました。(会場拍手)



「グループ討議・発表」 終了

Chapter 3 ふり返り

講師：長崎ウエスレヤン大学教授 佐藤 快信氏



第4回は、「他都市の視察」ということで福岡県大牟田市の方に行って来ました。視察に参加され方々 お疲れ様でした。

交通事情の関係で、現地への到着が30分くらい遅れてしまい、大牟田市役所職員の方の説明時間が短くなってしまったのは残念でした。大牟田市は、これまで町内公民館組織を中心に住民自治を進めていましたが、「校区まちづくり協議会」を立ち上げるにあたって自治会組織がないところには自治会を組織しまちづくりを進めていました。

午後は、大牟田市の自治会役員の方々と一緒になって、4グループに分かれて互いの情報交換をして頂きました。限られた時間内での話し合いでしたので、もっと話したかった、聞きたかったということもあったかと思います。いつものグループ討議の時と変わらない熱気の帯びたものでしたから。

その後、再度大牟田市を訪問する機会があり、担当職員の方から参加された大牟田市民の方の反応をお聞きすることができました。「他都市の方と話す機会はないので、すごく刺激になった。」という声が多かったようです。

まちづくりの仕組みが違うこともあって、戸惑いを覚えたかもしれませんが、住民自治において自治会という存在は重要であるということは理解いただけたかと思います。

また、まちづくりを進めていくにあたって、地域で活動するさまざまな市民グループとの連携・連帯も重要であることも気づかれたかと思います。

制度や地域性は違っても、「住民として住んでいる地域を住み良い町にしていこう、そして皆と共に行動していこう」とする点は共通しているはずですね。このような機会をまた持つことができ、その後の互いの成果を話せることができれば良いですね。

第5回は、「役員の話」ということで、役員の体制、役員の選出方法、次世代を巻き込むということを軸に皆さんと考えていきたいと思います。

では、またお会いしましょう。

「ふり返り」 終了

第5回 役員の話（グループ討議）

～次世代を巻き込むために～

Chapter 1 白熱教室 Part I

役員の話：役員体制・選出方法

(佐藤先生)



皆さん、おはようございます。

おはようございます！

良かった……関さんと大峰さんが来てくれて。…というのが第一声になっちゃいましたけど（笑）、いやあ、今日は1班・2班がちょっと少ないので、気になっておりました。個人名を出すのもなんなんだけど、関さんが第一回的时候に、来るのが嫌だと言ってからずっと気になっていたんです。今日とうとう、もう駄目かなと思ってしまって……良かった、来てくれて。

はい、あの～、本当に大牟田の視察に参加された人はお疲れさまでございました。

大牟田の視察もさることながら、その後長崎に戻ってきてからの……『意見交換会』ですか、そちらの方がかなり盛り上がったというか。そういう意味では色んな意見がどんどん出て、最後はいつになったら終わるかなあと。

終わるところになると、「ハイッ！ 私もちょっとしゃべらせろ！」というような感じになりましたね。それで私は汽車に乗り遅れそうになってしまって、酔った体で長崎の街をちょっと歩くことになりました。

参加されなかった方は、ちょっとその辺のところはわからないかと思えますけれど、今日のグループ討議の中とかですね、そういったところで、雰囲気とか、こういった話が出たんだよというようなこととか、お尋ねになったらいいと思います。

この講座も6月にスタートしてから数えていくと、約6カ月くらいになるということですが……グループのそれぞれの皆さんのお名前は、名札無しでも「〇〇さん」と言えるようになりましたか。



シーン…

……あれ、やっぱり、最初の方がちょっと立ち上がりが遅いと思うんだよね。ところが「じゃあ話して」と言ったらあとはもうシュッシュッポッポッ、と行ってしまう。

いやあ、大牟田もね、どうなるかなと思ってたんですけど、皆さん方の熱気もくもくと……もう巻き込んでいくようなかたちで、ずーっと……本当は途中「休憩入れましょうね」と言ったんですけども、たぶん休憩無かったですよね、実際は。そんな感じで行きました。

少なくともグループの方々の顔とお名前くらいは覚えていただきたいですね。大事なことですよ。

さて、今日のテーマは役員の話ということでございます。振り返ってみますと、第一回目に自己紹介なんかをしていただいた中でも、皆さんが色々な問題を抱えているということがありました。加入の問題はもちろんですけども、役員体制というような問題も……第二回、第三回と、グループ討議をやっていったときに、たとえば役員になる方がなかなかいないとか、仕方なく、当番制のように回していますよとか。一年ごとに交代するけども、そうするとなかなかうまくつながっていかないんじゃないとか、そういった話が挙がっていました。



今日は、役員体制の話というところにある程度話題を絞りながら、話を進めていきます。前半に関しては、まさに体制について、どうかたちでそれぞれのところがやっているか、どうかたちで選出したり、担い手を確保しているのか、そういう話を、それぞれのところの実態を加えていただいたりしながら、また「うちなんかこういう工夫をしながらやっているよ」というような情報交換も含めて議論していただきたいと思います。

その後は一応……そう「一応」、休憩を入れる予定であります(笑)。休憩が終わったら、今度は「次の世代」というもの……「参加」「加入促進」の話はしていますが、今度は「役員」に絞って……次世代をどう取り込んでいくか、そういう工夫について考えていこうと思います。

途中、どうして休憩を入れるかと言うとね、確かに話のアレもあるんですけど、一応記録をとっているからというのを考えたんですよ。

……私は JICA というところで国際協力のワークショップをやったりするんですけど、英語がなかなか通じない国もありますので、そういうときは必ず通訳者がつくんです。その方が……たとえば私が1時間半ずっとしゃべり続けると、通訳の方はもうバテちゃうんです。筆記者も含めて、そういうことがありますので、今回はできれば45分くらいの間隔で、少し休憩をさせてあげると、うまくいくだらう、ということです。

それから、年が明けてからの話なんですけれども、最終回のこと。ちょっとさっき話がありましたけれども、会場が、向こうのホールということで……先ほど見てきたんですが、なかなかすごいですね、座席がこう、せり出すんですね……そこで、第一回、第二回、第三回……と振り返りながら、話を進めて、フロアとのやりとりも行っていくというようなやり方です。

そこで、各班から、私のお相手をしていただける方をお一人選んでいただいて、その方と壇上で振り返り……たとえば各班ではこんな話が出ましたね、というようなことを含めながら進めていきます。ですので、今日は議論を始める前に、最初に、誰が私の相手をしていただくのか……一応、聞いてみますけど、私の相手、嫌じゃないですよ？（一同笑）

……これでシーンとなったらショックですけど、笑い声が出たのでセーフですねえ。よかったよかった。

ということで、その方を一人お決めいただいてから、議論させていただきます。でないと、役員の話、始まっちゃったら、ダーッとになって、決めるのを忘れちゃいますからね。ぜひ、その点、お願いします。



さあ、それではですね、それぞれの、だいたい時間的に……さっき私は討議と言いましたが……当初は私の「白熱教室」という違うかたちになっていたんです。けれども、皆さん方の白熱した討議のほうがそれらしくなると思いますので……とりあえず、これで行くと……

あとで「うちはこんな話出たよ」という時間も取りますので、とりあえず30分区分切ってみましょう。45分まで議論していただこうかと思います。と言っても、また延ばしちゃうんですよ。ハイ、そしたらですね、それぞれ……ちょっと、みなさん大丈夫ですか。まだテンション低い感じですけど……ちょっと、私、今オタオタしてます。大丈夫ですか……じゃあまずはそれぞれグループの中で「元気ですか？」みたいなところから始めてください。

あと、空間があいている感じでしたら、場所を移動して、まとまっても結構ですからね。じゃ、それじゃあ、早速行きますか？

大丈夫？ 元気？



大丈夫そうですね。それじゃあ、

- ・自分のところがどういう役員の構成でやっているか
- ・どうやって役員を選んでいるか

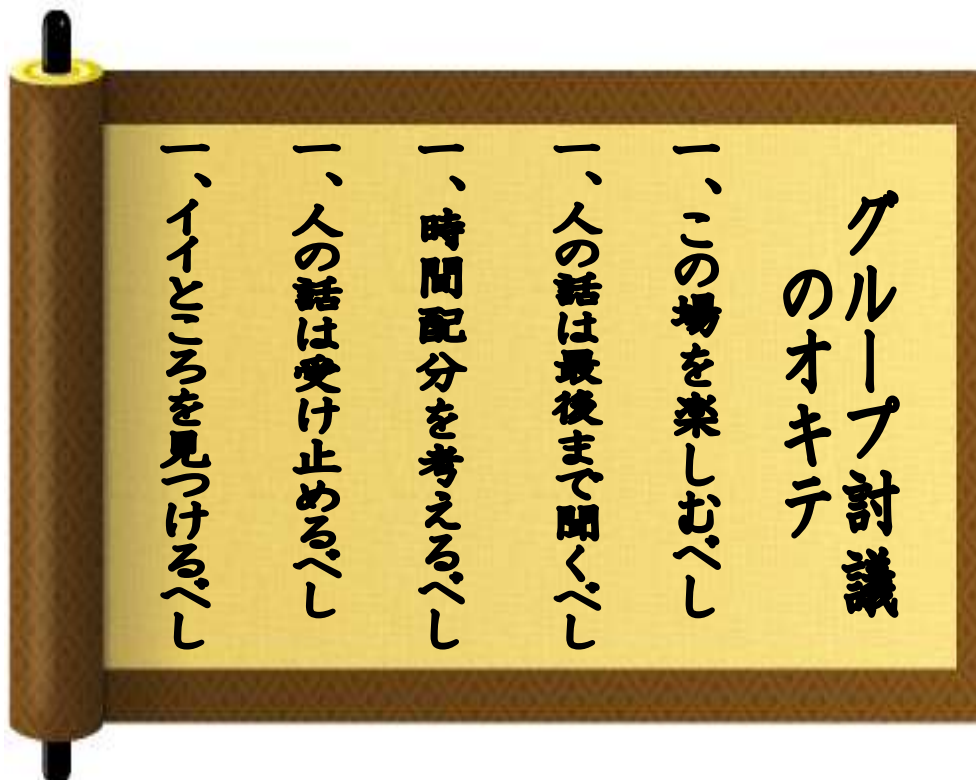
少しずつそれぞれの状況をお話ししていくところから始めていきましょうか。

「白熱教室 Part I」 終了

Chapter 2 グループ発表 Part I

テーマ：役員体制・役員選出の現状

5つの班に分かれて、グループ討議（20分程度）
の後、各代表者による発表がありました。



2 班代表 大峰 光信 さん (さくらの里 1 丁目第 1 自治会)

うちの班では、役員になりたがらない理由ってなんなのかなという話がちょっと出た中で、ある自治会長さんがご自分の自治会の話がされましたので、ご紹介します。

その自治会では、毎年輪番で、入居順に、役員を決めているそうです。ですから会長さんも一年だけすればいいのかなと思っていたそうですけれども、会長になったとたん、公民館のポストの中に、匿名で封書がいくつか入っていたとのこと。

そこには、「会長へ」と。「このようなことをどうして勝手に決めたのか。他の役員さんは大変御苦労さま」と。そういう封書が、三通くらい入っていたそうです。

次の月にも、ちょっと清掃のときに、御苦労さまということでジュースを配ろうかということを決めて、配りだしたら、また匿名で「ジュースを配るといのは、いったい会計のどこに書いてあったのか」と。「そのようなことをどうしてお前は勝手に決めたんだ」と。

こういう苦情がだいたい二、三カ月に一回は、匿名で入ってくるそうです。これをズキズキしながら会長さんは毎月読まれていると。とても他の役員さんには話としてはちょっとはしますけれども、それを見せたりとかはあまりやっていないそうです。どちらかといえば愉快ではないハガキを読まなくてはならないということになるので、こういうのが役員になると大変なんだなと。だから歴代の会長さんは次の年も続けてやろうとは言わなかったんだらうな、ということを感じておられたそうです。



4 班代表 山口 明 さん (鶴の尾町自治会)

うちのほうで一番問題になったのは、役員の任期、それから班長さんのものです。最前線の実動部隊である班長さんの任期が短くて、ほとんど1年。どうかすると、三役も1年というところがあるので、方針とかもなかなか続いていかないというところです。

後継者づくりということになろうとは思いますが、卑近な例として私のところを紹介しますと、年に一回は市民大清掃で、これはもう自治会の全員が出てこないといかん。350世帯くらいの自治会で、270人くらいは、まあ出てきます。その中で今度は、階段のペンキを塗ろうや、斜面の草刈りをしようや、と呼びかけた段階で、40人くらいが出てきます。そしてまたうちは「助っ人隊」ということで高齢者の生活支援をしておりますので、それを呼びかけて、隊員がほしい17人くらいと。

みんなで取り組む市民大清掃は別として、地域サポーターの40人とか、ほしいボランティアとかに関心がある方。そして助っ人隊。考えると、こういう人たちが後継者の候補になるのかなということです。だから、出てきた人は必ずメモをとっておく。何かあるときには、その人たちにピラを配ったりとか。

若手がなかなか出てこないという問題もありますが、それはやはり先輩である私たちが背中を見せなきゃならんのではないか、愚直にやる以外にないんじゃないか。そうしてどこかで気づいてもらおうということです。

昨日なんかも、助っ人隊で母上の介護をされている方の、男性ですけども、なかなか家の周りの手入れも行き届かないということで、三人ばかりで草刈りなんかをやってきたわけですが、外で作業をするわけですから、周りから姿が見える。こういう姿を見てもらって、気づいてもらうということです。愚直にやって、どこかで気づいてもらう以外には無いんじゃないかな。

あとは若い人にどんな姿勢を見せるか。子供を引っ張り込むのが一番だと思いますね。これは班でも共通した意見のようでした。どういったかたちで引っ張り込むかといえば、たとえば公園でキャンプなんかをやったら、結構子供の参加があって、親御さんも一緒についてきます。あとは自治会で人材バンクをつくっておくといいですかね。こちらの田中さんなんかは、もう電気関係は専門ですよ。昨日もハンダ付けの補助をされましたし。そのほかにも色々な人の情報を把握しておくといいんじゃないかと。

あと、私としては、「鶴の尾映画館」というのを考えています。プロジェクタを予算組んで買う予定にしています。すでにDVDは、昭和30年代の映画から、アニメまでほしい揃えています。そうすると、高齢者も昔の片岡千恵蔵とかなんとかを観たりとか、原節子が美人やなとか（一同笑）言って喜ぶますし。子供もアニメを観て楽しい。あと班長さんたちには、やはり勉強してもらいたいこともありますので、そういう内容の短いDVDを用意するとか。

あとはタイムカプセルですね。小学校を卒業する子供たちに、「20歳になった私へ」ということで、手紙を書いてもらおうかなと。これを成人式の日にかける。子供も自治会の一員なんだなという自覚を持ってもらおうというわけです。ちょっとまとまりはつきませんでした。こんなことを考えました。

3 班代表 浦川 雅充 さん (錦町中河内団地自治会)

3 班ではまず会計の話が出まして、とにかく会計の任期が長いのも問題なんじゃないかということがありました。うちではもう6年されている方がいるんですが、周りからもブーイングが出るような状況で。さすがにこういった場合はある程度変えていかなきゃいけないね、ということです。

あとは会計と合わせて監査の話がありますが、松島会長の方から、やはり監査は専門的なところがありますので、元会計とか、そういった方に続けてやっていただくというやり方がうまくいくんじゃないかな、という話がありました。

次は任期の話ですね。だいたい3年ぐらい、とかいう話ですけど、結局は、引き継ぎ。引き継ぎ者が分かるような仕事をしないとよく分からないということで、うちの自治会でもあまり引き継ぎがうまくいっていないという現状もありまして、たとえばまとまった資料をボンと渡されても分からない。逆に口頭でちょろっと言われて終わりというのも大変。

ここで自分の家の話をさせていただきますと、小学校の父親クラブというのをずっとやっているんですけども、その前任の方が、「一年の流れ」みたいなわかりやすい資料をまず一枚渡してくださって、各行事ごとにまた別の資料があるんですが、それも次の人が見てとても分かりやすいような構成になっていて、非常に助かりました。

あとは自治会自体のやりがいを感じてもらうにはどうすればいいかということで、それは逆に任期が短くとも良いのではないかと、一年を一生懸命……まあ松島会長が考えていたんですけども、考えてみれば自分も、毎年毎年、班長は変わってるんですけども、そんな中でも自治会に興味を持たれた方は忘年会とかにも来てくださって、一年の任期でも、自治会に携わることによって、興味を持ってもらう、人材を拾い上げるという意味では、班長あたりの任期は一年でも悪くないんじゃないか、という結論になりました。簡単ではありますが、3班はこんな感じです。



5 班代表 森 洋二 (地域コミュニティ推進室)

5 班では、皆さんに一樣にお話をさせていただいているときに時間がきてしまいましたので、私がかいつまんで全体の流れをお話いたします。ここは本当にバラエティに富んでいまして、歴史のある自治会、団地を造ったときから一気に始まった自治会という 2 種類の団体があったものですから、話が盛り上がりました。

歴史のあるところでは、そもそも規約というものから始まっているわけではなく、後付けで規約ができたようなところもありました。さらには役員というものがなくて、会長と班長くらいしかみんなの耳には聞こえてこないよね、と、それで成り立っているようなところもありました。そこでおもしろかったのは、団地の場合は逆に規約を重視して、その規約通りに運営していくというようなかたちでした。

それと密接に関わっていくのが任期の問題で、1 年だったり 2 年だったり千差万別なんです。歴史のある自治会では、任期があっても「追認」というか、継続性ですね、そこが、総会の中でも承認されていくような、承認の形態というようなものが見られると思います。ところが新しい団地では、規約に則ってやっている場合は、あくまでも「選出」というかたちをきっちりと残し、総会でも手を上げて、民主的な手続きをやっていくようなかたちが当初からある。役員さんの部会とかも、規定はあるのですが、長い歴史のあるところでは、同じ人が兼務をしたり、長い間やったりして繋がっている。会長に対する信頼ができて、大きく任されてしまっているような面もある。そういうところが見えてきました。

非常にいい意見がぽつぽつと出たので、それだけご紹介させてください。たとえば育成協の会議などで、自分たちの自治会から、もしくはバランス良く自治会から出てるのかということが大事じゃないかなと。だから育成協の役員の方々にも、どの自治会から出ているのかが、たとえば名札を色づけして分かるようにして、地域全体のバランスを認識というところをポイントとして持つべきでないかといういい意見がありました。

他には地域の役員名簿にはご主人の名前が載っているのに、役員会に実際に出てくるのは奥さんという例。これでは責任の所在がなっとらんということで、きちんと合うように変えましたという話。

また、団地のように新しいところにあっては、部会なら部会の部員を先に決めるというやり方がありました。そしてその中から部長を選んでもらうという方法です。つまり部員がちゃんというかたちをとっています。その部員自体も、各班から、班長と役員の名を出させることで、班長の用務と役員としての用務を分けて、その役員を部会に振り分けていく。ですから数を確保して、それを積み上げていくというやり方をとっています。ちょっと歴史のあるところでは難しいですけども、なんとなく、本来の姿というのがそこにあるような気がしました。

また任期が規約できっちりと定まっているところでは、全体として継続性に乏しいという問題がありますが、そこでも、継続性が必要な事業では、また別の地域活動グループを作ってやるというような発案がありました。大変いい意見でしたので、ご紹介させていただきました。以上です。

1 班代表 木原 茂男 さん (光風台第1自治会)

しんがりでございます。1班です。

私どものほうは、4自治会の方々に出席いただいております。各自治会ごとに規模とか地域とか立場が違いますが、一つは、ここにいらっしゃる女性のところは、市営の団地ということで、ちょっと我々の自治会とは違った立場の運営をなさっておられる。

具体的には横尾の住宅の自治会の方で、全部が任期一年。会長も、副会長も、あと9棟あるそれぞれの棟長、そして班長も、一年ごとによっていく。いわゆる持ち回りの選出方法で、一年間通してなさるといふことだそうです。

ただ、団地の中には古株がいらっしゃるわけですね。生き字引みたいなベテランの方が……そういう方と相談しながら、一年間運営をしていく。運営自体はうまく行っているでしょう、まあいろんな小さな問題はあることではございますが、そうやって頑張っておられると聞きました。

それから小田さんのところですけども、規模が大きいので、組織自体は、班は58もあるそうです。人数が多いわけですので、各会長、副会長、そして専門部長というのが10人くらいいらっしゃるって、その下に補佐する6名の運営委員というような組織で、運営なさっていました。それから月に一回は最低、部長会、その下の班長も入れる運営委員会、これは60人くらいの役員が出席するそうですが、月に一回例会をなさっているというようなことでございます。

それから私どもは光風台の1丁目なんですけれども、組織自体は、約570～580世帯くらいなんですけれども、スマートな組織だと思っております。任期2年、役員が会長を入れて17名くらい、あとは班が40班くらい、月一回の役員会、例会、そして班長会をやって、通達関係とお願いごとをその都度やっていくということなんです。

それからもう一つは曙の自治会の方でございますけれども、会長と副会長、副会長はここは4名いらっしゃるということで、任期が2年。

テーマになっている役員の選出方法ですけども、自治会ごとの規約のとおりになさるのが一番なんだろうと思っておりますけれども、個人的にはやはり立候補して真剣にやるような方が出てくるのがいいのかなと。ただ慣例として10年、20年、30年とやっているところもあるわけですので、そういうところには、また選挙が面倒だとか、準備に手間暇がかかるしとか、何すればいいとか、また一般の会員にもそこまで浸透するかという問題もありますので、やはりしっかり選挙をするのが理想だけでも、実際には無理だろうというのを、我々では話しておりました。役員の任期とかはもう自治会の規約に沿ってやるわけですので、どのくらいがいいかというの結論が出ていません。

まあ規則でうまく、なんでもやっていくのが一番、ボランティア的な任意団体の自治会活動じゃないかなと思っております。以上です。





はい、予定していた時間より長くなりましたけど、かいつまんでちょっとポイントだけ言わせていただきます。

一般的な組織論でいくと、難しいんですよ。組織論的にいけば、たとえば事業の継続というところでいけば、引き継ぎというのが非常に重要な問題になります。それから役員の入替えというの、できるだけ半々くらいずつ入れ替えて事業がうまく継続できるようにする。前のことをよく分かっている人、私はよく「語り部」という言い方をしていますけれども、そうした人材を確保していくというのも結構大事なことです。

まあそういうことは、どこもあるんですけども、実際には、先ほどあったように、古くからあるような自治会組織と、割と新しくできた組織では、多分対応が違ってくるはずですよ。それは何故かという、新しくできたところでは、価値観が多様であるがゆえに、ルールを作らなければならないという宿命が、じつはあるんですよ。そこで、じゃあルールに則ってやっていこう、ということで、規約というところを中心にして動いていくんだという話になろうかと思います。

まあ、いろんなケースバイケースで、結局結論というのはそれぞれのところではあるんですが、ただ、今の流れからすると、だんだん規約とかそういうものを多用していくとか、重視していかなきゃならなくなっていくかもしれません。というのも、住人の入れ替えとか、新しい構成員、4班のどこだったかな、話を聞いていると、構成員自身が勤め人であったりして、関わるのが難しいとか、そういった話が出ておりました。

それからあと、4班であったかな、「人材の発掘」というところで、やっぱり発掘の場を作っていくというのが大事だなということですね。たとえば大掃除があって、サポートする人が集まって、最後はお助け隊までやるというような。これに関連して「人材バンク」というようなことも出て参りましたけれども、それも大切だろうなと思います。

「タイムカプセル」「映画館」という話も、すごく面白くて、じつはタイムカプセルみたいなものは、「成人式のときにパカッと開けてみよう」ということで、若い世代の「地域への帰属性」というんですか、自分は地域とつながっているんだということを強く意識させるやり方で、そういう帰属性というものが、自分たちが地域を運営していくんだという、いわゆるオーナーシップというものにつながっていく。

僕らは地域づくりをやってオーナーシップとか、ウェルネスとか、いくつ、4つくらい挙げるんですけども、その2点をよくカバーする、そういうところもあるんだろうと思っています。



それからあと、任期の問題ですけれども、よくあるケースで、いわゆる「再任を妨げない」という……（一同苦笑）その善し悪しのバランスですよね。その辺のところっていうのがある。そうなってくると、お話を聴いていきますと、だんだん自治会そのものの在り方というものが、いわゆる「自治」というものが、かつてのようなある意味で名誉職的なものだったというものから、性格が変わりつつあるのかもしれないということなんです。まあその辺のバランスをどうするかということが出てくるのかなということなんです。

まとめになっているようではなっていないのですが、とりあえずちょっとここで休憩を入れます。結構気温とか低くて、乾燥してるみたいなんですけど、大丈夫ですか？ ちょっとだけ休みますから。25分からやりますね。

「グループ発表 Part I」 終了



Chapter 3 白熱教室 Part II

次世代を巻き込む



みなさん戻られたようなので……ちょっと室温が高くなってしまいましたので、温度設定を低めにして、少しドアを開けることにしました。白熱がさらに白熱しちゃって、そのうち発火しちゃったら大変ですからね。それでは後半戦、もう時間がなくてたぶん不完全燃焼になるでしょう（苦笑）。それで、次のテーマは「次世代を巻き込む」……もう若干、4班あたりで話が出ていたような気もしますが。

それとあともう一つ、先ほどは育成協とか聞こえましたけれども、「他団体との連携」というところも含めて、今日の残り時間を全部つかって、話していただこうと思います。

「白熱教室 Part II」 終了

Chapter 4 グループ発表 Part II

テーマ：次世代を巻き込む

5つの班に分かれて、グループ討議（25分程度）
の後、各代表者による発表がありました。



すみません。20分と言いながら、またオーバーしてしまいました（汗）。活性化という話で、少し難しかったという意見があったんですけども、基本的には加入促進、先ほどの前半の話から続けてもらうという形で……。取りあえず、各グループからどういう話が出たよということを簡単に発表していただきましょうか。

1 班代表 島内 賢司（自治振興課 地域ふれあい係）

1 班の中でのお話なんですけれども、次世代をどうやって巻き込むかということで、まず例としては、なかなか難しいところがあるけどもということで、自治会の旅行などに子供を巻き込むように企画をしているのだけれども、実際にはなかなか子どもの参加ができていなくて、実質的には大人だけが参加しているような状態であり、次世代を巻き込むようなことができていないということがありました。

それと、子ども会が解散するということで、自治体の中に「子ども部」というようなものを取り入れているのだけれども、そこでテコ入れとして、「青年・少年・婦人部」という、新たに婦人部も巻き込んだ部を作ったのだけれども、人材を探すのにたいへん苦勞しているということもあっております。

それから自治会の活動というのはやはりボランティアが大前提なんですけれども、やっぱり一般の人を巻き込む中で、利害・損得を求めよう方もいらっしゃるの、なかなかそういった方々に関しては、難しいものがあるようです。とくに若い人を巻き込んでいきたいのだけれども、実際のところ、若い人たちは、大変忙しい。共働きというかたちが多いので、なかなか行事に参加してもらうのも難しいという話があつておりました。

最後に、自治会と育成協という話も出たんですけれど、「一緒になって活動すべきところなんだけれども、育成協の役員をしながら自治会を辞めたというような方もいて、ちょっと腹立たしくしているのだけれど、皆さんのところではどうでしょうか」というご意見もあつております。



5 班代表 梶 聖悟 さん (竹二自治会)

どうも5班です。うちは「1年間で交代することもいいことだ」ということですね。地域を知ってもらうために自治会をやる。自治会の役員さんをやる。それで1年間一生懸命やってみたら、もし継続的になにかやりたい人がいれば、それで終わるのではなくて、別の団体を作って、そちらで続けて自治会活動をやらせてもらおうということなんです。

それが一つと、夏休みを利用して、いろいろ、ラジオ体操とかやっているところにも自治会長さんたちが顔を出して、子供たちや若いお父さんお母さんが来たときに、積極的に仲間になるとか、住んでいる地域でスポーツ大会をやるときには若者が参加するので、その時も自治会で一緒に行き応援をしたりとか、勝ったり負けたりしたら泣いたり喜んだりして、仲間を探すということ。

それと、地域でいろんな所の掃除をするのも、自治会とかいろんなところで役割を分担をしながら、やっていく。そこでまた育成協とか PTA とかの話になったんですけども、そういうところにも、行事のときには自治会長さんたちをお願いをして、来て、見ていただいて、そのときに、呼んだ方の PTA のお父さん、お母さんたちも感謝しながら、来た方の自治会長さんもがんばってるんだな、とそこで接点を結ぶ、接点を見つけないと、なかなか若い世代との接点が無い。

若い世代は「自治会に入ってもいいな」とは思っているけど、実際には、親とかも含めてなかなか自治会とのつながりがないので、そもそもきっかけがないので、きっかけを作るためにも会長さんたちに来ていただいて、お友達のようになっていただければいいのではないかなあ……まあ他にもいろいろあったんですけど、まあこういうことです。はい。



2班代表 冨増 清志 さん (光風台第2自治会)

一言だけということですので、協力したいと思います。

えーと、役員になりたい人、立候補する人は、まあ、まずいません。そこで、どうやって人材を見つけるかというのは、やはり班長会で素晴らしい発言をしてくれる人、あるいはいろいろな行事をやったときに、目立った活躍をしてくれる人を「一本釣り」してくるのが一番いいのではないかというお話になりました。

じゃあ自治会の役員というのは大変じゃないかということで、自分はこんなことできません、なんていうことになりますので、一番簡単な役職から経験していただく、これで一緒に活動してもらって、各専門部の仕事を分かってもらえる。それから役員に格上げしていくという「だまし」(苦笑)を使うと言ったら、ちょっと先生から聞かれて、「それはだましではなくて、ハードルの低いところの役員をまずさせるということですよ」というアドバイスをいただきました。こういう呼び方のほうが確かに正解かなと思いました。

他の団体との連携ということですが、もう同じように、育成協だとか、民生委員だとか大事な連携はあるんですけども、どうも、なぜかここが深まらない。1班も2班も言っていたように、どうも深まらないんだよなあ。なぜだろうなあ、というところは、……次のお楽しみにして。



3 班代表 本庄 祐子 (自治振興課 地域ふれあい係)

3 班では、まず、育友会がらみの人たちが、結構ボランティア意識を持った人という意味でも、人とのつながり、協力者を持った人という意味でも、その後自治会で活躍できる要素を持っているんじゃないか、そういう方々を早めに役員に引き込む仕組みを作ることが得策じゃないかという意見が出ました。

あと、若い人が就職して県外に出て行くんですけど、それでも定年後は帰ってきたいという思いが残るまち、自慢できるまち、そういうものをつくるのが私たちの使命じゃないのかという話がありました。

もうひとつ、人材の掘り起こしに関して、もっと地域に埋まっている人材があるんじゃないかということ、いろいろな場を設定することで、それぞれの分野に詳しい人が見つかったりして、人材の掘り起こしができるんじゃないかと。もう一つは鶴の尾自治会のほうですけども、名簿に、得意なこと、趣味、職歴といった情報を、もちろん公開しないという前提で、データベースとして集めて、イベントなどのときにはそれに沿って活躍してもらうことができますし、興味無いイベントに来いと言っても来ないからということ、何に興味があるんだろうということを自治会が把握するのは良いんじゃないかと思います。

面白いアイデアが一つですね、浦川会長のところでは、市民大清掃の後にそうめん流しをするということです。竹を切ると大変なので雨どいを使うという話ですが、子供たちが喜んで来るんだそうです。そういう楽しく参加できる場の設定をすることも必要なのではないかなということです。



4 班代表 山口 明 さん (鶴の尾町自治会)

まあ、いろいろ出たんですがまとめ切れません。

個人的なことと言えばですね、私は今自治会長をやっていますけれども、3期6年くらいが限度じゃないのかなと思ってやってるんですけども、あとは会長を辞めた後、はたして自分が今まで、根のはったような地域の活動をしてきたのかどうか。ひょっとしたら、忘れられるんじゃないかななどと思ってるんですが。

皆さんの自治会の中で、前の会長さん、前の前の会長さんは、今どうしていらっしやいますかね。

病気してます…… (受講者)

たぶん、うまく引き継ぎができたところ、後継者づくりができたところはいいんですけども、なかなか表には出てこれない、もう存在感が全くない……どうかしたら足を引っ張っている役に回った……というようなところも、あるんじゃないのかなと思います。

そういう光景を見せられたら、やっぱり役員になりたくないですよ。もう総会を開けば「総会屋」がいる、日頃は……さっきもありましたが、足を引っ張ったりする人がいるというような。

まあしかし、どんなことをやっても敵半分、味方半分かなというようなちょっと大きな気持ちでやっていかないと、絶対にやっていけないでしょうね。しかしやっぱりこう、ブレないというようなことも言われますけれども、自治会を必要としているのは、私は、高齢者なんじゃないかなと思うんですね。ですからやっぱり高齢者を自治会から脱会させないために、どうことをやるんだ、ということ考えたときに、高齢者の生活支援なんかは必要なんだと、というようなところがキーワードになるんじゃないかという感じがしております。

はたしてみなさんどうでしょうか。前の会長さん、前の前の会長さん……私なんかは、やっぱり会長を辞めても、続いていかないといけないような取り組みをしていかなくやならんなということで、すでに辞めた後のことを考えて自治会長をやっております。





最後、なんかうまい具合に回したなと思いましたが、こちらで話を聞いてて思いましたが、育成会との関係性を、自治会役員が人材を発掘する場に活用しようという言い方をされていた方がいたんですが、それが出てくるかとちょっと驚いていました。

そうすると、人材発掘した人を、じゃあどう巻き込んでいくかという中で、今度は軽い、ハードルの低いところからやって、全体の活動の流れを見せていくとか。人が集まったら、こちらの方で言っていましたが、「あと10年の人生を楽しく生きるんだから、それでも争っていくのか」というようなことで……そういう話でいいのかな。

最後なんか面白かったです。しかも「元会長はどうしているか」……その問いかけは、最終回のまとめのところに大きいテーマになりそうな気がしないでもないような気がいたします。

とりあえず講座としては今日で終わりということになります。振り返りは次回やるわけですが、たぶん皆さんがこう、なんだかんだといろんなテーマを私の方で「こういうことで話してください」ということをしても、実は話している内容というのは、割と一つのことをグルグル回っていたような気がされていたと思うんです。

実はそういうものなんですね。問題というのは、どこからどう手をつけても、結局は同じような話になってしまう。結局その大きいテーマというのは、そこに参加する人と、そしてそれを担っていく人が、お互いを認め合うところがないと、お互いやりにくくなってしまふんだということ。そして、それをまた、運動としてどう広げていくかというところが、大きいテーマになっていくんだろうと思います。

そういった辺りを、改めて、来年2月ですか、みなさんがたと、また新たに、参加させていただける方々と、話し合っていきたいなと思っています。一応今日、私の方からはこれで終わりです。お疲れ様でした。



「グループ発表 Part II」 終了



Chapter 5 ふり返り

講師：長崎ウエスレヤン大学教授 佐藤 快信氏



今回で講座は終了ということで、グループ討議は、大いに盛り上がったように思います。お疲れ様でした。

第5回では、「役員のこと」という大きなテーマでしたが、皆さんがうまく受け止めて頂き、白熱した議論になったように思います。

グループ討議のなかでは、自治会という組織の継続性の課題、具体的にはモチベーションの維持向上、何故こうしたことをしているのかという説明不足といったことが出ていたように思います。その解消法としては、役員の交代を半数ずつする方法もありますが、企画をきちんと作成し、紙などに形として残しておくことが一番良いと思います。ただし、事業の背景や目的を明確に記載されていることは重要です。作業的には大変ですが、そういったものをファイルしておくだけでだいぶ解消されます。

役員の担い手については、まず知ってもらうことからということで、比較的ハードルの低いことから関わってもらうアイデアなども出ていて参考になるのではないかと思います。いずれにしても、現在の役員さんたちが、楽しく関わっている姿を見てもらうことが大事ということも出ていたかと思えます。それぞれの地域に合った仕方を皆で考え、力まずにしていくこともあるのではないのでしょうか。

皆さんが、それぞれの悩みを抱え、それを発言することで共有され、それに関わる解決法を議論されている様子は、コーディネーションをする者としてうれしく思います。また、議論されている内容をグループを回りながら、聞かせていただくことはありがたいものでした。

その立場からすれば、できるだけ参加されている個々の皆さんが発言しやすい雰囲気作りをしてきたつもりですが、いかがだったでしょうか？うまくできていたでしょうか？

第6回では、これまでの雰囲気を進めていけたらと思っています。

「ふり返り」 終了